宮崎市文化財調査報告書　第145集

しもきたかたいせき

下北方遺跡（第４地点）

－集合住宅建築に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－

２０２４

宮崎市教育委員会

宮崎市文化財調査報告書　第145集

下北方遺跡（第４地点）

しもきたかたいせき

－集合住宅建築に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－

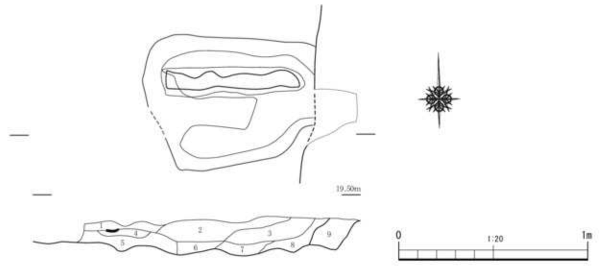
２０２４

宮崎市教育委員会

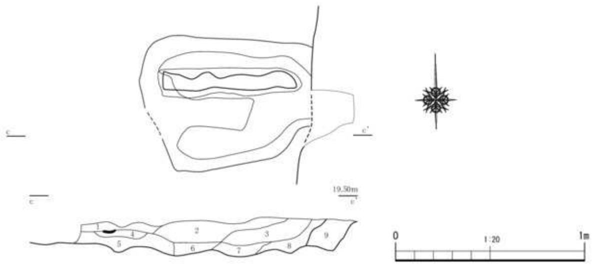
宮崎市文化財調査報告書第 145 集『下北方遺跡（第 4 地点）』正誤表

46 頁　第 61 図

誤



正



調査区遠景（日向灘を望む）

調査区空中写真（垂直）

調査区全景（南西から）

調査区南西側竪穴建物群調査状況（南西から）

序

本書は、集合住宅建築に伴い、平成30年度に発掘調査を実施した下北方遺跡（第4地点）の発掘調査報告書です。下北方遺跡では、弥生時代の環濠集落や、国の重要文化財に指定されている遺物が出土した下北方5号地下式横穴墓、平安時代の寺院と考えられる建物跡など、本市のみならず宮崎県や全国的に見ても注目される遺構、遺物がみつかっています。

今回の調査では古墳時代から平安時代にかけての竪穴建物が数多くみつかりました。この調査結果から、現在、閑静な住宅街である下北方町の一角が、古墳時代から平安時代にかけても多くの人々が住む住宅地であったことがわかりました。

今回の発掘調査で出土した貴重な文化財は、今後地域の教育や生涯学習の資料として活用して参りたいと思います。

最後になりましたが、発掘調査の実施にご理解、ご協力をいただきました事業者の皆様方、寒風が吹く中作業に従事してくださった発掘作業員の皆様方、小さな土器片を接合し詳細な図面を作成してくださった整理作業員の皆様方など、下北方遺跡第4地点の発掘調査に携わった全ての方々に感謝申し上げます。

令和6年3月

宮崎市教育員会

教育長　西田　幸一郎

例　　言

1．本書は宮崎市教育委員会が平成30年度に実施した、集合住宅建築に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2．本発掘調査は、事業者から宮崎市教育委員会が依頼を受け実施した。

工事届出（文化財保護法第93条第1項）平成30年9月19日

3．発掘調査は以下の手続きにより実施した。

着手報告：平成30年11月7日（宮教文第608号3）　完了報告：平成31年2月12日（宮教文第608号5）

発見通知：平成31年2月8日（宮教文第608号4）　保管証：平成31年2月15日（宮教文第608号6）

4．現地における発掘調査は以下の期間実施した。

発掘調査：平成30年11月1日～平成31年2月8日

5．調査組織

調査主体　宮崎市教育委員会

発掘調査

〈平成30年度〉

調査総括	文化財課長	富永　英典
	主幹兼埋蔵文化財係長	井田　篤
調整事務	主査	稲岡　洋道
調査担当	主任技師	石村　友規
	嘱託	古田　矩美子
		白上　いづみ

報告書作成

〈令和元年度〉

調査総括	文化財課長	富永　英典
	主幹兼埋蔵文化財係長	井田　篤
調整事務	主査	稲岡　洋道
整理担当	主査	石村　友規
	嘱託	船石　涼代

報告書作成

〈令和2年度〉

調査総括	文化財課長	白坂　敦
	主幹兼埋蔵文化財係長	井田　篤
調整事務	主査	秋成　雅博
整理担当	主査	石村　友規
	会計年度任用職員	德丸　理奈

報告書作成

〈令和3年度〉

調査総括	文化財課長	白坂　敦
	埋蔵文化財調査係長	秋成　雅博
調整事務	主査	石村　友規
整理担当	主査	石村　友規
	主任技師	河野　裕次
	会計年度任用職員	德丸　理奈

報告書作成

〈令和4年度〉

調査総括	文化財課長	白坂　敦
	埋蔵文化財調査係長	秋成　雅博
調整事務	主査	石村　友規
整理担当	主査	石村　友規
	主査	河野　裕次
	会計年度任用職員	德丸　理奈

報告書作成

〈令和5年度〉

調査総括	文化財課長	町田　英則
	主幹兼埋蔵文化財調査係長	秋成　雅博
調整事務	主査	西嶋　剛広
整理担当	主査	石村　友規
	会計年度任用職員	德丸　理奈

6．掲載した現場図面の実測は、石村、古田、白上がおこなった。

7．現場での写真撮影は石村がおこなった。また、空中写真撮影は、有限会社スカイサーベイ九州に委託した。

8．掲載した遺物の実測、製図は石村、秋成、河野、船石、徳丸、整理作業員が、遺物の写真撮影は石村がおこなった。

9．掲載した遺物の実測、製図の一部は有限会社ジパング・サーベイに委託した。

10. 本書で使用する土色の表記は『新版　標準土色帖』による。

11. 本書の図で使用する方位記号はすべて真北を示す。

12. 本書の執筆、編集は石村がおこなった。

13. 出土遺物および掲載図面、写真等は宮崎市教育委員会で保管している。資料の閲覧・利用等に関しては、事前に宮崎市教育委員会までお問い合わせいただきたい。

本文目次

第Ⅰ章　遺跡周辺の環境 ……………………………… 1
　第１節　地理的環境 ……………………………… 1
　第２節　歴史的環境 ……………………………… 1

第Ⅱ章　調査の成果 ……………………………… 5
　第１節　調査に至る経緯 ……………………………… 5
　第２節　調査の概要 ……………………………… 5
　第３節　古墳時代から古代の調査成果 ………… 8
　第４節　中近世の調査成果 ……………………… 53

第Ⅲ章　まとめ ……………………………… 71
　第１節　古墳時代中期の調査成果について …… 71
　第２節　古代の調査成果について ……………… 71

挿図目次

第１図　下北方遺跡周辺遺跡分布図 ……………… 2
第２図　下北方遺跡（第４地点）調査地位置図 …… 3
第３図　下北方遺跡発掘調査地点位置図 ………… 4
第４図　下北方遺跡（第４地点）全体遺構配置図 …… 6
第５図　下北方遺跡（第４地点）主要遺構配置図 …… 7
第６図　竪穴建物 47 実測図
　　　　及び出土遺物実測図 ……………………… 9
第７図　竪穴建物 47 出土遺物実測図① ………… 10
第８図　竪穴建物 47 出土遺物実測図② ………… 11
第９図　竪穴建物 47 出土遺物実測図③ ………… 12
第 10 図　竪穴建物 47 出土遺物実測図④ ………… 13
第 11 図　竪穴建物 53 実測図
　　　　及び出土遺物実測図 ……………………… 15
第 12 図　竪穴建物 53 出土遺物実測図① ………… 16
第 13 図　竪穴建物 53 出土遺物実測図② ………… 17
第 14 図　竪穴建物 53 出土遺物実測図③ ………… 18
第 15 図　竪穴建物 24・25・41・42 平面図
　　　　及び竪穴建物群土層断面実測図 ………… 19
第 16 図　竪穴建物 25 カマド実測図
　　　　及びカマド出土遺物実測図 ……………… 19
第 17 図　竪穴建物 41 カマド実測図 ……………… 20
第 18 図　竪穴建物 41 カマド実測図
　　　　及びカマド付近出土遺物実測図 ………… 20
第 19 図　竪穴建物 42 カマド実測図及び土器埋設炉
　　　　実測図、出土遺物実測図 ………………… 21
第 20 図　竪穴建物 24・25・41・42
　　　　出土遺物実測図① ………………………… 22
第 21 図　竪穴建物 24・25・41・42
　　　　出土遺物実測図② ………………………… 23
第 22 図　竪穴建物 37 実測図及びカマド実測図、
　　　　出土遺物実測図 …………………………… 24
第 23 図　竪穴建物 17・26・28 平面図
　　　　及び竪穴建物 17 土層断面実測図 ……… 25
第 24 図　竪穴建物 17 カマド実測図 ……………… 25
第 25 図　竪穴建物 17 出土遺物実測図 …………… 26
第 26 図　竪穴建物 26 土層断面図
　　　　及び出土遺物実測図 ……………………… 26
第 27 図　竪穴建物 26 出土遺物実測図 …………… 27
第 28 図　竪穴建物 28 土層断面図
　　　　及び地焼炉実測図 ………………………… 28
第 29 図　竪穴建物 28 出土遺物実測図 …………… 28
第 30 図　竪穴建物 11・12・18・36 平面図
　　　　及び竪穴建物 11 土層断面図 …………… 29
第 31 図　竪穴建物 11 土器埋設炉実測図 ………… 29
第 32 図　竪穴建物 11 出土遺物実測図① ………… 30
第 33 図　竪穴建物 11 出土遺物実測図② ………… 31
第 34 図　竪穴建物 12・18 土層断面図 …………… 32
第 35 図　竪穴建物 12 カマド実測図 ……………… 32
第 36 図　竪穴建物 12 出土遺物実測図① ………… 32
第 37 図　竪穴建物 12 出土遺物実測図② ………… 33
第 38 図　竪穴建物 18 カマド実測図 ……………… 34
第 39 図　竪穴建物 18 出土遺物実測図 …………… 34
第 40 図　竪穴建物 36 土層断面図
　　　　及び出土遺物実測図 ……………………… 35
第 41 図　竪穴建物 20・27・43 平面図及び竪穴建物
　　　　27 土層断面図、竪穴建物 43 断面図 …… 37
第 42 図　竪穴建物 27 カマド実測図 ……………… 37
第 43 図　竪穴建物 27 出土遺物実測図 …………… 38
第 44 図　竪穴建物 20 土層断面図 ………………… 38
第 45 図　竪穴建物 20 カマド実測図 ……………… 38
第 46 図　竪穴建物 20 出土遺物実測図 …………… 38
第 47 図　竪穴建物 9・10・13・16・29・35・38 実測図
　　　　及び竪穴建物 9・29 カマド平面図 ……… 39
第 48 図　竪穴建物 9 出土遺物実測図 ……………… 40
第 49 図　竪穴建物 10 断面図 ……………………… 41
第 50 図　竪穴建物 10 カマド実測図 ……………… 41
第 51 図　竪穴建物 10 出土遺物実測図 …………… 41

第 52 図　竪穴建物 13 土層断面図
　　及び出土遺物実測図……………………42
第 53 図　竪穴建物 16 カマド実測図 ………………42
第 54 図　竪穴建物 16 出土遺物実測図① …………42
第 55 図　竪穴建物 16 出土遺物実測図② …………43
第 56 図　竪穴建物 29 出土遺物実測図……………43
第 57 図　竪穴建物 35 土層断面図
　　及び出土遺物実測図……………………43
第 58 図　竪穴建物 38 土層断面図
　　及び出土遺物実測図……………………44
第 59 図　竪穴建物 5・14・19・22 実測図…………45
第 60 図　竪穴建物 5・14・22 出土遺物実測図……45
第 61 図　竪穴建物 22 カマド実測図
　　及び出土遺物実測図……………………46
第 62 図　竪穴建物 6・7・8・56
　　及び土坑 15 実測図……………………47
第 63 図　竪穴建物 6 出土遺物実測図 ……………48
第 64 図　竪穴建物 7 出土遺物実測図 ……………48
第 65 図　竪穴建物 7 カマド付近出土遺物実測図 ‥49
第 66 図　竪穴建物 8 出土遺物実測図 ……………49
第 67 図　竪穴建物 56 土層断面図 …………………49
第 68 図　竪穴建物 57 実測図 ………………………49
第 69 図　掘立柱建物 50 実測図
　　及び出土遺物実測図……………………50
第 70 図　古墳時代・古代土坑実測図 ……………51
第 71 図　古墳時代・古代溝状遺構土層断面図……51
第 72 図　溝状遺構 31・45 出土遺物実測図………51
第 73 図　古墳時代・古代ピット出土遺物実測図 ‥52
第 74 図　土坑 2・21・55 実測図及び
　　出土遺物実測図…………………………54
第 75 図　溝状遺構 1 土層断面図及び
　　出土遺物実測図…………………………55
第 76 図　溝状遺構 4 土層断面図 …………………56
第 77 図　溝状遺構 4 出土遺物実測図 ……………57
第 78 図　溝状遺構 3 土層断面図 …………………57
第 79 図　溝状遺構 3 出土遺物実測図 ……………58
第 80 図　その他出土遺物実測図 …………………59
第 81 図　下北方遺跡遺構分布図 …………………72

表目次

第 1 表　下北方遺跡発掘調査地点整理表 …………4
第 2 表　出土土器観察表①………………………61
第 3 表　出土土器観察表②………………………62
第 4 表　出土土器観察表③………………………63
第 5 表　出土土器観察表④………………………64
第 6 表　出土土器観察表⑤………………………65
第 7 表　出土土器観察表⑥………………………66
第 8 表　出土土器観察表⑦………………………67
第 9 表　出土土器観察表⑧………………………68
第 10 表　出土土器観察表⑨ ……………………69
第 11 表　出土陶磁器観察表 ……………………69
第 12 表　出土石器観察表………………………70
第 13 表　出土鉄器観察表………………………70

写真図版目次

図版 1　竪穴建物調査状況及び出土遺物① ………74
図版 2　竪穴建物調査状況及び出土遺物② ………75
図版 3　竪穴建物調査状況及び出土遺物③ ………76
図版 4　竪穴建物調査状況及び出土遺物④ ………77
図版 5　竪穴建物調査状況及び出土遺物⑤ ………78
図版 6　竪穴建物調査状況及び出土遺物⑥ ………79
図版 7　竪穴建物調査状況及び出土遺物⑦ ………80
図版 8　竪穴建物調査状況及び出土遺物⑧ ………81
図版 9　竪穴建物調査状況及び出土遺物⑨ ………82
図版 10　竪穴建物調査状況及び出土遺物⑩ ………83
図版 11　竪穴建物調査状況及び出土遺物⑪ ………84
図版 12　竪穴建物調査状況及び出土遺物⑫及び
　　掘立柱建物等出土遺物、
　　土坑調査状況 ……………………………85
図版 13　土坑及び溝状遺構調査状況及び
　　土坑出土遺物 ……………………………86
図版 14　溝状遺構調査状況及び出土遺物…………87
図版 15　溝状遺構及びその他出土遺物及び
　　調査終了時風景…………………………88

第Ⅰ章　遺跡周辺の環境

第1節　地理的環境

下北方遺跡が所在する宮崎市は九州南東部に位置する。市域の大部分は宮崎平野の南端に位置するが、北西側は九州山地、南西側には鰐塚山に代表される南那珂山地が連なる。市街地の中心には、九州第2位の流域面積を誇る大淀川が流れ、この大淀川の沖積作用により形成された沖積平野上に現在の市街地が広がっている。

下北方遺跡は、宮崎市街地北西部にあり、下北方丘陵と通称される丘陵状地形の南端とその南側に広がる段丘上に所在する。標高は20ｍから30ｍ程度であり、南側の沖積地との比高差は10ｍ程度である。段丘上には開析谷が形成されており、それを利用した溜池が複数所在する。特に名田中池として利用される谷は段丘上を東西に分断するが、今回の調査地は谷の東側に位置する。

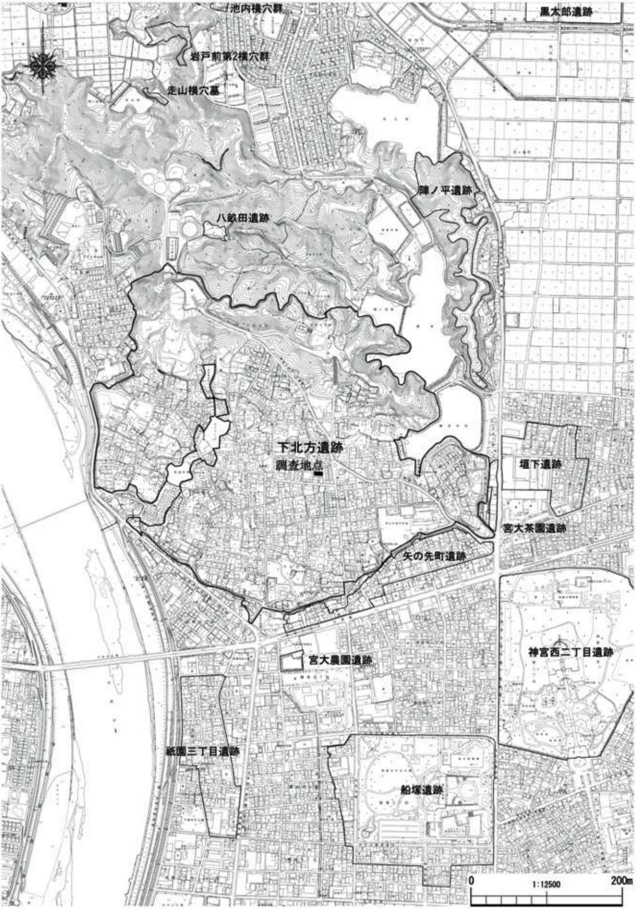
第2節　歴史的環境

下北方遺跡は宮崎市の中でも最も遺跡の密度が高い地域であり、旧石器から近世にかけての複合遺跡として周知されている。

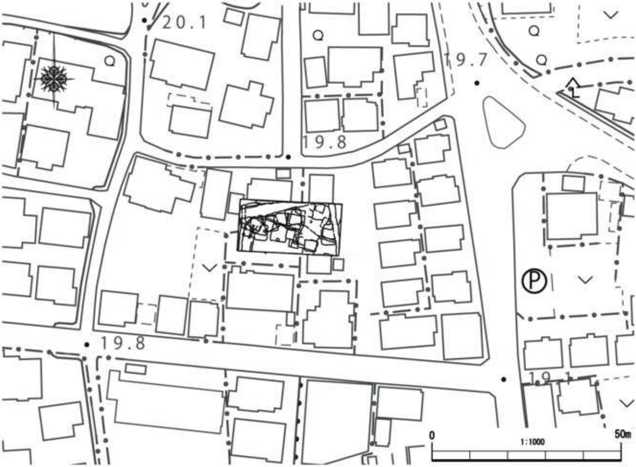
旧石器時代から縄文時代にかけては、近年調査事例が増加しており、第3地点や第10地点では旧石器時代の礫群と石器集中部が検出されているほか、第1地点では剥片尖頭器や角錐状石器などが出土している。また第10地点では縄文早期の押型文土器、塞ノ神式土器、中期の阿高式土器などが出土している。

弥生時代には丘陵東端の第1地点に環濠集落が形成される。集落の中心部は削平により失われているが、竪穴建物や貯蔵穴が多数検出された。環濠は二重に廻ることが確認されているが、二つの環濠は同時期のものではなく、出土する土器から内環濠が前期末葉頃に、外環濠は内環濠が機能しなくなった後、後期中葉頃に新たに掘削されたものと考えられている。第1地点の東側に広がる低湿地には、弥生時代中期中葉の貯蔵穴や溝状遺構、旧河道等が検出された垣下遺跡が所在する。第1地点との位置関係から相互に密接な関係が想定されており、集落域と生産域といった土地利用の実態を示す例と考えられている。

古墳時代になると第2地点において方形区画と想定される大規模な溝状遺構が検出されている。掘削年代は古墳時代前期以降と考えられており、中層に多量に廃棄された土器群は古墳時代前期末葉に位置付けられている。また同時期の竪穴建物が第2地点で1軒検出されているが、古墳時代前期については集落、墳墓共に明らかになっていない部分が多い。続く中期初頭から前葉には第5地点で竪穴建物が2軒検出されているほか、今回の調査でも3軒の竪穴建物が検出されている。中期から後期の竪穴建物は第5地点や第8地点において検出されており、第8地点では宮崎平野部最古段階のカマドを有する竪穴建物が検出されている。墳墓に目を向けると、中期前葉には大淀川を挟んだ生目古墳群での大型前方後円墳築造停止と入れ替わる形で下北方地区で下北方古墳群の築造が開始される。その後、後期前半の下北方13号墳まで大淀川下流域の中で有力な首長墓系譜となる。下北方遺跡内では現在までのと



第1図　下北方遺跡周辺遺跡分布図(S=1/12500)



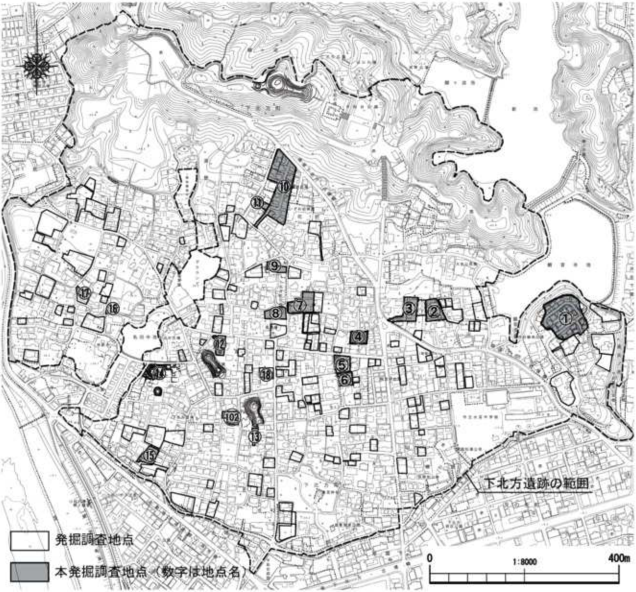
第2図 下北方遺跡(第4地点)調査地位置図(S=1/1000)

ころ、前方後円墳4基、円墳12基、地下式横穴墓30基、木棺墓1基、土坑墓1基が確認されている。群中の下北方9号墳を墳丘とする下北方5号地下式横穴墓からは、多種多様な副葬品が出土し、国の重要文化財に指定されている。下北方古墳群の築造終了後には、丘陵周辺に上北方横穴群、池内横穴群など横穴群が形成される。

古代には、第8地点において古代寺院と考えられている2棟の大型掘立柱建物や、第8地点に隣接する第7地点において「寺」の墨書土器が出土している。その他、第5地点では大型柱掘方列とコップ形須恵器が、第5地点と第9地点では墨書土器が、第10地点や今回の調査では多数の竪穴建物が確認されており、下北方遺跡が古代の宮崎郡の中心的な地域であったことがわかる。

下北方遺跡の中世の様相は不明瞭であるが、丘陵北方の池内地区には伊東氏と島津氏の抗争舞台となった宮崎城跡が所在する。文献上の初出は建武3(1336)年であり、宮崎県内では穆佐城などと並び史料上確認される最も古い城郭の一つである。島津氏の老中である上井覚兼が在城時に記した『上井覚兼日記』の詳細な記述と保存状態が良好な遺構が合わさって、中世城郭の研究上、非常に重要な存在となっている。

近世の下北方やその周辺は延岡藩の飛び地となっており、代官所が現在の宮崎市立大宮中学校付近に所在した。下北方遺跡では、各所で近世段階の削平や盛土が確認されており、この時期に大規模な土地改変を行ったことが明らかである。



第3図 下北方遺跡発掘調査地点位置図(S=1/8000)

第1表 下北方遺跡発掘調査地点整理表

地点番号	調査時名称	掲載報告書名	地点番号	調査時名称	掲載報告書名
1	下郷遺跡	『下郷遺跡』	11	下北方花切第1遺跡	『宮崎市内遺跡 発掘調査報告書』
2	下北方下郷第6遺跡	『下北方下郷第6遺跡』	12	下北方1号墳周辺遺跡	『下北方1号墳周辺遺跡』
3	下北方下郷第5遺跡	『下北方下郷第5遺跡』	13	下北方5号墳周辺遺跡	『下北方5号墳周辺遺跡』
4	下北方下郷第9遺跡	『下北方遺跡（第4地点）』	14	下北方7号墳・8号墳	昭和56、57年度調査 報告書未刊行
5	下北方下郷第4遺跡	『下北方下郷第4遺跡』	15	下北方塚原第3遺跡	『下北方塚原第3遺跡』
6	下北方下郷第7遺跡	『下北方下郷第7遺跡 下北方下郷第8遺跡』	16	下北方戸林第2遺跡	『権現町遺跡・ 下北方戸林第2遺跡』
7	下北方下郷第8遺跡	『下北方下郷第7遺跡 下北方下郷第8遺跡』	17	下北方戸林第1遺跡	『宮崎市内遺跡 発掘調査報告書』
8	下北方塚原第1遺跡	『下北方塚原第1遺跡』	18	下北方遺跡	令和4年度調査、未報告
9	下北方塚原第2遺跡	『下北方塚原第2遺跡』	102	下北方12号墳	平成15年度調査、未報告
10	下北方花切第2遺跡	『下北方花切第2遺跡』	※開発に伴う本発掘調査のみ掲載		

第Ⅱ章　調査成果

第1節　調査に至る経緯

平成30年3月28日、集合住宅建築に伴い、個人事業者から宮崎市下北方町6008-2外における埋蔵文化財の有無について、宮崎市教育委員会文化財課（以下、宮崎市文化財課）に照会がなされた。事業予定地は、周知の埋蔵文化財包蔵地「下北方遺跡群」（令和4年2月1日より「下北方遺跡」に名称変更）の範囲内であったことから、事業者と協議のうえ、平成30年6月13日に確認調査を実施した。調査の結果、古墳時代から古代の竪穴建物と想定される遺構や遺物が確認され、埋蔵文化財が良好に残存していることが明らかになった。この結果を受けて、宮崎市文化財課と事業者の間で、確認された埋蔵文化財に関する取り扱いの協議を行ったが、事業により埋蔵文化財への影響が免れない372㎡について、平成30年11月1日から平成31年2月8日まで発掘調査による記録保存を実施した。実調査日数は54日である。

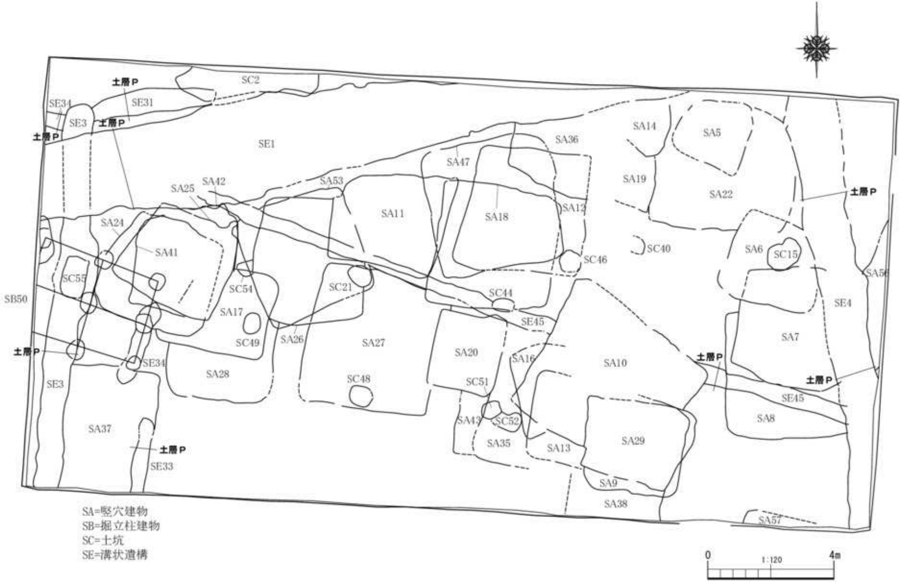
第2節　調査の概要

調査はバックホウによる表土剥ぎから実施したが、確認調査が調査区の南西側に偏っていたため、本発掘調査の表土剥ぎも確認調査によって情報が得られていた南西側から実施した。調査区は、調査以前は宅地と宅地間に営まれた畑地であったが、宅地部分については、住宅の基礎により遺構面まで攪乱を受けている部分も多く、特に調査区東側は大規模な攪乱が調査区を南北に分断していた。さらに調査区東側は宅地になる以前、畑地であった時期にトレンチャーによる攪乱を受けており、遺構検出や遺構の前後関係を検討する際に大きな障害となった。

調査区南西側から表土剥ぎを進めていくうちに、当初は下北方遺跡で散見される近世の造成土と想定された土が古代の遺構埋土であると判断され、調査区の大部分が遺構であることが明らかになった。遺構の前後関係を明らかにするため、平面精査、サブトレンチによる調査を行い調査を進めていったが、特に古代の竪穴建物は近接した位置で、埋め戻しと建て替えを繰り返しており、埋土が非常に近似していたことから限られた調査期間の中での前後関係の判断は困難を極めた。そのため一部の建物では遺物の帰属関係を明らかにできなかった部分もある。古墳時代から近世までの遺構の調査を終えたのち、アカホヤ火山灰層以下の遺構、遺物を確認するために4ヶ所のトレンチを設定し調査を行ったが、遺構、遺物は確認されなかった。

基本層序は、攪乱や近世造成土、遺構の有無によって一様ではないが、Ⅰ層（10YR4/1褐灰色砂質土、表土、25cm）、Ⅱ層（10YR3/2黒褐色砂質土、白色粘土粒、橙色軽石粒含む、造成土、15cm）、Ⅲ層（10YR2/3黒褐色シルト、橙色軽石粒含む、黒ボク土、10cm）、Ⅳ層（10YR2/2黒褐色シルト、黒ボク土、10cm）、Ⅴ層（アカホヤ火山灰層）、Ⅵ層（黒灰色砂質土:牛の脛ローム）、Ⅶ層（黒色砂質土層：黒ニガ）、Ⅷ層（暗褐色シルト層）、Ⅸ層（褐色シルト層）である。記録作業は、調査員による手測り実測、トータルステーションを用いた遺構実測、中判フィルム、35mmフィルム、デジタルカメラを用いた写真撮影作業により行った。また、調査区周辺の状況や、調査区全体を記録するために空中写真撮影を委託により実施した。

第4図 下北方遺跡（第4地点）全体遺構配置図(S=1/120)



第5図　下北方遺跡（第4地点）主要遺構配置図(S=1/120)

第３節　古墳時代から古代の調査成果

古墳時代から古代の遺構は、竪穴建物 33 軒、掘立柱建物１棟、土坑９基、溝状遺構４条、ピットが検出された。竪穴建物の分布は、南西側に空白地帯があるが、それを除けば調査区のほぼ全面で検出されている。調査区北側に位置する近世の溝状遺構１の壁面にも被熱痕跡が見られ、埋土中にカマド粘土や焼土が含まれていたことから、溝状遺構１に削平された竪穴建物が存在した可能性が高い。また、調査区北側は遺構検出面がⅦ層、南側はⅤ層であり、本来の地形は北から南へと緩やかに下降傾斜する地形であったと考えられ、北側に存在した浅い遺構は削平を受けて消失している可能性がある。

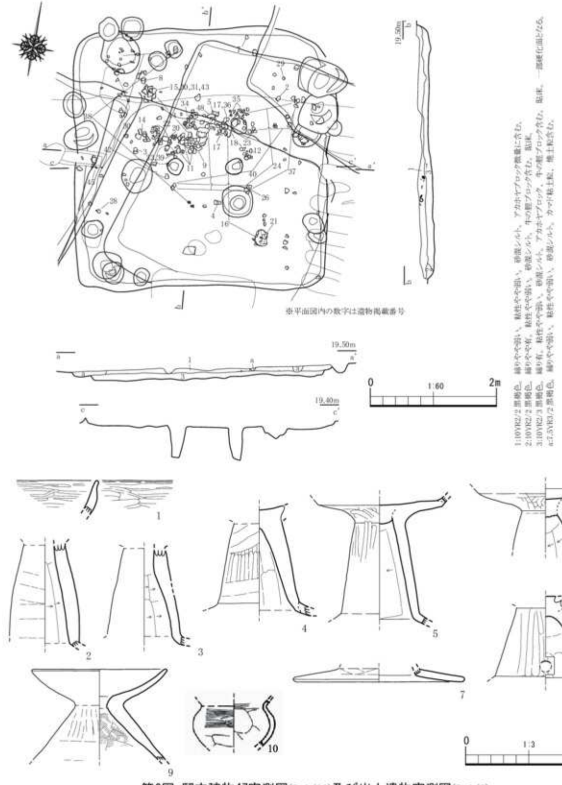
第１項　竪穴建物

竪穴建物 47（第６図～第 10 図）

調査区中央北寄りで検出された平面方形の竪穴建物である。南北方向長 4.15 m、東西方向長 4.05 m、検出面からの深さ 0.25 m を測る。床面にはアカホヤ火山灰と牛の脛ロームのブロックを多量に含む貼床が施されていた。主柱は２本で建物中央に偏って配置されている。柱穴径は約 0.25 m と小径であるが、貼床下面からの深さは東側の柱穴で 0.55 m と径に反して深い。竪穴建物 11、12、18、36 に切られており、遺存状況は良くなかったが貼床直上付近で遺物が纏まって出土した。1 は土師器坏である。内外面ミガキ調整で口縁端部が短く外反する。他の遺物と時期が異なることから混入と思われる。2 から 8 は土師器高坏である。脚柱部と坏部の接合は 2、3、5、6 が充填法による。坏部と口縁部の接合が明らかな 5 は坏部の上に口縁部を重ね接合する。7 は裾部で水平に近い角度で大きく開く。8 は脚部下位に透かし孔が開けられている。9 は土師器の布留式系Ｘ形小型器台である。10 は土師器ミニチュア壺である。体部外面上位、頸部内面に細かなミガキが施される。11 から 30 は土師器甕である。11、12 は胴部外面をタタキ後に工具ナデにより調整される。13 は口縁端部外面にユビオサエの痕が残る。14、21 は外面タタキ調整である。21 の底部付近は格子状に、胴部下位は平行から右下がり、胴部上位は右上がりのタタキが施される。15 は頸部の屈曲が弱い器形である。19、20 は布留式系甕である。24、25 は壺の可能性もある。25 は外面に赤色顔料が付着する。30 は輪台充填技法の底部片である。31、33 から 44 は土師器壺である。31 は二重口縁壺で口縁部外面に波状文が施される。38 は外面タタキ調整、39 は外面に細かなミガキ調整が施される。41 は丸底の底部を有し甕の可能性もある。32 は吉備系の土師器甕である。45 は焼塩土器、いわゆる布痕土器である。今回の調査で出土した同種の資料と比較すると、器壁が薄手で底部が丸みを帯びる。内面は風化が著しいが布痕に加え紐痕も確認できる。竪穴建物 36 出土資料と接合しており、他の出土遺物と時期が整合しないため混入と考えられる。46、48 は敲石兼磨石、47、49 は砥石であり何れも砂岩製である。

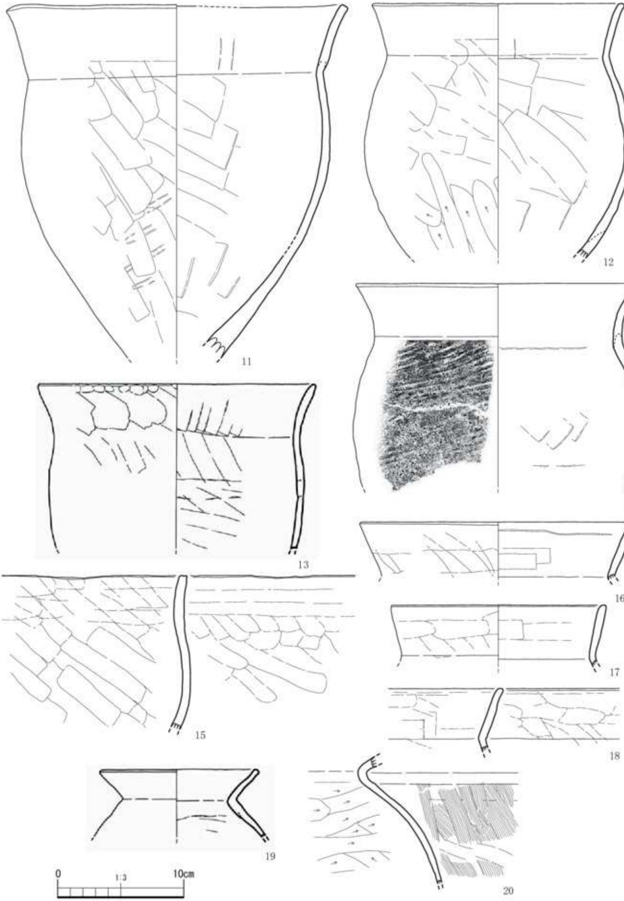
竪穴建物 53（第 11 図～第 14 図）

調査区中央やや西寄りで検出された平面方形の竪穴建物である。北西から南東方向長 3.6 m、北東から南西方向長 3.64 m、検出面からの深さ 0.3 m を測る。床面にはアカホヤ火山灰、

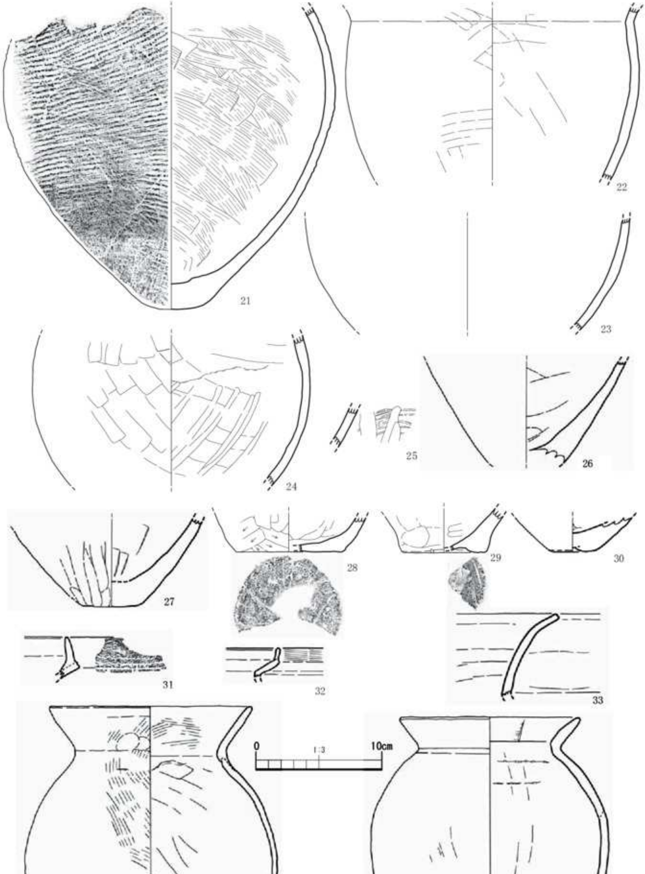


第6図 竪穴建物47実測図(S=1/60)**及び出土遺物実測図**(S=1/3)

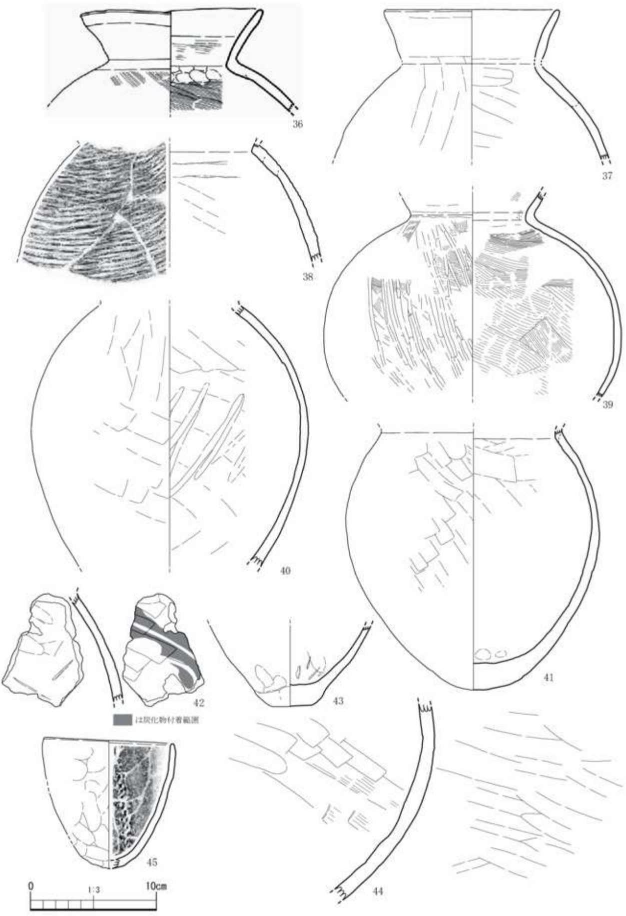
牛の脛ローム、黒ニガのブロックを多量に含む貼床が施されていた。主柱は2本で建物中央に偏って配置されている。柱穴径は0.27 mで貼床下面からの深さは0.45 mである。竪穴建物11、17、26、27、土坑21、54、溝状遺構45に切られている。遺物は貼床面付近と貼床面からやや浮いた位置から出土した。50は土師器坏である。内外面ミガキ調整で口縁端部がやや外反する。51から57は土師器高坏である。脚部と裾部の境界は屈曲が明瞭な資料が主であるが53は脚部と裾部の境界が不明瞭でスカート状に開く。54は長脚の高坏で裾部が水平に強く開



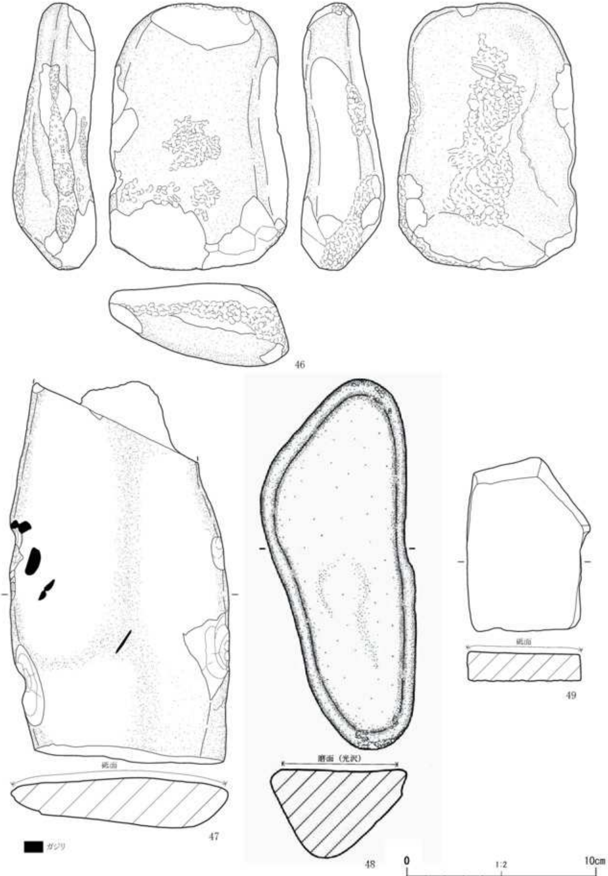
第7図 竪穴建物47出土遺物実測図①(S=1/3)



第8図 竪穴建物47出土遺物実測図②(S=1/3)



第9図 竪穴建物47出土遺物実測図③(S=1/3)



第10図 竪穴建物47出土遺物実測図④(S=1/3)

く。57 は伝統的近畿第Ⅴ様式系の高坏脚部で中実脚台である。58 から 71 は土師器甕である。58 は成川式土器甕である。口縁部はやや外反し、頸部に刻み目をもつ突帯が貼り付けられる。59 は外面タタキ調整の後に工具ナデを施している。60 は外面をタタキ調整される。69 は丸底の底部で外面はタタキ調整の後にケズリ調の強いナデが施される。70 は丸底の底部で外面タタキ調整の後ハケ調整が施されており搬入品と思われる。71 は布留式系土器片で胎土から搬入品と思われる。72 から 79 は土師器壺である。74 は小形の広口壺、76、77 は二重口縁壺の口縁部である。77 は一次口縁上に二次口縁を乗せ接合している。79 はミニチュアの壺である。80、81 は土師器鉢である。82、83 は須恵器甕である。土師器の時期と整合しないことと出土位置から、本来は竪穴建物 26 に帰属する遺物と考えられる。84、85 は砂岩製の敲石である。84 は一部に煤が付着し光沢がある。86 は凝灰岩製砥石である。一部被熱により赤化し鉄分が付着している。

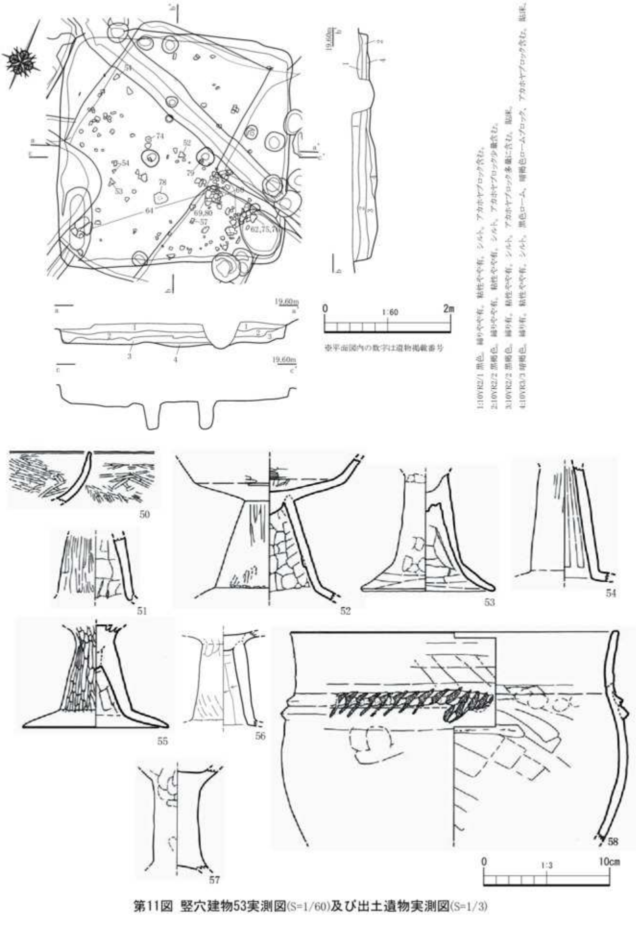
竪穴建物 24・25・41・42（第 15 図～第 21 図）

調査区西寄りで検出された竪穴建物群である。4 軒の建物を纏めて報告するが、建物掘方底面の状況や竪穴建物 41 と溝状遺構 1 との間で僅かに古代の竪穴建物埋土に類似する埋土が検出されたことから、更に複数軒が切り合っていた可能性もある。近接する位置で埋め戻し建て替えを繰り返した結果、何れの竪穴建物埋土もアカホヤ火山灰粒、焼土粒、カマド粘土粒を含む非常に近似した埋土となったため、前後関係を明らかにすることが非常に困難であった。検討の結果、カマド位置とカマド残存状況、土層堆積状況から、竪穴建物 25 →竪穴建物 42 →竪穴建物 41 →竪穴建物 24 の順序で建築されたと判断した。出土遺物については、現地では各々の竪穴建物で取り上げを行ったが、整理作業の段階で異なる建物間で接合する資料が多く見られたことから、カマドやその周辺で出土した確実にその遺構に伴うもののみ弁別し、その他の出土資料については一括して報告することにした。

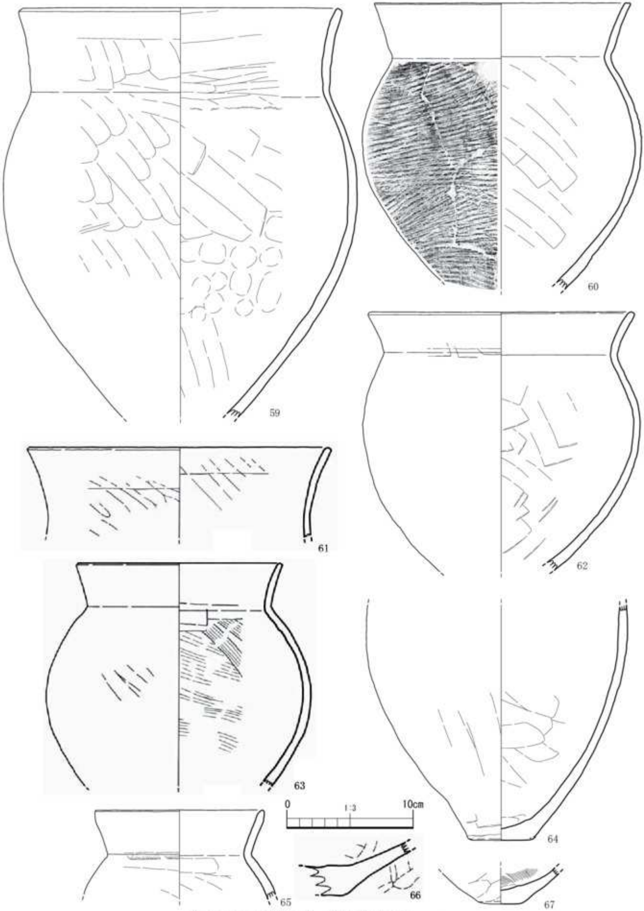
竪穴建物 24 は平面隅丸方形の竪穴建物で、北東から南西方向長 3.25 m、北西から南東方向長 3.6 m を測る。カマドは建物廃棄の際に完全に破壊されたと想定され、カマド粘土が不整形に広がる状況が検出された。カマド粘土が検出された位置から建物北壁西寄りにカマドが造りつけられたと考えられる。

竪穴建物 25 は平面方形の竪穴建物と考えられ、北壁に造りつけられたカマド残存部の北端から建物南壁までの長さは 3.22 m を測る。カマドは北壁西寄りに位置するが、奥壁が溝状遺構 1 により削平されているため煙道の形状は不明である。両袖についても後続する竪穴建物に削平されており特に左袖はほとんど消失している。遺物は燃焼部や袖周辺で出土した。87 は土師器坏である。88、89 は土師器甕である。88 は頸部が「く」の字状に屈曲し、89 は外底面に木葉痕が残る。90 は布痕土器である。浅い砲弾形の形状で口縁部は三角形を呈する。

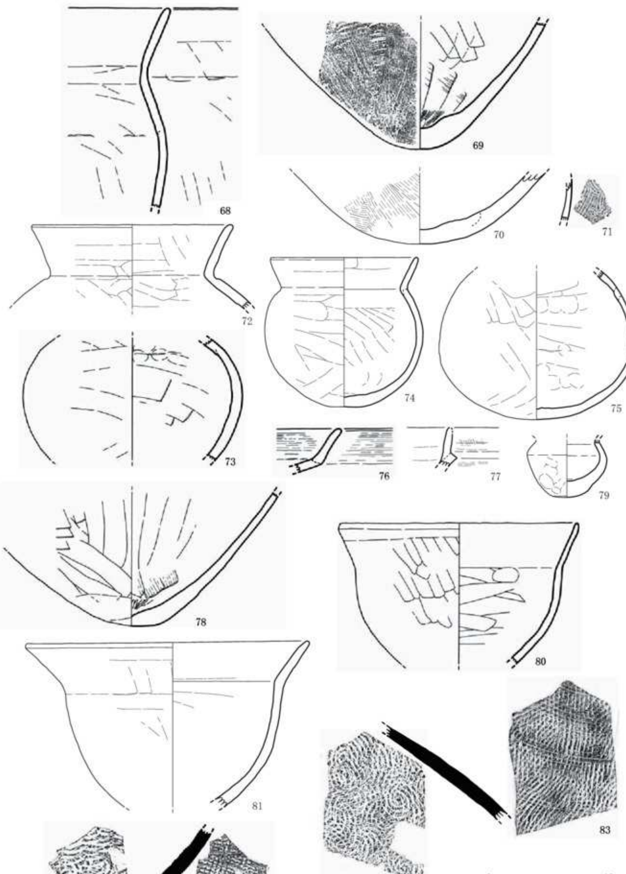
竪穴建物 41 は平面方形の竪穴建物であり北東から南西方向長 3.3 m、北西から南東方向長 3.0 m を測る。北壁東端付近に煙道付カマドが造りつけられていた。カマド天井部は崩れていたが、袖の残存状況は比較的良好であった。燃焼部奥壁は住居壁体を掘削して構築し粘土の使用は見られない。燃焼部に炉体土器として完形の土師器甕が埋設されており、特に炉体土器よ



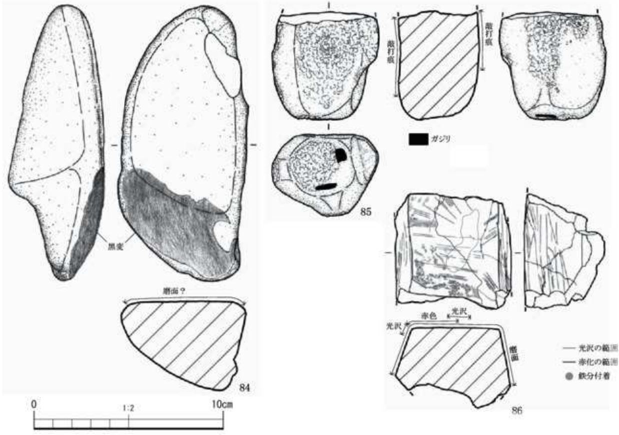
第11図 竪穴建物53実測図(S=1/60)及び出土遺物実測図(S=1/3)



第12図 竪穴建物53出土遺物実測図①(S=1/3)



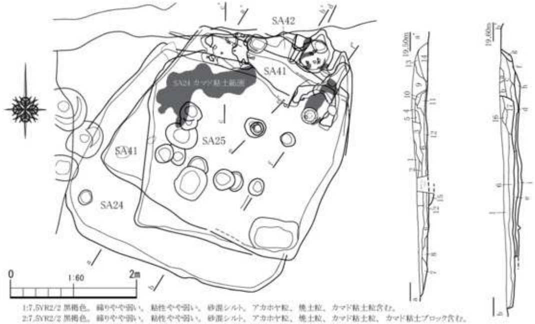
第13図 竪穴建物53出土遺物実測図②(S=1/3)



第14図 竪穴建物53出土遺物実測図③(S=1/2)

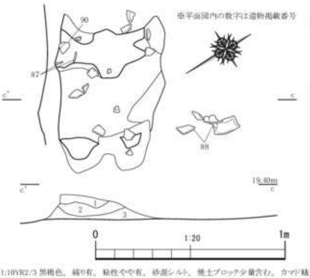
り奥の燃焼部床、袖、煙道入口付近が被熱により赤化していた。煙道床面は煙出しに向け20°で上昇する。形態から今塩屋分類Ⅱc類に分類される。遺物は燃焼部と左袖付近で主に出土した。91、92は土師器坏である。91は体部外面に一条の沈線が施される。形態から須恵器坏Gの模倣と思われる。93、95から97は土師器甕である。96はカマド炉体土器であり、外面は被熱により赤化し内面には水平方向に黒変が見られる。この煤より下位は使用時に土が入っていた（第17図炉体土器内2層）と想定される。94は黒色土器の坏で内面にのみ炭素を吸着させたA類である。98は須恵器坏蓋である。

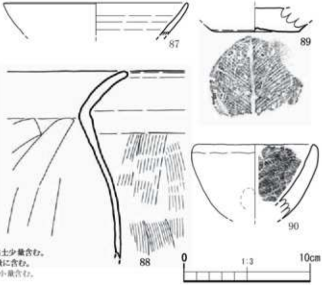
竪穴建物42は大部分を竪穴建物41や溝状遺構1に削平されており、カマド付近と竪穴建物41貼床下から検出された土器埋設炉が残存していたのみである。カマドは建物北壁に造りつけられ、煙道部が僅かに突出する今塩屋分類Ⅱeに分類される。燃焼部奥壁は住居壁体を掘削して構築し粘土の使用は見られない。遺物は燃焼部から出土している。土器埋設炉は建物中央付近に位置すると考えられ、土師器甕の口縁部と底部を打ち欠き炉体としている。掘方は平面形が歪な楕円形を呈しており炉体土器は北西側に偏って配置されている。掘方を掘削したところ炉体土器がない南東側にも下端が存在することから、当初はこちらに炉体土器を据えていたが、炉体土器の欠損等何らかの理由により検出時の位置に据替えたと考えられる。99は土師器甕で土器埋設炉の炉体土器である。外面を格子タタキで調整する。100はカマド燃焼部から出土した須恵器高台付坏で底部端に高台を貼り付ける。101から106は土師器坏である。101は内外面ミガキ調整で口縁部端部を摘まみだす。103から106は回転台成形の土師器坏で104から106は底部をヘラ切で切り離す。107、108は小形の土師器鉢である。109は布痕土器である。



1:7.5YR2/2 黒褐色。締りやや弱い。粘性やや弱い。砂混シルト。アカホヤ粒、焼土粒、カマド粘土粒含む。
2:7.5YR2/2 黒褐色。締りやや弱い。粘性やや弱い。砂混シルト。アカホヤ粒、焼土粒、カマド粘土粒、カマド粘土ブロック含む。
3:10YR6/6 明黄褐色。締り有。粘性やや有。粘土。カマド粘土主体土。カマドを壊した際の堆積か。
4:10YR2/2 黒褐色。締りやや有。粘性弱い。砂混シルト。カマド粘土多量に含む。
5:10YR2/1 黒色。締りやや有り。粘性弱い。砂混シルト。焼土粒少量含む。
6:10YR2/2 黒褐色。締りやや弱い。粘性弱い。砂混シルト。焼土粒、カマド粘土粒含む。
7:10YR2/1 黒色。締りやや弱い。粘性やや弱い。砂混シルト。アカホヤブロック含む。
8: アカホヤブロック主体土。
9:7.5YR2/2 黒褐色。締りやや有。粘性やや弱い。砂混シルト。焼土粒、カマド粘土粒含む。
10:7.5YR2/1 黒色。締りやや弱い。粘性やや弱い。砂混シルト。カマド粘土ブロック多量に含む。焼土粒含む。
11:10YR6/4 黄橙色。締りやや有。粘性やや有。粘土。カマド粘土。一部被熱により赤化。
12:10YR2/3 黒褐色。締りやや有。粘性やや弱い。砂混シルト。アカホヤブロック少量含む。
13:7.5YR2/2 黒褐色。締りやや有。粘性やや弱い。砂混シルト。カマド粘土粒、焼土粒多量に含む。
14:10YR6/4 黄橙色。締りやや有。粘性やや有。粘土。カマド粘土。一部被熱により赤化。
15:7.5YR2/2 黒褐色。締りやや有。粘性やや弱い。砂混シルト。アカホヤブロック含む。
16:7.5YR2/3 極暗褐色。締りやや有。粘性弱い。砂混シルト。カマド粘土多量に含む。
17:7.5YR2/2 黒褐色。締りやや有。粘性やや弱い。砂混シルト。カマド粘土多量に含む。
a:7.5YR2/2 黒褐色。締りやや有。粘性やや弱い。砂混シルト。カマド粘土多量に含む。
b:7.5YR3/1 黒褐色。締りやや有。粘性やや弱い。砂混シルト。カマド粘土粒含む。
c:7.5YR2/2 黒褐色。締りやや有。粘性やや弱い。砂混シルト。アカホヤブロック、カマド粘土粒少量含む。
d:7.5YR3/2 黒褐色。締りやや有。粘性やや弱い。砂混シルト。アカホヤブロック、カマド粘土粒含む。
e:10YR2/3 黒褐色。締りやや有。粘性やや弱い。砂混シルト。アカホヤブロック少量含む。
f:7.5YR3/1 黒褐色。締りやや有。粘性やや弱い。砂混シルト。アカホヤブロック、カマド粘土粒、焼土粒含む。
g:7.5YR3/1 黒褐色。締りやや有。粘性弱い。砂混シルト。カマド粘土粒、焼土粒含む。
h:7.5YR2/1 黒色。締りやや弱い。粘性やや有。シルト。焼土、炭化物含む。
i:7.5YR2/2 黒褐色。締りやや有。粘性やや弱い。砂混シルト。アカホヤブロック含む。

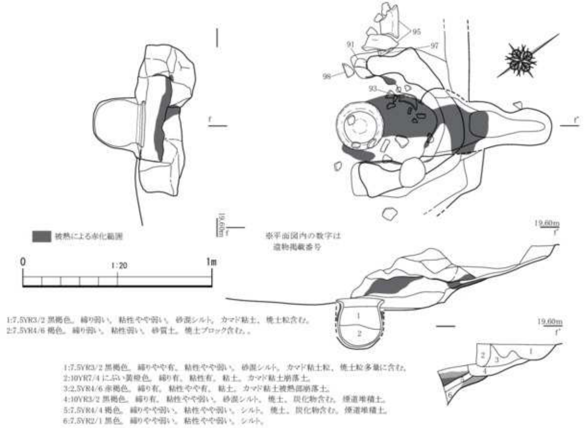
第15図 竪穴建物24・25・41・42平面図及び竪穴建物群土層断面実測図(S=1/60)



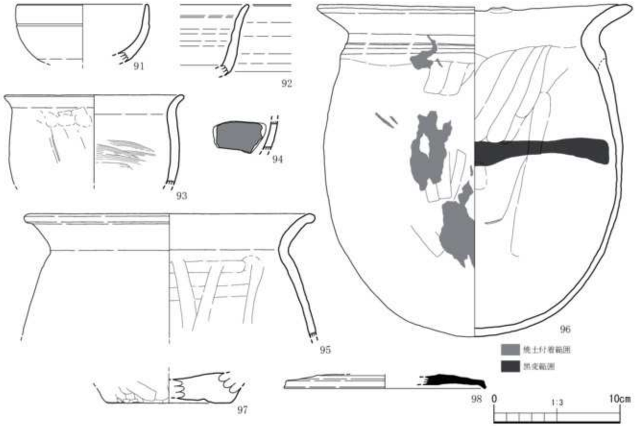


1:10YR2/3 黒褐色。締り有。粘性やや有。砂混シルト。焼土ブロック少量含む。カマド粘土少量含む。
2:7.5YR5/6 明褐色。締り有。粘性やや弱い。砂混シルト。焼土ブロック、カマド粘土多量に含む。
3:7.5YR2/2 黒褐色。締りやや有。粘性弱い。砂質土。焼土ブロック微量に。カマド粘土小量含む。

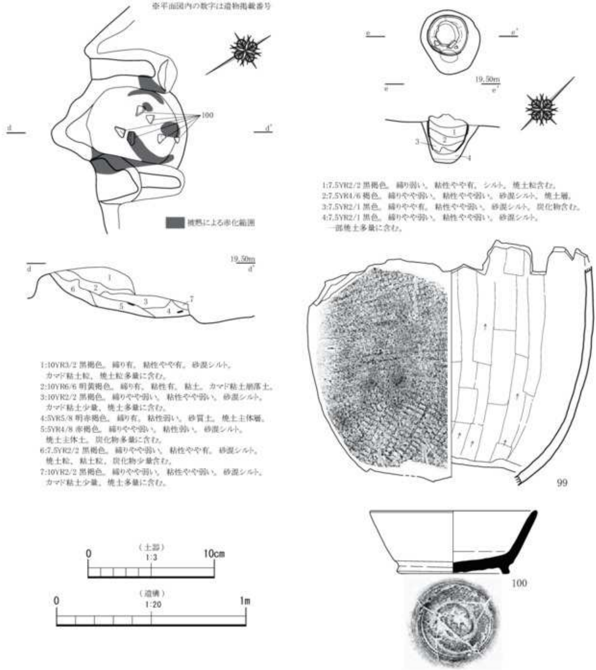
第16図 竪穴建物25カマド実測図(S=1/20)**及びカマド出土遺物実測図**(S=1/3)



第17図 竪穴建物41カマド実測図(S=1/20)



第18図 竪穴建物41カマド実測図及びカマド付近出土遺物実測図(S=1/3)

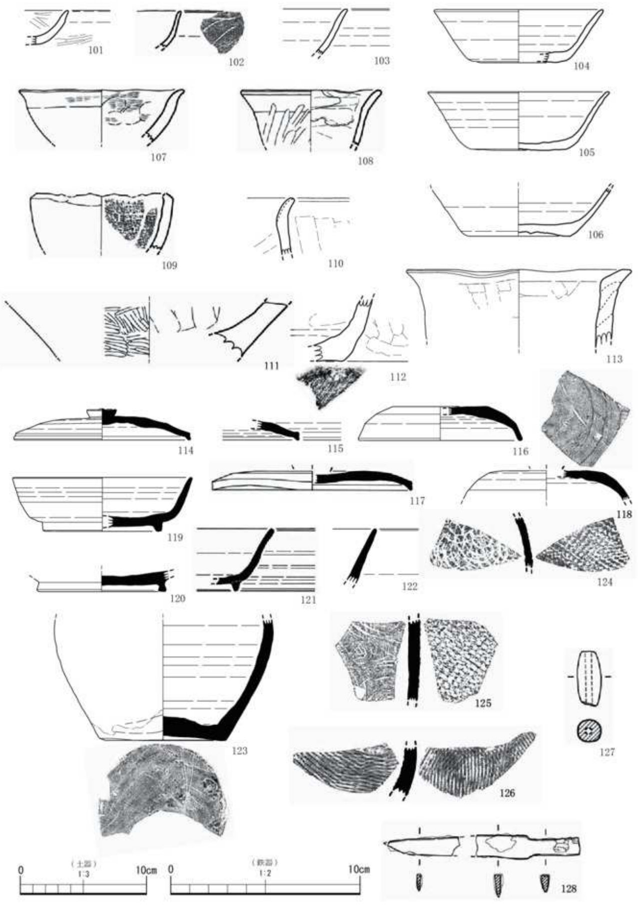


第19図 竪穴建物42カマド実測図及び土器埋設炉実測図(S=1/20)、**出土遺物実測図**(S=1/3)

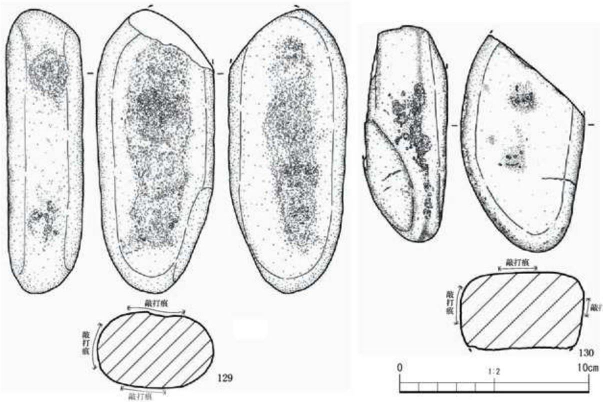
111 は土師器壺、110、112、113 は土師器甕である。114 から 118 は須恵器坏蓋、119 から 122 は須恵器高台付坏である。123 は須恵器長胴壺である。124 から 126 は須恵器甕である。127 は土錘、128 は鉄製刀子である。129、130 は砂岩製敲石である。

竪穴建物 37（第 22 図）

竪穴建物 37 は調査区南西隅付近で検出された。西壁は溝状遺構 3 に切られ南壁は調査区外へ広がるが平面形は方形を呈すると思われる。建物規模は南北長 4.0 m以上、東西長 2.9 m以上を測る。検出面直上まで攪乱を受けており、床面付近が僅かに残存している状況であった。建物北壁にカマドが造りつけられていたが、炉体土器と燃焼部、袖が僅かに残存するのみであ



第20図 竪穴建物24・25・41・42出土遺物実測図①(S=1/3・S=1/2)



第21図 竪穴建物24・25・41・42出土遺物実測図②(S=1/2)

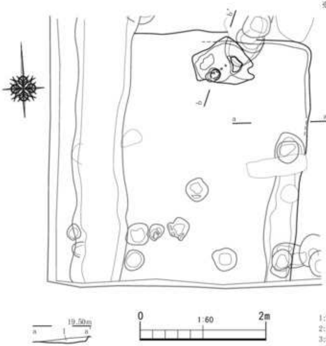
り詳細な構造は不明である。炉体土器は土師器甕の底部を打ち欠き埋設していた。131は土師器坏である。底部に木葉痕が残る。132はカマド炉体土器として使用された土師器甕であり胴部が下膨の形態となる。

竪穴建物 17・26・28（第 23 図～第 29 図）

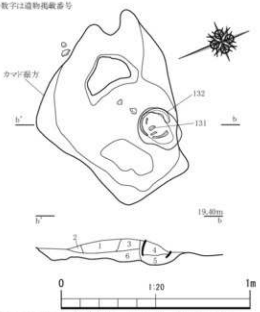
調査区の中央西寄りで検出された竪穴建物群である。3 軒の竪穴建物を纏めて報告するが、竪穴建物 17 の南西角付近に、壁面と整合しない壁体溝状の掘り込みが検出されたことから、竪穴建物 17 と重なるように別の竪穴建物が存在した可能性もある。3 軒の建築順序は、竪穴建物 28 →竪穴建物 26 →竪穴建物 17 の順である。

竪穴建物 17 は平面隅丸方形で東西長 3.45 m、南北長 2.75 m、検出面からの深さ 0.2 m を測る。建物北壁東端付近にカマドが造りつけられていた。カマドは上部が削平されており、左袖も建物に後出するピットにより先端が消失している。燃焼部奥壁は住居壁体を利用し粘土の使用は見られない。燃焼部床と奥壁が被熱により強く赤化している。遺物はカマドとその周囲から多くが出土した。ただし、建物北東隅の床面は竪穴建物 53 の埋土であることから、本来は竪穴建物 53 に帰属する遺物が混入している。133 は土師器の布留式系有段口縁鉢である。頸部から口縁部の内面の稜はやや丸みを帯びている。134 は土師器坏、135 は土師器高坏口縁部である。136、137 は土師器壺である。138 から 141 は土師器甕である。138 は土師器甕肩部で、外面に斜位の強いハケメが施される。139 は布留式系甕の底部から胴部である。141 はカマド燃焼部から出土した。器壁が被熱により赤化している。これらの中で竪穴建物 17 に帰属する遺物は 134、140、141 であり、133、135 から 139 は竪穴建物 53 に帰属する遺物と想定される。

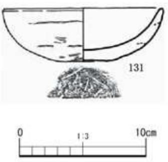
※平面図内の数字は遺物掲載番号

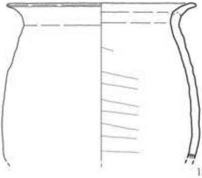


1:7.5YR3/3 暗褐色。締りやや有。粘性やや弱い。砂混シルト。アカホヤ粒含む。



1:7.5YR3/3 暗褐色。締りやや有。粘性やや弱い。砂混シルト。焼土粒多量に含む。
2:10YR5/6 黄褐色。締り有り。粘性弱い。砂質土。
3:5YR4/6 赤褐色。締りやや有。粘性やや有。砂混シルト。
焼土粒、カマド粘土粒多量に含む。
4:5YR3/4 暗赤褐色。締りやや有。粘性やや有。砂混シルト。焼土粒多量に含む。
5:10YR4/4 褐色。締りやや有。粘性やや弱い。砂混シルト。
6:10YR4/4 褐色。締りやや有。粘性やや弱い。砂混シルト。牛の脛ロームブロック混ざる。

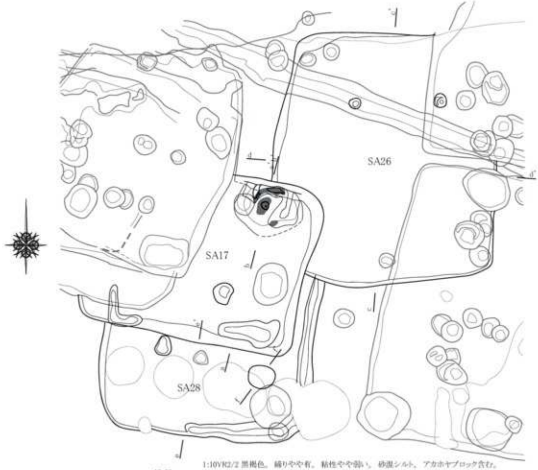


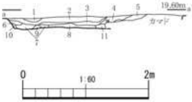


第22図 竪穴建物37実測図(S=1/60)**及びカマド実測図**(S=1/20)、**出土遺物実測図**(S=1/3)

竪穴建物 26 は平面方形で南北長 4.05 m、東西長 3.55 m、検出面からの深さ 0.15 m を測る。カマドや土器埋設炉等の火処は確認されなかったが、後出する竪穴建物 11 に北壁西側を削平されていることから、その際に消失した可能性もある。遺物は床面からやや浮いた位置で多くが出土した。142、143、144 は土師器坏である。143 は外面に工具で刻み目が施されている。145 は土師器短頸壺である。146 から 148 は土師器甕である。149 は須恵器壺の肩部、150 は須恵器甕である。151 から 153 は砂岩製敲石である。154、155 は鉄製刀子である。

竪穴建物 28 は平面方形で南北長 2.7 m以上、東西長 3.4 m、検出面からの深さ 0.17 m を測る。竪穴建物 17、26 に切られているほか、多数の撹乱に切られており残存状況は悪い。建物の南東隅付近で地焼炉が検出された。地焼炉は平面形が歪な円形で、径 0.45 m、0.08 m の浅い掘り込みを有する。地焼炉床面は強い被熱により赤化している。遺物は少数ではあるが床面上で出土している。156 は土師器甕と思われる。157、158 は土師器の小形鉢である。159 は土師器甕である。頸部は「く」の字状に屈曲し強い横ナデが施される。160 は布留式系の土師器甕である。薄手で内面ケズリ調整である。161 は砂岩製敲石である。出土土器の中で 159 のみ古代

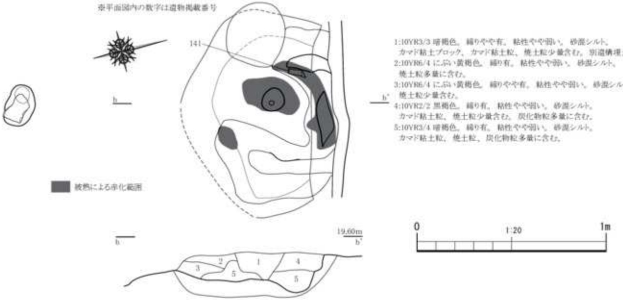




1:10YR2/2 黒褐色。締りやや有。粘性やや弱い。砂混シルト。アカホヤブロック含む。
2:10YR3/2 黒褐色。締りやや有。粘性やや弱い。砂混シルト。カマド粘土ブロック少量含む。
3:10YR2/3 黒褐色。締りやや弱い。粘性やや弱い。砂混シルト。カマド粘土粒、焼土粒、アカホヤブロック少量含む。
4:10YR2/2 黒褐色。締りやや有。粘性やや弱い。砂混シルト。焼土粒、炭化物含む。
5: 10YR4/3 にぶい黄褐色。締りやや有。粘性やや有。砂混シルト。カマド粘土多量に含む。焼土粒少量含む。
6:10YR3/2 黒褐色。締りやや弱い。粘性やや弱い。砂混シルト。アカホヤブロック含む。
7:10YR2/2 黒褐色。締りやや弱い。粘性やや弱い。砂混シルト。炭化物含む。
8:10YR2/3 黒褐色。締りやや弱い。粘性やや弱い。砂混シルト。アカホヤブロック含む。
9:10YR6/8 明黄褐色。締りやや有。粘性弱い。砂質土。アカホヤブロック含む。
10:10YR2/2 黒褐色。締りやや弱い。粘性やや弱い。砂混シルト。アカホヤ小ブロック含む。
11:10YR2/1 黒色。締りやや弱い。粘性やや弱い。砂混シルト。アカホヤ小ブロック含む。カマド構築土。

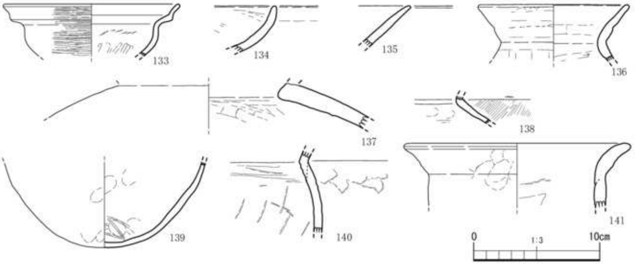
第23図 竪穴建物17・26・28平面図及び竪穴建物17土層断面実測図(S=1/60)

※平面図内の数字は遺物掲載番号

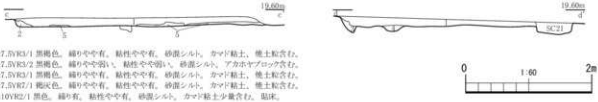


1:10YR3/3 暗褐色。締りやや有。粘性やや弱い。砂混シルト。
カマド粘土ブロック、カマド粘土粒、焼土粒少量含む。別遺構埋土。
2:10YR6/4 にぶい黄褐色。締り有。粘性やや弱い。砂混シルト。
焼土粒多量に含む。
3:10YR6/4 にぶい黄褐色。締りやや有。粘性やや弱い。砂混シルト。
焼土粒少量含む。
4:10YR2/2 黒褐色。締り有。粘性やや弱い。砂混シルト。
カマド粘土粒、焼土粒少量含む。炭化物粒多量に含む。
5:10YR3/4 暗褐色。締り有。粘性やや弱い。砂混シルト。
カマド粘土粒、焼土粒、炭化物粒多量に含む。

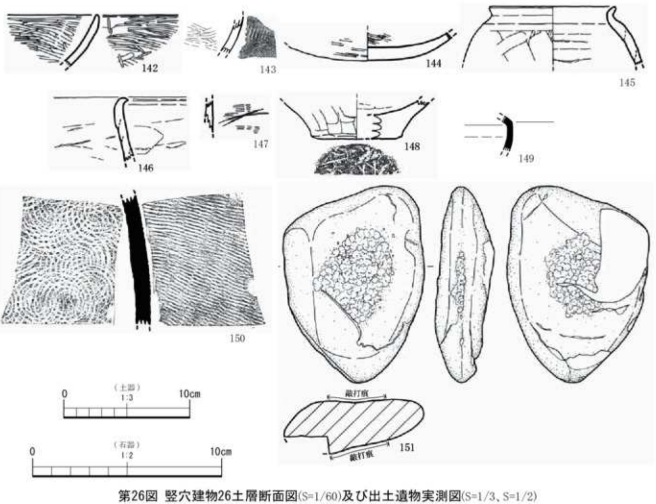
第24図 竪穴建物17カマド実測図(S=1/20)



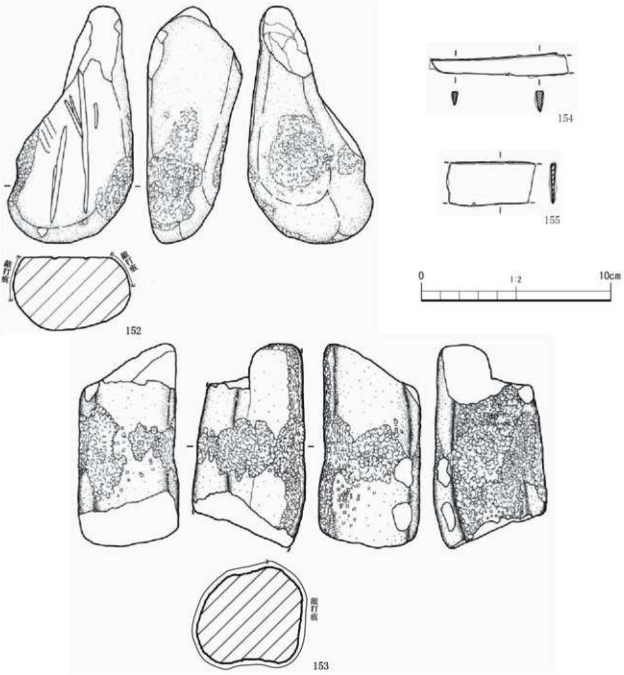
第25図　竪穴建物17出土遺物実測図(S=1/3)



1:7.5YR3/1 黒褐色。締りやや有。粘性やや有。砂混シルト。カマド粘土、焼土粒含む。
2:7.5YR3/2 黒褐色。締りやや弱い。粘性やや弱い。砂混シルト。アカホヤブロック含む。
3:7.5YR3/1 黒褐色。締りやや有。粘性やや有。砂混シルト。カマド粘土、焼土粒含む。
4:7.5YR7/1 褐灰色。締りやや有。粘性やや有。砂混シルト。カマド粘土、焼土粒含む。
5:10YR2/1 黒色。締り有。粘性やや有。砂混シルト。カマド粘土少量含む。貼床。



第26図　竪穴建物26土層断面図(S=1/60)及び出土遺物実測図(S=1/3、S=1/2)



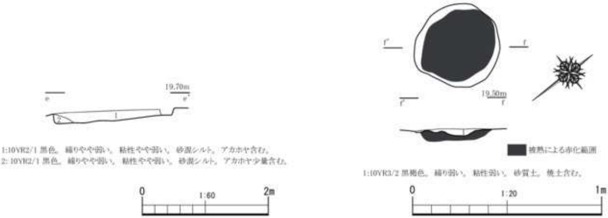
第27図 竪穴建物26出土遺物実測図(S=1/2)

に帰属するが、159は撹乱出土遺物と接合している点から混入と考えられる。これは、今回の調査で検出された古代に帰属する竪穴建物は、埋土中にカマド粘土粒や焼土粒を含んでいるが、竪穴建物28は含まない点からも追認できる。

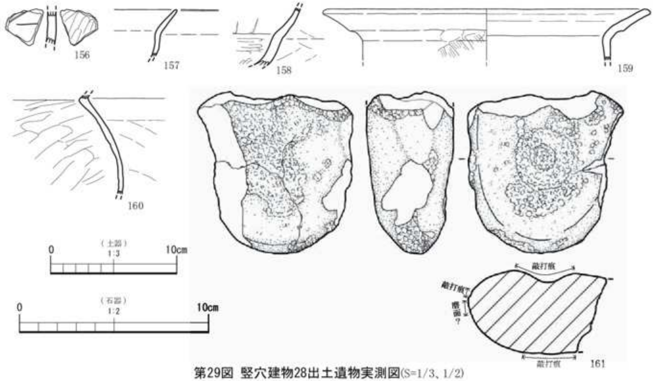
竪穴建物11・12・18・36（第30図～第40図）

調査区中央やや北寄りで検出された竪穴建物群の一部で、ここでは4軒の竪穴建物について報告する。4軒の建築順序は竪穴建物12→竪穴建物18・36→竪穴建物11の順である。

竪穴建物11は平面方形で北側が撹乱によって削平を受けている。削平を受けていない東西方向の規模は3.65 m、検出面からの深さは0.2 mを測る。撹乱により北西側の柱穴を欠くが、建物壁面近くに4柱を設ける構造であったと考えられる。建物の中央付近から土器埋設炉が検

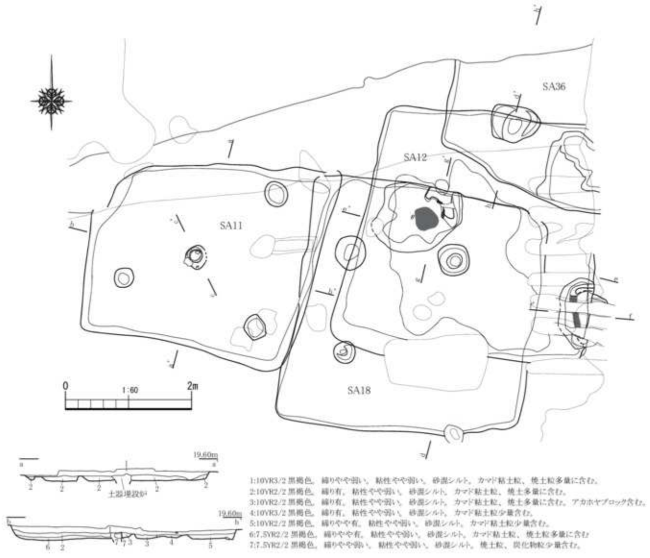


第28図 竪穴建物28土層断面図(S=1/60)及び地焼炉実測図(S=1/20)

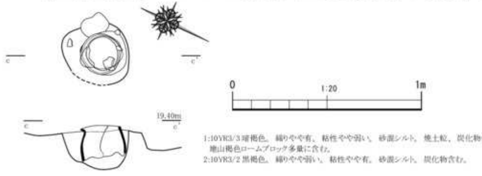


第29図 竪穴建物28出土遺物実測図(S=1/3、1/2)

出された。土器埋設炉は貼床面から断面U字形の掘方を掘り、胴部下半を打ち欠いた土師器甕を埋設していた。埋設土器の周囲は被熱により埋土が赤化しており、埋設土器自体も南側に位置する口縁部付近が赤化していた。162、163は土師器坏蓋である。162は宝珠摘みを有し器高がやや高く体部から口縁部にかけてドーム状の形状となる。164、165は土師器坏である。165は高台付坏で高台が「八」の字状にやや開く。166から168は土師器甕である。166は頸部が「く」の字状に強く屈曲、167は頸部の屈曲が弱い。168は埋設土器で下膨れの胴部になると思われる。169から171は土師器壺である。169は二重口縁壺の二次口縁部である。170は小型丸底壺で胎土から外来系と考えられる。172から175は布痕土器である。176、177は須恵器坏蓋である。176は口縁部内面にかえりが付く。178、179は須恵器高台付坏である。179は内底面にヘラ記号が見られる。180は須恵器皿底部、181は須恵器壺の肩部である。182は須恵器甕胴部片、183、184は須恵器高坏の脚部片である。185は尾鈴山酸性岩製の台石、186は砂岩製砥石であり、両資料共に被熱により一部が赤化している。

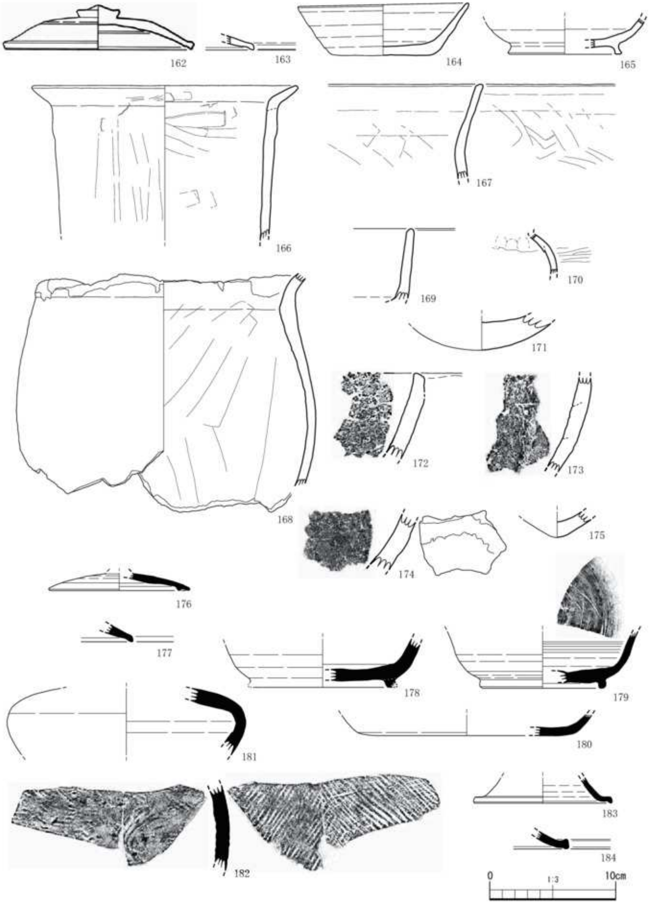


第30図 竪穴建物11・12・18・36平面図(S=1/60)**及び竪穴建物11土層断面図**(S=1/60)

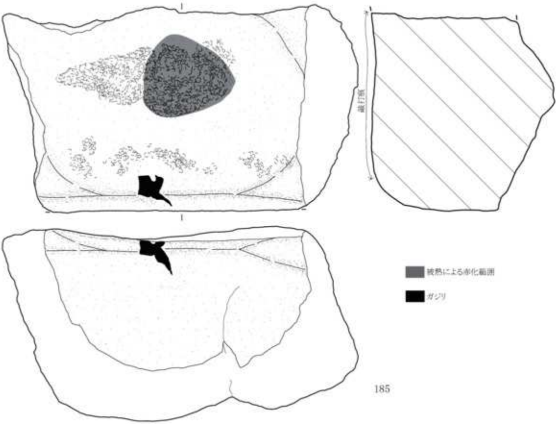


第31図 竪穴建物11土器埋設炉実測図(S=1/20)

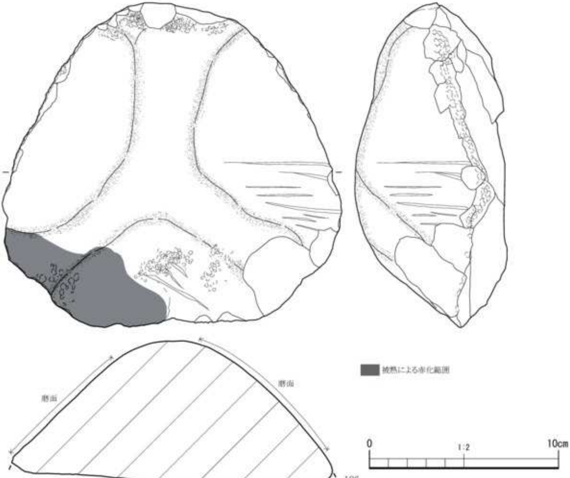
竪穴建物12は平面方形で東壁を撹乱により削平されている。南北長3.8 m、東西長3.9 m以上、検出面からの深さ0.07 mを測る。建物南東側でカマドが検出されたが、トレンチャー（耕作機械）による撹乱が著しく残存状況は非常に悪い。燃焼部奥壁が撹乱で消失しているため煙道の有無は判然としない。また、袖もトレンチャーにより削平を受けているが、残存状況から想定される形状は袖が短く焚口が広い印象を受ける。燃焼部焚口側と奥壁が被熱により赤化している。遺構の残存状況が悪く床面付近しか残っていなかったため出土遺物は少量であった。187は土



第32図 竪穴建物11出土遺物実測図①(S=1/3)



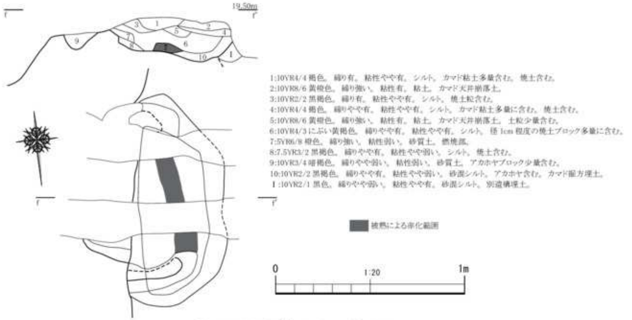
185



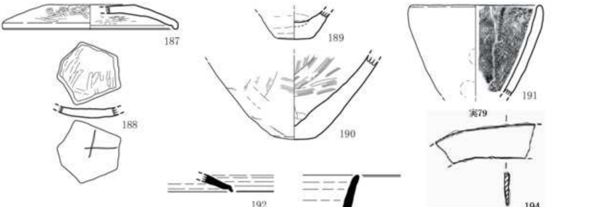
186

第33図 竪穴建物11出土遺物実測図②(S=1/2)

第34図 竪穴建物12・18土層断面図(S=1/60)



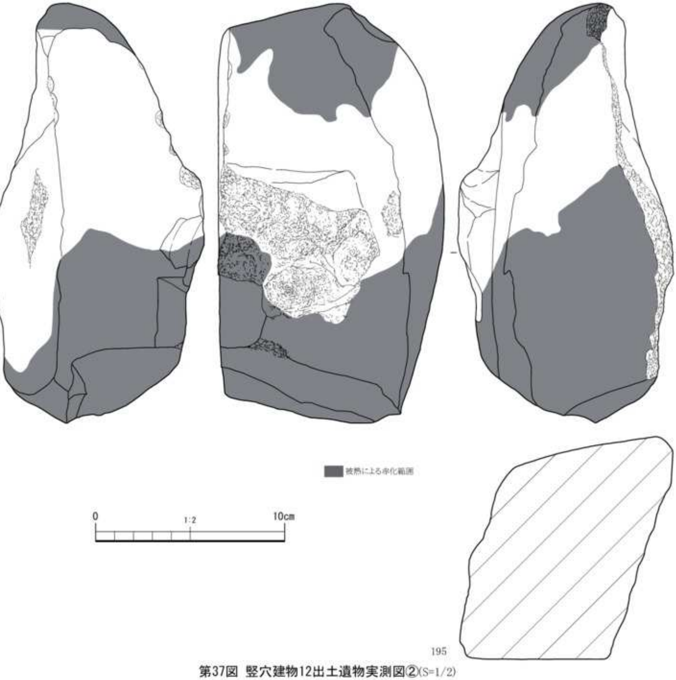
第35図 竪穴建物12カマド実測図(S=1/20)



第36図 竪穴建物12出土遺物実測図①(S=1/3、S=1/2)

師器坏蓋である。形状は須恵器坏蓋の模倣であるが、回転ナデの後内外面ミガキ調整を施している。188 は土師器坏である。外面にヘラ記号を施す。189 は土師器壺底部、190 は土師器甕底部である。191 は布痕土器で底部を欠損するが砲弾形の形状を呈すると思われる。192 は須恵器坏蓋、193 は須恵器坏である。194 は鉄製鎌片である。195 は砂岩製の敲石で大部分が被熱により赤化している。

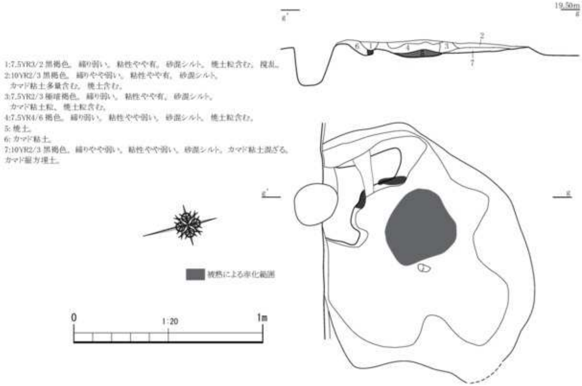
竪穴建物 18 は平面方形で南北長 4.0 m、東西長 3.9 m、検出面からの深さ 0.12 m を測る。主



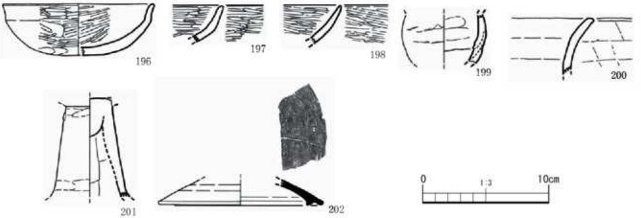
195

第37図 竪穴建物12出土遺物実測図②(S=1/2)

柱は南東側の柱穴を撹乱で欠くが4本と考えられ、柱穴の直径は0.35 mから0.5 mである。北壁中央付近においてカマドが検出されたが、後出する竪穴建物12に削平されていたため基底部付近が残存しているのみであった。袖は右袖の基底部付近が残存していたが左袖は欠損している。燃焼部奥壁も粘土で構築されていることから今塩屋分類Ⅰa類に分類される。焚口付近が強く被熱していた。建物の残存状況が良くなかったため遺物の出土量は多くないが、床面付近から出土している。196から198は土師器坏である。内外面ミガキ調整で口縁部を外方に僅かに屈曲させるもの（196、197）と直線的に伸びるもの（198）がある。199はミニチュアの土師器壺である。200は土師器甕で頸部の屈曲が弱い。201は土師器高坏脚部である。カマド燃焼部付近で出土し被熱により一部が赤化しているが、カマド床面が竪穴建物47の埋土であることと遺物の時期から本来は竪穴建物47に帰属するものと考えられる。202は須恵器坏蓋で



第38図 竪穴建物18カマド実測図(S=1/20)



第39図 竪穴建物18出土遺物実測図(S=1/3)

ある。体部はドーム状を呈し口縁部にかえりが付く。

竪穴建物36は建物南西角付近のみが残存している状況で、北側は溝状遺構1に、東側は攪乱により削平されている。建物は平面方形になると想定され、残存範囲では火処は確認されなかった。検出面からの深さは0.15mを測る。建物床面の一部が竪穴建物47の埋土であったことから混入と思われる遺物もある。203、204は土師器坏である。内外面ミガキ調整で口縁部がやや外反する。205は土師器小型丸底壺である。206、207は土師器甕で207は布留式系甕口縁部である。208は弥生時代後期初頭の甕胴部片で断面台形状の突帯を貼り付ける。209は土師器壺、210は土師器甕の底部である。211は薄手の布痕土器である。212は焼土塊で繊維痕が顕著である。213は棒状鉄製品で断面形は方形を呈す。205、207は竪穴建物47に帰属する遺物と考えられる。

第40図 竪穴建物36土層断面図(S=1/60)**及び出土遺物実測図**(S=1/3、1/2)

竪穴建物 20・27・43（第 41 図〜第 46 図）

調査区中央南寄りで検出された竪穴建物群の一部で、ここでは 3 軒の建物について報告する。3 軒の建築順序は、竪穴建物 27・竪穴建物 43 →竪穴建物 20 である。

竪穴建物 27 は平面方形で南北長 4.5 m、東西長 4.15 m、検出面からの深さ 0.07 m で、床面付近のみが残存している状況であった。主柱は 4 本で、柱穴径は 0.35 m から 0.5 m である。北壁中央付近においてカマドが検出された。カマドは基底部付近のみが残存している状況であり、構造を検討することは難しいが、検出時の状況では袖が建物壁面に接しない。また、煙道を有していたが竪穴建物 11 に切られており煙道の長さは不明である。燃焼部中央付近で焼土に被覆されたピットが検出された。土層断面や検出位置から埋設土器の掘方と考えられ、カマド廃棄時に埋設土器を撤去したものと想定される。建物の床面近くまで削平を受けていたことから遺物の出土量は少量であった。214 は土師器坏である。内外面ミガキ調整で口縁部がやや外方に摘まみ出される。215 は土師器甕で口縁部が強く外反する。216 は土師器鉢で口縁部は弱く外反する。217 は土師器壺底部片である。219 は土師器甑で胴部から口縁部にかけ直線的に伸びる。218、220 は須恵器坏である。

竪穴建物 20 は平面方形で南北長 2.4 m、東西長 2.18 m、検出面からの深さ 0.2 m を測る。今回の調査で検出された竪穴建物の中では竪穴建物 5 と並んで小規模であるが、建物北東角にカマドが造りつけられていた。カマドは撹乱が著しく袖は基底部付近のみが残存する状況であり、燃焼部に埋設された埋設土器も撹乱により径の約半分が失われていた。また、燃焼部奥壁付近は撹乱により粘土が用いられたか否か確認することができなかったが、撹乱北側に僅かに掘り込みが残存していたことから煙道を有していたことが確認できた。遺物はカマド周辺で出土した。221 は土師器坏、222 は須恵器高台付坏である。223 はカマドの炉体である土師器甕で

底部は欠損している。頸部は「く」の字状に屈曲し、胴部外面はタタキの後にハケメで調整される。224 は鉄製鎌である。折り返しを上に向けた際、刃部は右を向く。

竪穴建物 43 は他の竪穴建物や撹乱に切られ、建物南西角付近のみが残存している状況であった。検出面からの深さも 0.05 m と残りが非常に悪く、遺物も土師器細片が出土したのみで図化に耐えうる遺物はなかった。

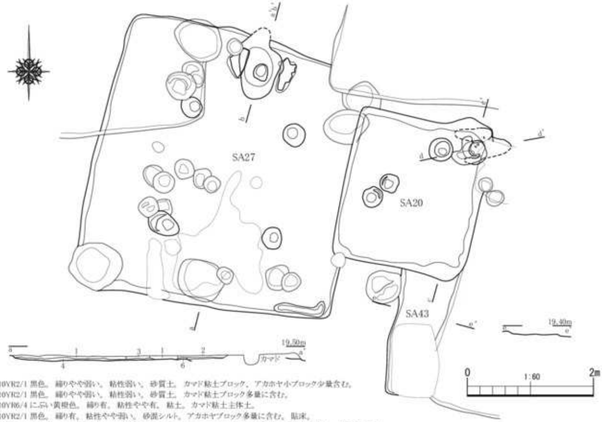
竪穴建物 9・10・13・16・29・35・38（第 47 図〜第 58 図）

調査区中央東寄りで検出された竪穴建物群の一部で、ここでは 7 軒の建物について報告する。複数の建物が切り合っているうえに、大規模な撹乱が建物群の中央を貫いていたため、切り合い関係の把握等、調査は非常に困難であった。撹乱に切られた部分は、浅い竪穴建物は床面まで滅失し、深い竪穴建物でも床面付近が辛うじて残存する状況であった。切り合い関係から想定される構築順序は、竪穴建物 29 →竪穴建物 10 →竪穴建物 35 →竪穴建物 16 →竪穴建物 13 と竪穴建物 29 →竪穴建物 10 →竪穴建物 9・竪穴建物 38 の 2 系列となり、切り合い関係からは竪穴建物 10 以降の竪穴建物 35 →竪穴建物 16 →竪穴建物 13 と竪穴建物 9・竪穴建物 38 の前後関係は不明である。

竪穴建物 9 は、深さが浅いため撹乱下では一部が滅失しており、その部分を見ると竪穴建物 29 に切られているように見えるが、実際は竪穴建物 29 に後出する。平面形は隅丸方形で南北長 2.9 m、東西長 3.0 m、検出面からの深さ 0.2 m を測る。北壁やや東寄りにおいてカマドが検出されたが、建物廃絶時にカマドも廃棄しており、廃棄時の撹拌により残存状況は非常に悪く、袖基底部付近のみが残存している状況であった。遺物はカマド周辺を中心に出土した。225 から 227 は土師器坏である。226 は焼成後、体部に両面穿孔によって径 6mm 程度の孔が開けられている。228 から 230 は土師器甕である。228 は頸部が「く」の字状に屈曲する。229 は頸部の屈曲が弱く内面に内外面共に明確な稜を有さない。231 は布痕土器で口縁部は先細りとなる。232 は頁岩製の敲石で図上の裏面は剥離している。

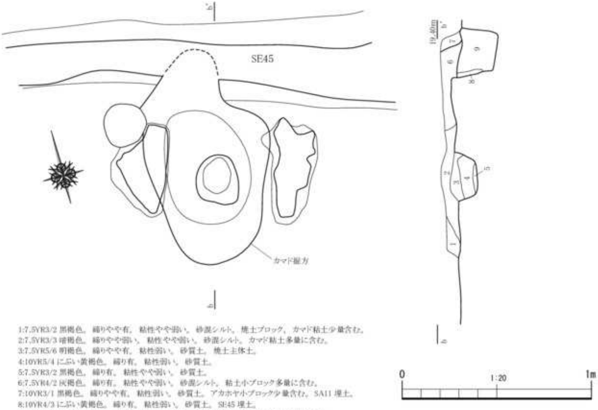
竪穴建物 10 は平面方形で、南北長 4.65 m、東西長 5.15 m、検出面からの深さ 0.35 m を測る。主柱は 4 本で、柱穴径は 0.4 m から 0.55 m、建物掘方床面からの深さは 0.4 m を測る。建物中央を南北方向に撹乱に切られているため建物全体としての残存状況は非常に悪い。残存部の床面からはアカホヤ火山灰と牛の脛ロームブロックを多量に含む貼床が検出された。火処は建物北壁東寄りにカマドが造りつけられていた。撹乱により大部分が滅失していたが左袖の一部が残存しており、建物壁を燃焼部奥壁としていたが煙道は検出されなかった。233、234 は土師器坏である。233 は口縁部を回転ナデによりやや外方へ摘まみ出す。235 は土師器高坏の坏部で浅く皿状の形態を呈す。236、237 は土師器甕である。238 はカマド燃焼部から出土した土師器鉢で球胴形の胴部を有する。239 は須恵器甕である。240 は砂岩製の敲石兼磨石である。241 は鉄製釘である。

竪穴建物 13 は平面方形を呈すると考えられ、建物東側 3 分の 2 を撹乱により滅失している。規模は南北方向が 2.8 m、検出面からの深さは 0.15 m を測る。主柱は東側の 2 本は撹乱により柱穴が滅失しているが、本来は 4 本であったと考えられる。遺物は掲載遺物の他に布痕土器、



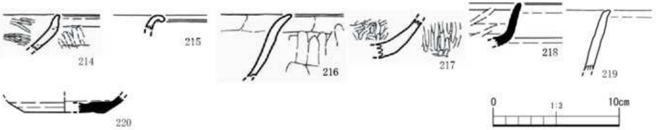
1:10YR2/1 黒色。締りやや弱い。粘性弱い。砂質土。カマド粘土ブロック、アカホヤ小ブロック少量含む。
2:10YR2/1 黒色。締りやや弱い。粘性弱い。砂質土。カマド粘土ブロック多量に含む。
3:10YR6/4 にぶい黄橙色。締り有。粘性やや有。粘土。カマド粘土主体土。
4:10YR2/1 黒色。締り有。粘性やや弱い。砂混シルト。アカホヤブロック多量に含む。貼床。
5:10YR2/3 黒褐色。締りやや有。粘性やや弱い。砂混シルト。カマド粘土。アカホヤブロック含む。カマド構築土。
6:4 よりアカホヤの比率高い。貼床。

第41図 竪穴建物20・27・43平面図及び竪穴建物27土層断面図、竪穴建物43断面図(S=1/60)



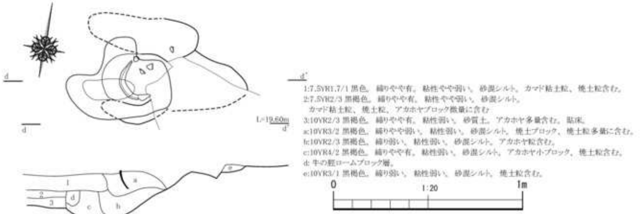
1:7.5YR3/2 黒褐色。締りやや有。粘性やや弱い。砂混シルト。焼土ブロック、カマド粘土少量含む。
2:7.5YR3/3 暗褐色。締りやや弱い。粘性やや弱い。砂混シルト。カマド粘土多量に含む。
3:7.5YR5/6 明褐色。締りやや有。粘性弱い。砂質土。焼土主体土。
4:10YR5/4 にぶい黄褐色。締り有。粘性弱い。砂質土。
5:7.5YR3/2 黒褐色。締り有。粘性やや弱い。砂質土。
6:7.5YR4/2 灰褐色。締り有。粘性やや弱い。砂混シルト。粘土小ブロック多量に含む。
7:10YR3/1 黒褐色。締りやや有。粘性弱い。砂質土。アカホヤ小ブロック少量含む。SA11 埋土。
8:10YR4/3 にぶい黄褐色。締り有。粘性弱い。砂質土。SE45 埋土。
9:10YR2/2 黒褐色。締り有。粘性弱い。砂質土。アカホヤブロック少量含む。SE45 埋土。

第42図 竪穴建物27カマド実測図(S=1/20)

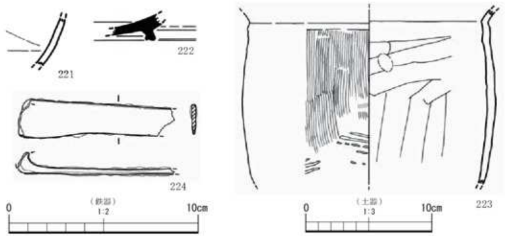


第43図 竪穴建物27出土遺物実測図(S=1/3)

第44図 竪穴建物20土層断面図(S=1/60)

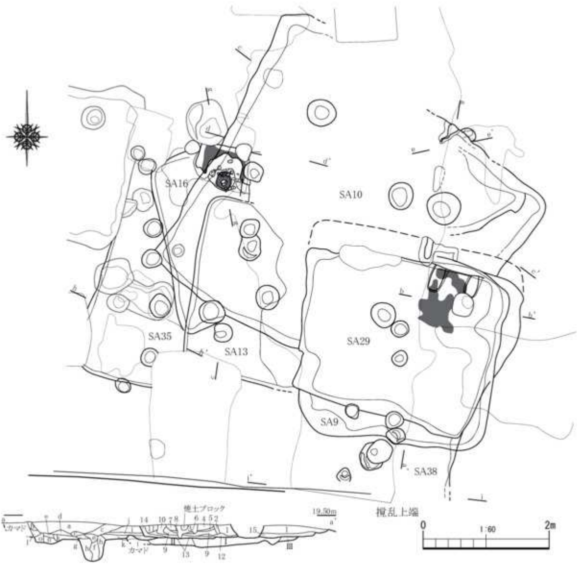


第45図 竪穴建物20カマド実測図(S=1/20)

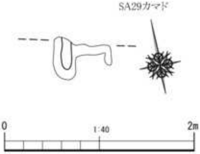


第46図 竪穴建物20出土遺物実測図(S=1/3、1/2)

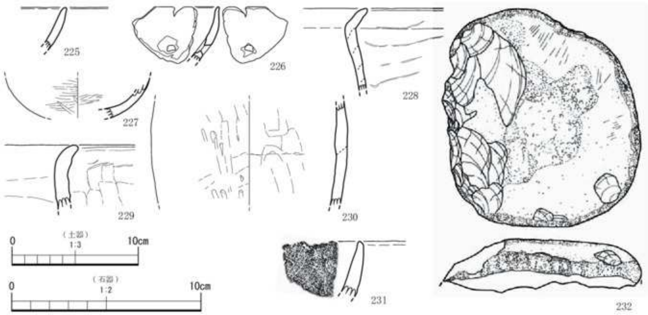
石英の自然石が出土している。242、243は土師器坏である。242は口縁部がやや内湾、243は直線的に立ち上がる。245は土師器壺口縁部、246は土師器壺もしくは甕底部である。244は緑釉陶器の稜碗である。体部内面に沈線を有する。247は須恵器高台付坏で高台が「八」の字状に開く。248は須恵器鉢である。丸みを帯びた底部から直線的に立ち上がる体部を有する。



SA9
1:10YR3/2 黒褐色。締りやや有。粘性やや弱い。砂混シルト。アカホヤブロック、カマド粘土粒、炭化物粒含む。
2:10YR3/2 黒褐色。締りやや有。粘性やや弱い。砂混シルト。1より焼土粒多い。
3:10YR2/3 黒褐色。締りやや有。粘性やや有。砂混シルト。焼土粒、焼土ブロック多量に含む。カマド内堆積土。
4:10YR3/4 暗褐色。締りやや有。粘性やや有。砂混シルト。焼土主体土。カマド内堆積土。
5:7.5YR7/8 黄橙色。締り弱い。粘性弱い。粘土。カマド燃焼部。
6:10YR6/4 にぶい黄橙色。締りやや有。粘性弱い。粘土。カマド天井粘土の崩落。一部赤化。
7:10YR6/4 にぶい黄橙色。締りやや有。粘性弱い。粘土。カマド部材の崩落。
8:10YR3/3 暗褐色。締りやや有。粘性やや弱い。シルト。カマド構築土。
9:10YR3/3 暗褐色。締りやや有。粘性やや弱い。シルト。カマド粘土。焼土粒含む。
10:10YR6/4 にぶい黄橙色。粘性弱い。粘土。カマド構築土。
11:10YR4/3 にぶい黄褐色。締りやや有。粘性やや弱い。シルト。カマド構築土。
12:10YR4/2 灰黄褐色。締りやや有。粘性やや弱い。シルト。焼土粒多量に含む。カマド基盤。
13:10YR3/2 黒褐色。締りやや有。粘性やや弱い。シルト。カマド粘土ブロック、黒色ロームブロック少量含む。
14:10YR2/3 暗褐色。締り有。粘性やや弱い。砂混シルト。カマド粘土粒少量含む。カマド構築土。
15:10YR2/1 黒色。締りやや有。粘性やや弱い。砂混シルト。アカホヤ粒、炭化物粒、焼土粒含む。貼床。
SA10
a:10YR3/1 黒褐色。締りやや有。粘性やや弱い。砂混シルト。カマド粘土、アカホヤブロック多量に含む。
b:10YR4/1 褐灰色。締り有。粘性やや弱い。砂混シルト。カマド粘土多量に含む。
c:10YR2/1 黒色。締りやや弱い。粘性やや弱い。砂混シルト。カマド粘土ブロック、アカホヤブロック多量に含む。
d:10YR3/2 黒褐色。締りやや有。粘性やや有。シルト。カマド粘土、焼土多量に、炭化物中量含む。
e:10YR3/1 黒褐色。締りやや弱い。粘性やや有。砂混シルト。カマド粘土粒、アカホヤ粒含む。柱痕。
f:10YR2/1 黒色。締りやや弱い。粘性やや有。砂混シルト。カマド粘土粒、アカホヤ粒含む。柱痕。
g:10YR1.7/1 黒色。締りやや有。粘性やや有。シルト。アカホヤブロック含む。柱掘方埋土。
h:10YR1.7/1 黒色。締りやや有。粘性やや有。シルト。アカホヤブロック多量に含む。柱掘方埋土。
i:10YR3/1 黒褐色。締りやや弱い。粘性やや弱い。砂混シルト。アカホヤブロック、焼土粒含む。
j:10YR2/2 黒褐色。締りやや有。粘性やや弱い。砂混シルト。アカホヤブロック、焼土粒多量に含む。
k:10YR2/2 黒褐色。締りやや有。粘性やや弱い。砂混シルト。アカホヤブロック、黒色ロームブロック混ざる。貼床。
l:10YR2/2 黒褐色。締りやや有。粘性やや弱い。砂混シルト。アカホヤブロック含む。
m:10YR2/1 黒色。締りやや弱い。粘性やや弱い。砂混シルト。アカホヤブロック含む。
n:10YR2/2 黒褐色。締りやや有。粘性やや弱い。黒色ロームブロック含む。
o:アカホヤブロック主体土。
SA29
Ⅰ:10YR2/2 黒褐色。締り有。粘性やや弱い。砂混シルト。アカホヤブロック多量に含む。
Ⅱ:10YR3/3 暗褐色。締り有。粘性やや弱い。砂混シルト。アカホヤブロック多量に含む。
Ⅲ:10YR3/2 黒褐色。締りやや有。粘性やや弱い。砂混シルト。アカホヤブロック多量に含む。



第47図 竪穴建物9・10・13・16・29・35・38実測図(S=1/60)及び竪穴建物9・29カマド平面図(S=1/40)



第48図 竪穴建物9出土遺物実測図(S=1/3、1/2)

249 は須恵器甕である。

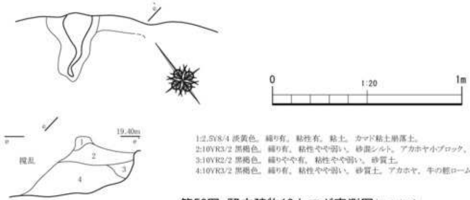
竪穴建物 16 は平面方形を呈すると考えられ、竪穴建物 13 と撹乱により建物東側半分程度が滅失している。主柱穴については判然としなかった。規模は南北方向が 2.8 m、検出面からの深さが 0.2 m を測る。床面にはアカホヤ火山灰ブロックを多量に含む貼床が施されていた。建物北壁中央付近にカマドが造りつけられていた。カマド上部は削平を受けており基底部付近のみ残存している状況であった。燃焼部奥壁が住居壁より突出せず、左右の袖、奥壁が粘土で構築されていることから今塩屋分類Ⅰａ類に分類される。燃焼部は浅く掘り窪められており、左右袖、奥壁と共に被熱によって赤化している。遺物はカマド周辺を中心に出土した。250 は土師器坏である。口径に比して器高が低く皿に近い形態である。251 から 254 は土師器甕である。251、252 はカマド燃焼部から出土した。251 は胴部径が口縁部径を上回る。252 は口縁部の一部が外方へ摘まみ出されている。253 は甕胴部片で外面に焼けた粘土が付着していることから、カマドに嵌められ釜として使用された土器と考えられる。254 は胎土や調整から 253 と同一個体の可能性がある。255 は土師器高坏の脚部である。256、257 はカマド内から出土した軽石製品である。支脚と思われるが残存部では小口面の整形は見られない。

竪穴建物 29 は竪穴建物 9 と撹乱に建物の大部分を切られ、貼床とカマドの一部が残存している状況であった。平面形はやや歪な方形で、南北長 2.95 m、東西長 3.5 m、検出面からの深さ 0.13 m を測る。遺物は建物の残存状況が悪かったため出土量は少量である。258 は土師器坏である。内外面ミガキ調整で口縁端部が外方に摘まみ出される。260 は土師器甕である。口縁部の一部が外方へ摘まみ出され注口状を呈する。261 は須恵器坏蓋である。欠損しているがつまみが付き、天井部外面にヘラ記号が施されている。262 は砂岩製の敲石兼磨石である。先細りとなる小口面に敲打痕が顕著である。

竪穴建物 35 は多くの竪穴建物、撹乱に切られ建物西側の一部が残存するのみであった。平面形は方形もしくは隅丸方形で、南北長 3.4 m以上、東西長 1.6 m以上、検出面からの深さ 0.35

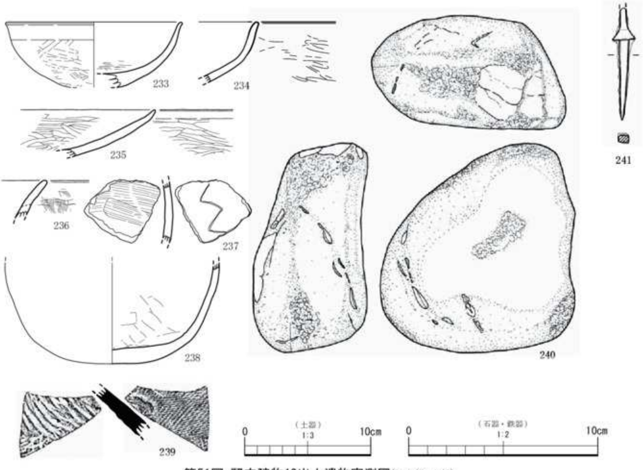
1:10YR2/3 黒褐色。締りやや有。粘性やや弱い。砂混シルト。アカホヤブロック。黒色ロームブロック多量に含む。
2:10YR3/3 暗褐色。締り有。粘性弱い。砂混シルト。アカホヤ、牛の脛ロームブロック多量に含む。貼床。

第49図 竪穴建物10断面図(S=1/60)



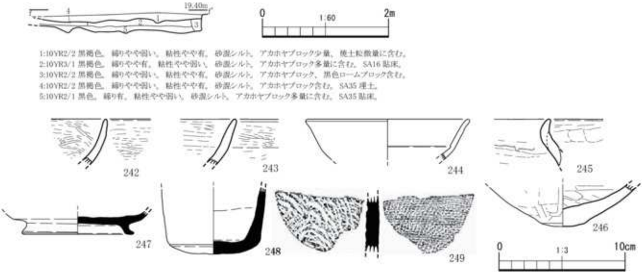
1:2.5Y8/4 淡黄色。締り有。粘性有。粘土。カマド粘土崩落土。
2:10YR3/2 黒褐色。締り有。粘性やや弱い。砂混シルト。アカホヤ小ブロック、粘土粒、焼土粒、炭化物含む。
3:10YR2/2 黒褐色。締りやや有。粘性やや弱い。砂質土。
4:10YR3/2 黒褐色。締り有。粘性やや弱い。砂質土。アカホヤ、牛の脛ロームブロック多量に含む。

第50図 竪穴建物10カマド実測図(S=1/20)

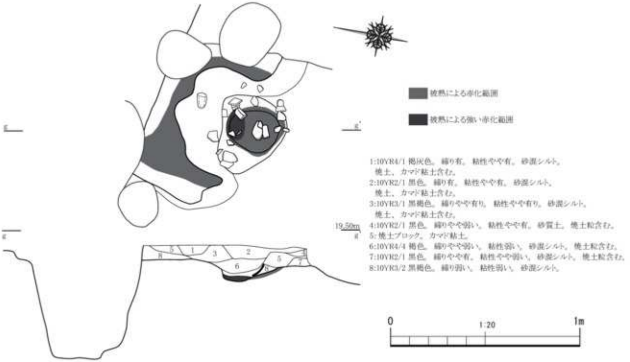


第51図 竪穴建物10出土遺物実測図(S=1/3、1/2)

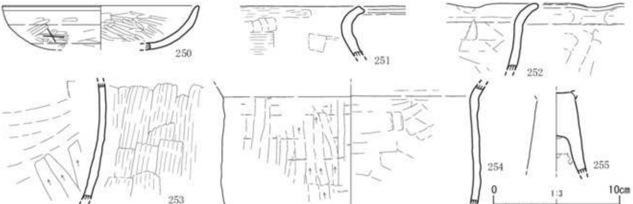
mを測る。床面は黒褐色ロームとアカホヤ火山灰のブロックを主体とした貼床が施されており、建物壁面付近の一部では硬化面が検出された。263は土師器坏で内外面ミガキ調整が施され、口縁部をヨコナデする。264は土師器台付鉢底部で内外面ミガキ調整が施される。265は



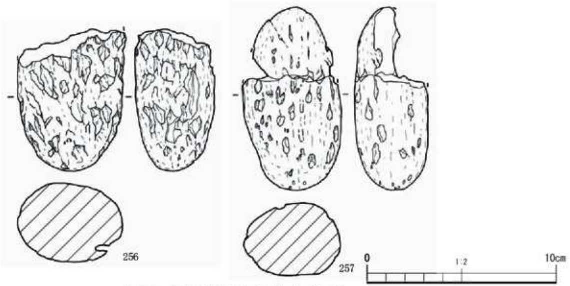
第52図 竪穴建物13土層断面図(S=1/60)及び出土遺物実測図(S=1/3)



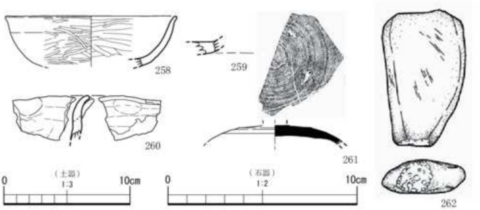
第53図 竪穴建物16カマド実測図(S=1/20)



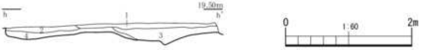
第54図 竪穴建物16出土遺物実測図①(S=1/3)



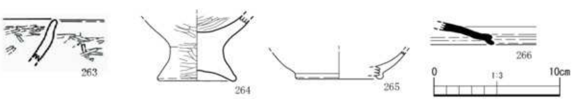
第55図 竪穴建物16出土遺物実測図②(S=1/2)



第56図 竪穴建物29出土遺物実測図(S=1/3、1/2)



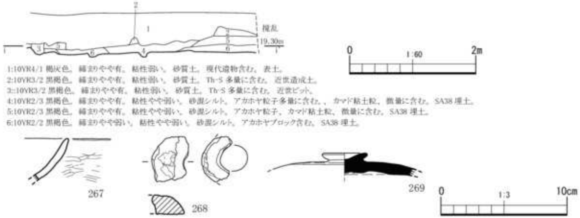
1:7.5YR3/1 黒褐色。締りやや弱い。粘性やや弱い。砂質土。アカホヤブロック少量含む。
2:7.5YR2/1 黒色。締りやや弱い。粘性やや弱い。砂質土。アカホヤブロック少量含む。
3:7.5YR2/2 黒褐色。締りやや弱い。粘性やや弱い。砂質土。上位のみ硬化。貼床。
4:7.5YR2/3 極暗褐色。締りやや有。粘性やや弱い。砂質土。アカホヤブロック多量に含む。



第57図 竪穴建物35土層断面図(S=1/60)及び出土遺物実測図(S=1/3)

緑釉陶器碗である。266は須恵器坏蓋で口縁部内面のかえりはない。265、266は竪穴建物の切り合い状況を鑑みると混入遺物であり、その帰属は竪穴建物13の可能性が高い。

竪穴建物38は、調査区南壁付近以外は僅かに埋土が残存している程度であったため、竪穴建物9と重複しているが前後関係を明らかにすることはできなかった。また、平面形についても不明である。調査区南壁で土層堆積状況を確認したが、上部を現代や近世の撹乱によって削平されていた。遺物は調査区南壁付近で少量出土した。267は土師器坏である。外面はミガキ



第58図 竪穴建物38土層断面図(S=1/60)及び出土遺物実測図(S=1/3)

調整で口縁部は直線的に伸びる。268 は鞴羽口である。ガラス質が付着する。269 は須恵器坏蓋で扁平なつまみが付く。

竪穴建物 5・14・19・22（第 59 図～第 60 図）

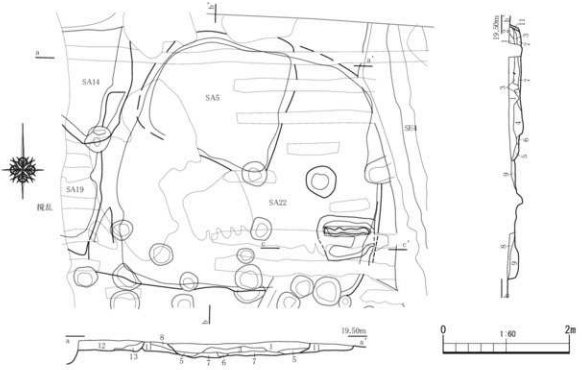
調査区東側北寄りで検出された竪穴建物群の一部で、ここでは 4 軒について報告する。切り合い関係から想定される建築順序は、竪穴建物 22 →竪穴建物 19（竪穴建物 5）→竪穴建物 14（竪穴建物 5）である。

竪穴建物 5 は平面隅丸方形と考えられ、南北長 2.2 m、東西長 2.25 m、検出面からの深さ 0.2 mを測る。今回の調査で検出された竪穴建物の中では竪穴建物 20 と並んで小規模である。一方で、竪穴建物 20 とは異なりカマドは確認されなかった。また柱穴も判然としないことから簡易的な建物であった可能性もある。270、271 は竪穴建物 5 出土遺物で、270 は土師器坏である。内外面ミガキ調整で口縁部は直線的である。271 は須恵器坏である。272、273 は竪穴建物 5、14、22 出土資料が接合しているため、本来の帰属は明らかではない。272 は土師器坏である。内外面ミガキ調整で口縁端部はヨコナデにより先細りとなる。273 は土師器甕で外底面に木葉痕が残る。

竪穴建物 14 は撹乱によって大部分を削平されているため平面形は不明である。残存部分を見るとやや歪な形状であることから土坑とすべきかもしれないが、床面が平坦であり周辺の竪穴建物と埋土も近似していたことから竪穴建物とした。検出面からの深さは 0.16 m を測る。遺物は土師器片が出土しているが、図化に耐えうる資料はなかった。

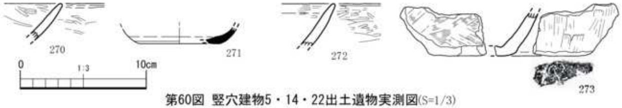
竪穴建物 19 も撹乱によって大部分を削平されているため平面形は不明であるが、残存部分を見ると平面方形となる可能性が高い。遺物は土師器細片が出土している。

竪穴建物 22 は平面隅丸方形で南北長 4.15 m、東西長 4.45 m 以上、検出面からの深さ 0.15 m を測る。大部分が撹乱や竪穴建物 5 と重複しており残存状況は悪く、特にトレンチャー痕が遺構の切り合い関係や連続性を検討するうえで大きな障害となった。建物の南東部からカマドが検出されたが、このカマドもトレンチャーにより大部分を撹乱され、左袖の一部以外は基底部付近が残存するのみであった。撹乱により形態は不明瞭であるが、焚口が狭いことが特徴である。遺物はカマド周辺を中心に出土した。274 は土師器坏、275 は土師器埦である。276 は弥生



1:10YR2/3 暗褐色。締りやや弱い。粘性やや弱い。砂質土。カマド粘土ブロック、アカホヤブロック多量に含む。
2:10YR3/2 黒褐色。締りやや弱い。粘性やや弱い。砂質土。カマド粘土粒、焼土粒多量に含む。
3:10YR3/1 黒色。締りやや有。粘性やや弱い。砂混シルト。アカホヤ、黒色ロームブロック含む。
4:10YR2/3 暗褐色。締りやや弱い。粘性やや弱い。砂混シルト。アカホヤブロック多量に含む。
5:10YR3/2 黒褐色。締りやや有。粘性やや弱い。砂混シルト。黒色ローム小ブロック、カマド粘土粒少量含む。
6:10YR1.7/1 黒色。締りやや有。粘性やや弱い。砂混シルト。黒色ロームブロック主体土。
7:10YR3/2 黒褐色。締りやや有。粘性やや弱い。砂混シルト。アカホヤ、黒色ロームブロック含む。
8:10YR2/2 黒褐色。締りやや有。粘性やや弱い。砂混シルト。カマド粘土ブロック多量に含む。
9:10YR3/1 黒褐色。締りやや有。粘性やや弱い。砂質土。アカホヤブロック多量に含む。
10:7.5YR3/1 黒褐色。締りやや有。粘性やや弱い。砂混シルト。アカホヤブロック少量含む。
11:10YR3/2 黒褐色。締りやや有。粘性やや弱い。砂混シルト。自然堆積層の暗褐色ロームの崩落土。
12:7.5YR3/2 黒褐色。締りやや弱い。粘性やや弱い。砂混シルト。カマド粘土粒、焼土粒。アカホヤ小ブロック含む。
13:7.5YR2/2 黒褐色。締りやや有。粘性やや弱い。砂混シルト。アカホヤブロック。黒褐色ロームブロック含む。

第59図 竪穴建物5・14・19・22実測図(S=1/60)



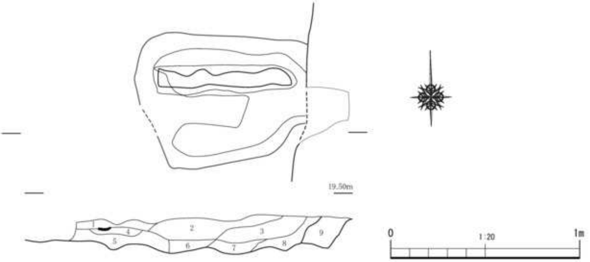
第60図 竪穴建物5・14・22出土遺物実測図(S=1/3)

土器の壺で混入であろう。277 は須恵器坏で口縁部がやや外反する。

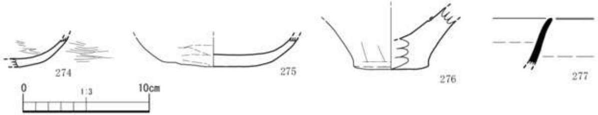
竪穴建物 6・7・8・56（第 61 図～第 67 図）

調査区北東側で検出された竪穴建物群である。ここでは 4 軒について報告する。切り合い関係がある 3 軒については、竪穴建物 8 →竪穴建物 7 →竪穴建物 6 の順に建築されたと考えられる。

竪穴建物 6 は撹乱や溝状遺構 4 などに切られているため、全体形は不明であるが、残存している南西隅の形状から平面隅丸方形と想定され、南北長 2.7 m、東西長 3.1 m以上、検出面からの深さ 0.1 mを測る。建物中央付近に土坑 15 とした掘り込みが見られたが、埋土の近似性から竪穴建物 6 に伴うものと考える。火処は確認されなかった。残存状況が悪いにも関わらず一定量の遺物が出土した。278 から 280 は土師器坏である。278 は須恵器模倣坏で口縁部を



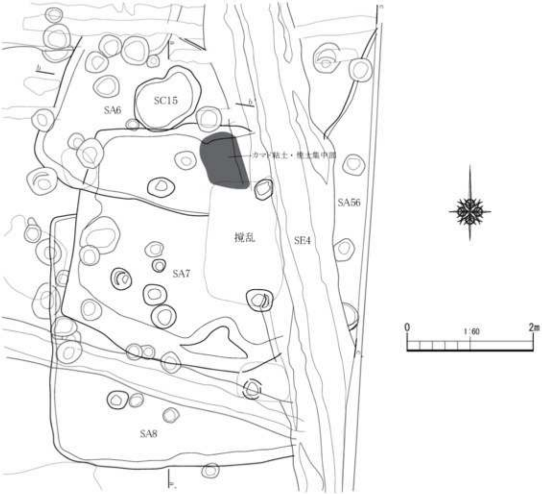
1:7.5YR4/3 褐色。締り有。粘性やや有。粘土。焼土ブロック少量含む。
2:7.5YR4/4 褐色。締り有。粘性やや有。砂混シルト。焼土ブロック、カマド粘土、炭化物多量に含む。
3:7.5YR4/2 灰褐色。締りやや有。粘性弱い。砂質土。カマド粘土ブロック、アカホヤブロック少量含む。
4:10YR4/3 にぶい黄褐色。締り有。粘性やや弱い。砂質土。アカホヤブロック多量に含む。
5:10YR3/2 黒褐色。締りやや有。粘性弱い。砂質土。アカホヤブロック少量含む。
6:10YR3/2 黒褐色。締りやや有。粘性弱い。砂質土。焼土ブロック少量含む。
7:7.5YR2/2 黒褐色。締りやや有。粘性弱い。砂質土。
8:7.5YR3/2 黒褐色。締りやや有。粘性やや弱い。砂混シルト。黄褐色土小ブロック少量含む。
9:10YR5/4 にぶい黄褐色。締り有り。粘性弱い。砂質土。アカホヤ火山灰層。

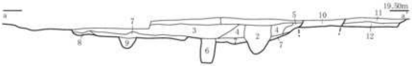


第61図 竪穴建物22カマド実測図(S=1/20)及び出土遺物実測図(S=1/3)

内湾させ受け部を作る。281は低脚の土師器高坏脚部である。282は須恵器鉢で口縁端部を外方へ「く」の字状に屈曲させる。283は須恵器高台付坏、284は須恵器壺である。285は須恵器坏で外底面にヘラ記号が施されている。外底面の調整は静止ヘラケズリである。286は須恵器甕胴部片である。287は鉄片、288は不明鉄製品である。289は棒状鉄製品で一方の端部が叩き伸ばされている。

竪穴建物7は東壁を溝状遺構4に切られているが、残存部から平面形はやや歪な方形になると想定される。南北長3.85 m、東西長3.8 m以上、検出面からの深さ0.45 mを測る。主柱は4本で柱穴径は0.35 m程度である。南壁の立ち上がりは緩やかで中央付近にステップ状の段を設ける。火処は、カマド粘土や焼土が集中する箇所が検出されたことから北壁東寄りにカマドが造りつけられていたと想定されるが、燃焼部や袖が検出されなかったことから、カマド本体は溝状遺構4により削平されたと考えられる。遺物は前述のカマド粘土や焼土が集中して検出された箇所を中心に出土した。290から293、295、296は土師器坏である。290から292は内外面ミガキ調整、293は内外面ナデ調整である。295は扁平な高台が付く。296は外底面にヘラ記号が施される。294は黒色土器A類で内面のみに炭素を吸着させる。297は土師器壺、298、299は土師器甕である。300は須恵器坏、301は須恵器壺もしくは器台である。外面に波状文と沈線が施される。302は砂岩製の敲石兼磨石である。303から308はカマド粘土や焼土が集中

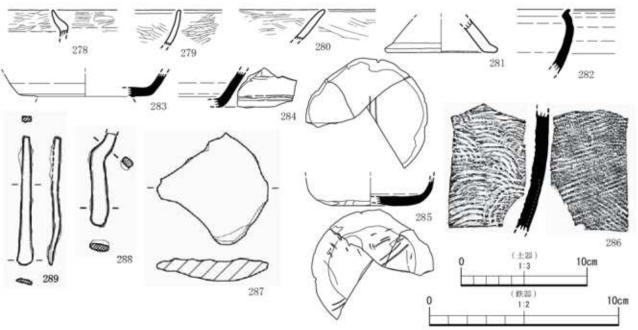




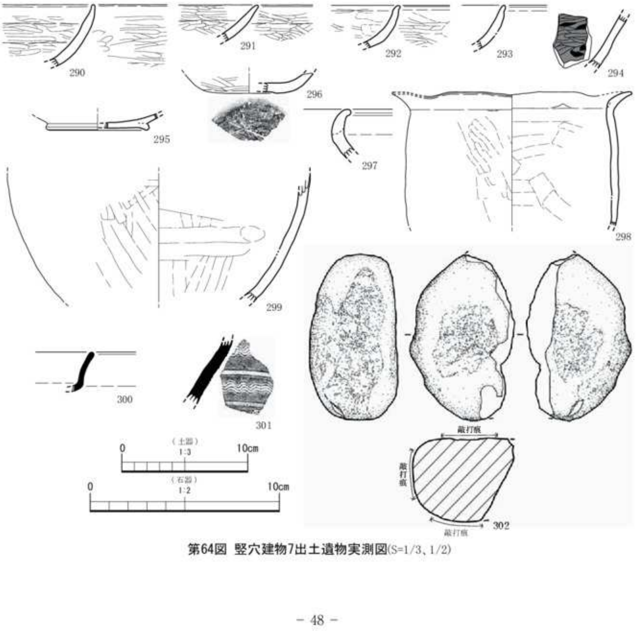
1:10YR2/3 黒褐色。締りやや有。粘性やや弱い。砂混シルト。カマド粘土粒、焼土粒、炭化物粒多量に含む。竪穴建物7埋土。別竪穴建物埋土の可能性有。
2:10YR4/2 灰黄褐色。締りやや弱い。粘性弱い。砂混シルト。カマド粘土粒、焼土粒、炭化物粒多量に含む。アカホヤブロック含む。竪穴建物7埋土。別竪穴建物の柱穴埋土の可能性有。
3:10YR3/2 黒褐色。締りやや有。粘性やや弱い。砂混シルト。カマド粘土粒、焼土粒、炭化物粒多量に含む。アカホヤブロック多量に含む。竪穴建物7埋土。
4:10YR3/1 黒褐色。締りやや有。粘性やや弱い。砂混シルト。カマド粘土粒、焼土粒、炭化物粒多量に含む。アカホヤブロック多量に含む。竪穴建物7埋土。
5:10YR3/1 黒褐色。締りやや有。粘性やや弱い。砂混シルト。アカホヤブロック多量に含む。竪穴建物7埋土。
6:10YR4/2 灰黄褐色。締りやや弱い。粘性やや弱い。砂混シルト。カマド粘土粒、焼土粒、炭化物粒多量に含む。竪穴建物7埋土。
7:10YR3/1 黒褐色。締り有。粘性弱い。砂混シルト。アカホヤ・黒色ロームブロック多量に含む。竪穴建物7貼床。
8:10YR2/1 黒色。締り有。粘性弱い。砂混シルト。黒色ローム主体土。貼床。
9:10YR3/2 黒褐色。締りやや弱い。粘性弱い。砂混シルト。アカホヤ・黒色ロームブロック多量に含む。
10:10YR2/1 黒色。締りやや弱い。粘性やや有。シルト。アカホヤブロック少量混ざる。溝状遺構45埋土。
11:10YR1.7/1 黒色。締りやや弱い。粘性やや有。シルト。アカホヤブロック中量混ざる。竪穴建物8埋土。
12:10YR1.7/1 黒色。締りやや弱い。粘性やや有。シルト。アカホヤブロック多量に混ざる。竪穴建物8埋土。

1:7.5YR3/2 黒褐色。締りやや弱い。粘性やや弱い。砂混シルト。カマド粘土粒、焼土粒、黒色ロームブロック多量に含む。竪穴建物6埋土。
2:7.5YR2/2 黒褐色。締りやや有。粘性やや弱い。砂混シルト。カマド粘土粒、黒色ロームブロック多量に含む。竪穴建物6埋土。
3:7.5YR3/2 黒褐色。締りやや有。粘性やや弱い。砂混シルト。カマド粘土粒、アカホヤブロック、黒色ロームブロック多量に含む。土坑15埋土。

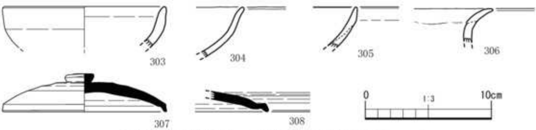
第62図 竪穴建物6・7・8・56及び土坑15実測図(S=1/60)



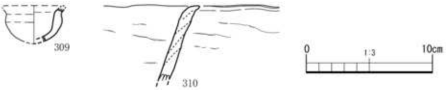
第63図 竪穴建物6出土遺物実測図(S=1/3、1/2)



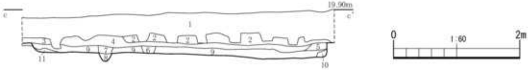
第64図 竪穴建物7出土遺物実測図(S=1/3、1/2)



第65図 竪穴建物7カマド付近出土遺物実測図(S=1/3)

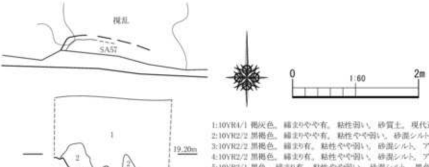


第66図 竪穴建物8出土遺物実測図(S=1/3)



1:現代造土。
2:10YR3/2 黒褐色。締り有。粘性やや弱い。砂混シルト。灰白粘土粒、焼土粒、軽石粒含む。中近世造成土。
3:10YR4/3 にぶい黄褐色。締り有。粘性やや弱い。砂混シルト。灰白粘土粒、焼土粒、軽石粒含む。中近世造成土。
4:10YR3/2 黒褐色。締りやや有。粘性やや弱い。砂混シルト。灰白粘土粒、焼土粒含む。竪穴建物埋土。
5:10YR4/4 褐色。締りやや弱い。粘性やや弱い。砂混シルト。アカホヤ火山灰主体土。
6:10YR3/2 黒褐色。締りやや弱い。粘性やや弱い。砂混シルト。灰白粘土粒、焼土粒少量含む。
7:10YR3/2 黒褐色。締りやや弱い。粘性やや弱い。砂混シルト。牛の脛ロームブロック含む。
8:10YR2/2 黒褐色。締りやや弱い。粘性やや弱い。砂混シルト。牛の脛ロームブロック含む。
9:10YR2/2 黒褐色。締りやや有。粘性やや弱い。砂混シルト。アカホヤ火山灰ブロック、牛の脛ロームブロック多量に含む。
10:10YR8/8 黄橙色。締りやや弱い。粘性弱い。砂質土。アカホヤ火山灰主体土。
11:2.5YR3/3 暗オリーブ褐色。締りやや有。粘性弱い。砂質土。牛の脛ロームブロック主体土。

第67図 竪穴建物56土層断面図(S=1/60)

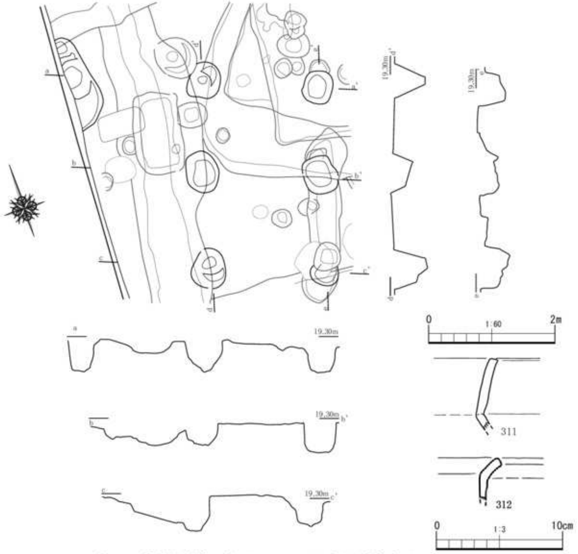


1:10YR4/1 褐灰色。締まりやや有。粘性弱い。砂質土。現代遺物含む。表土。
2:10YR2/2 黒褐色。締まりやや有。粘性やや弱い。砂混シルト。アカホヤブロック多量に含む。SA57 埋土。
3:10YR2/2 黒褐色。締まり有。粘性やや弱い。砂混シルト。アカホヤ。牛の脛ブロック多量に含む。貼床。
4:10YR2/2 黒褐色。締まり有。粘性やや弱い。砂混シルト。アカホヤ小ブロック微量に含む。貼床。
5:10YR2/1 黒色。締まり有。粘性やや弱い。砂混シルト。黒色ローム主体土。貼床。

第68図 竪穴建物57実測図(S=1/60)

して検出された箇所から出土した遺物である。303 から 305 は土師器坏である。303 はやや厚手で丸みを帯びた器形となる。306 は土師器甕である。口縁部を外反させるが屈曲部の稜は鈍い。307、308 は須恵器坏蓋である。307 は天井部につまみが付く。

竪穴建物 8 は平面方形で南北長 4.0 m、東西長 3.75 m以上、検出面からの深さ 0.15 mを測る。主柱穴は撹乱で 1 基滅失しているが、配置から主柱は 4 本と考えられ、柱穴径は 0.3 mから 0.45 m程度である。床面付近のみ残存していたためか遺物の出土量は少量であった。309 は土師器鉢のミニチュアである。310 は土師器甕で口縁部まで直線的に立ち上がる。

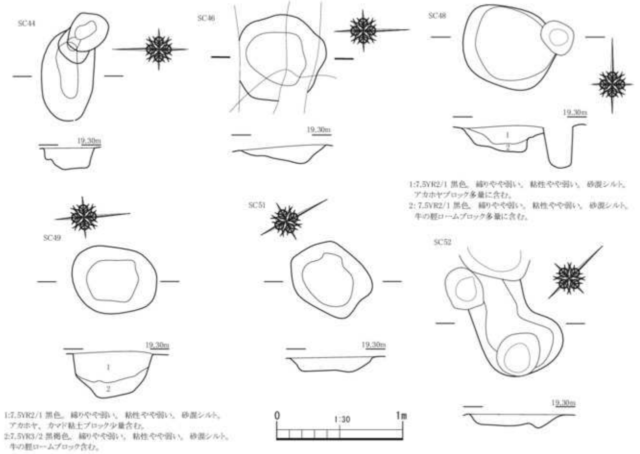


第69図 掘立柱建物50実測図(S=1/60)**及び出土遺物実測図**(S=1/3)

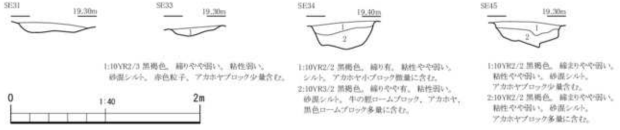
竪穴建物 56 は調査区の東端に位置し、大部分が調査区外へ広がっている。また建物西側は溝状遺構 4 に削平されており平面形は明らかではない。検出範囲が狭小なため判然としないが本来は 2 軒以上の竪穴建物が重複していると考えられる。調査区東壁で土層断面を確認したところ残存深は 0.24 m で直上まで中近世の造成により削平を受けている。床面にはアカホヤ火山灰ブロックと牛の脛ロームブロックを多量に含む貼床が施されていた。遺物は土師器細片が出土したが図化に耐えうる資料はなかった。

竪穴建物 57（第 68 図）

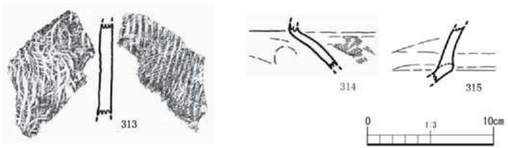
竪穴建物 57 は調査区南東隅付近において検出された。建物の北西角付近のみが検出されたことに加え、撹乱に大部分が切られているため詳細は明らかではない。床面にはアカホヤ火山灰ブロックと牛の脛ロームブロックを多量に含む貼床が施されていた。遺物は土師器細片が出土したが図化に耐えうる資料はなかった。



第70図 古墳時代・古代土坑実測図(S=1/30)



第71図 古墳時代・古代溝状遺構土層断面図(S=1/40)

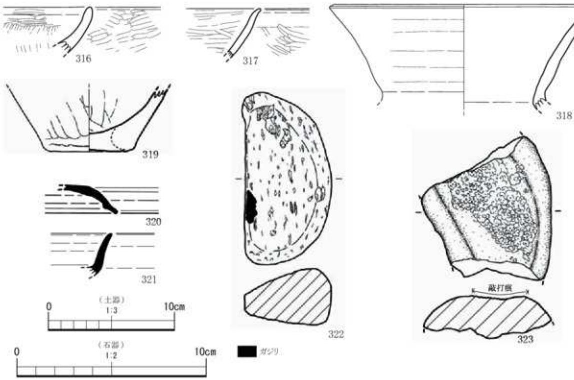


第72図 溝状遺構31・45出土遺物実測図(S=1/3)

第２項　掘立柱建物

掘立柱建物 50（第 69 図）

掘立柱建物 50 は調査区西端中央付近で検出された総柱掘立柱建物である。2 間 × 2 間と想定すると、西列の中央と南の柱穴は調査区外に位置する。建物規模は柱穴中央で計測すると東



第73図 古墳時代・古代ピット出土遺物実測図(S=1/3、S=1/2)

西長 3.6 m、南北長 3.0 m である。柱穴径は 0.45 m から 0.7 m 程度で、検出面からの深さは最も深いもので 0.5 m 程度である。柱穴間は東西方向が 1.8 m から 2.0 m、南北が 1.4 m から 1.6 m である。遺物は土師器出土している。311 は土師器甕で、頸部が「く」の字状に屈曲し口縁部は長く直線的に立ち上がる。312 は弥生土器の甕で、口縁部が短く、頸部の屈曲は「く」の字状に屈曲するものの、やや屈曲が弱く外面の稜は鈍い。

第 3 項　土坑

土坑 44・46・48・49・51・52（第 70 図）

土坑 44 は調査区中央付近で検出された平面楕円形の土坑で、長軸 0.72 m、短軸 0.4 m、横断面形は逆台形で検出面からの深さ 0.18 m を測る。溝状遺構 45 を切り竪穴建物 18 に切られる。

土坑 46 は調査区中央やや東寄りで検出された平面歪な円形の土坑で、径 0.68 m、断面形は皿状で検出面からの深さは 0.14 m を測る。竪穴建物 12 に切られる。

土坑 48 は調査区中央やや南西寄りで検出された平面歪な円形の土坑で、径 0.78 m、検出面からの深さ 0.2 m を測る。竪穴建物 18 に切られる。

土坑 49 は調査区中央西寄りで検出された平面楕円形の土坑で、長軸 0.67 m、短軸 0.54 m、横断面形はボウル状を呈し検出面からの深さ 0.36 m を測る。竪穴建物 17 の床面から検出されたが、埋土中にカマド粘土粒を含むため建物内土坑の可能性もある。

土坑 51 は調査区中央南東寄りで検出された平面歪な円形の土坑で、径 0.62 m を測る。横断面形は皿状で検出面からの深さは 0.1 m を測る。竪穴建物 35、43 に切られ、土坑 52 を切る。

土坑 52 は平面不整形の土坑で、長軸 0.8 m 以上、短軸 0.64 m、断面形は皿状を呈し検出面からの深さ 0.1 m を測る。

何れの土坑も図化に耐えうる遺物の出土はなかった。

第 4 項　溝状遺構

溝状遺構 31・33・34・45（第 71 図・第 72 図）

溝状遺構 31 は調査区北西隅付近で検出された溝状遺構である。横断面測量位置での幅は 0.72 m、検出面からの深さは 0.12 m を測る。横断面形は浅い皿状を呈す。313 は溝状遺構 31 で出土した須恵器甕である。

溝状遺構 33 は調査区南西隅付近で検出された溝状遺構である。竪穴建物 37 と切り合い関係にあるが、撹乱により竪穴建物 37 の埋土がほとんど残存していなかったため、前後関係は判然としなかった。横断面形は浅い皿状を呈し、検出面からの深さは 0.08 m である。

溝状遺構 34 は調査区北西隅で検出された溝状遺構である。横断面測量位置での幅は 0.65 m、検出面からの深さは 0.28 m である。横断面形は逆台形状を呈す。線形を南東方向に延長すると溝状遺構 1 を挟んで溝状遺構 45 と一致する点と埋土が近似することから同一の遺構である可能性が高い。

溝状遺構 45 は調査区北西側から南東側へ横断する形で検出された溝状遺構である。横断面形は歪な逆台形状で、横断面測量位置での幅は 0.72 m、検出面からの深さは 0.28 m を測る。埋土に水成堆積が見られない点と直線的な線形から区画溝と想定される。314、315 は溝状遺構 45 から出土した土師器である。314 は土師器壺肩部で、内面に指頭圧痕が残り、外面は細かなハケメで調整されている。315 は土師器二重口縁壺の口縁部である。二次口縁は一次口縁の上部に乗せ接合している。溝状遺構 45 の出土遺物は少数であり、竪穴建物 53 と切り合い関係にある付近から出土していることから、本来は竪穴建物 53 に帰属する遺物の可能性がある。

第 5 項　ピット出土遺物（第 73 図）

316、317 は土師器坏である。316 は器壁が厚手で口縁部が内湾しながら立ち上がる。317 は口縁端部を外方へ摘まみだしている。318、319 は土師器壺である。318 は単口縁の広口壺で、口縁部はやや外反しながら大きく開く。319 は壺底部で充填により底部を塞いでいる。320 は須恵器坏蓋、321 は須恵器坏である。320 は口縁部にかえりが付く。322 は軽石製品で蜜柑の房状に成形しているが用途は不明である。323 は砂岩製敲石である。

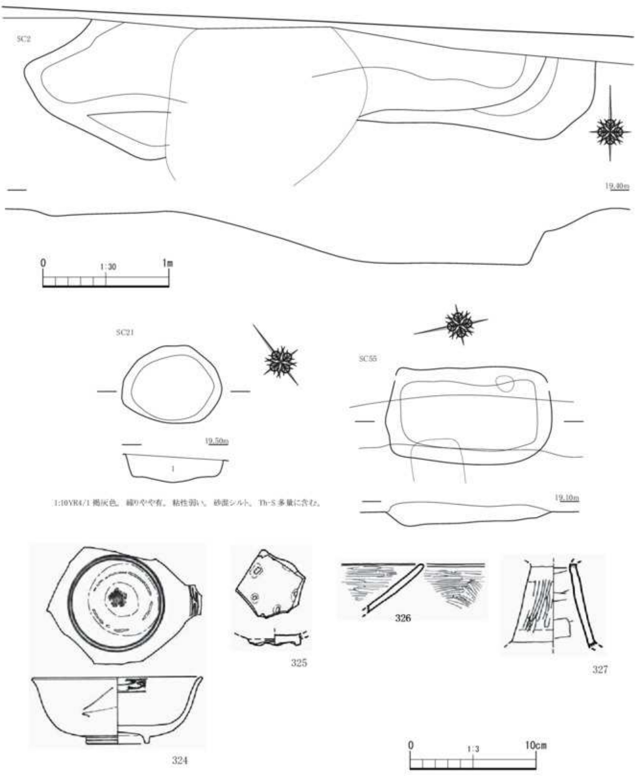
その他、土坑 40、54 も黒ボク土主体の埋土からみると当該期に帰属するが、残存状況が悪く詳細は明らかではない。

第 4 節　中近世の調査成果

中世から近世の遺構は土坑 3 基、溝状遺構 3 条が検出された。

土坑 2・21・55（第 74 図）

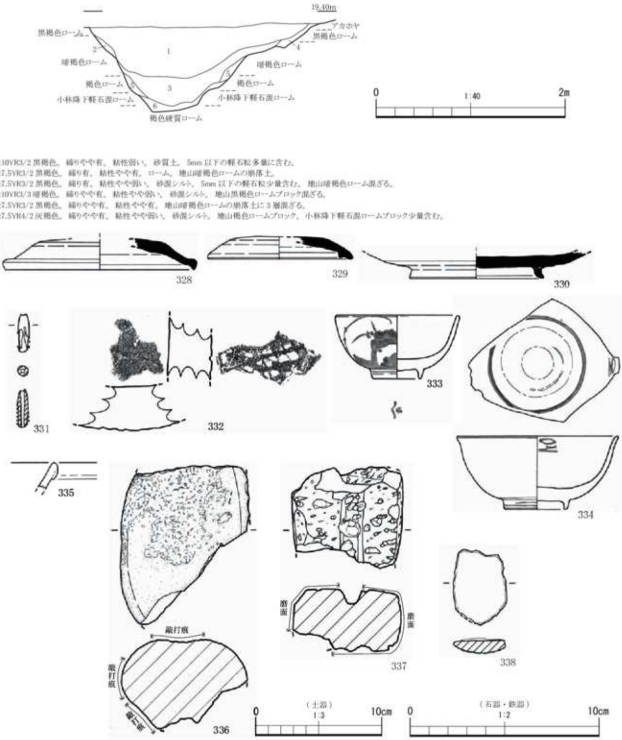
土坑 2 は調査区北西隅付近で検出された、長軸 5.0 m、短軸 1.06 m 以上、検出面からの深さ 0.45 m を測る大形の土坑である。平面形は不整形で、断面形は複数のテラス状の段を有する。遺物量は多くないものの、不整形であることや均質な埋土であったことから廃棄土坑と想定され



第74図 土坑2・21・55実測図(S=1/30)**及び出土遺物実測図**(S=1/3)

る。324は磁器染付碗である。見込みにコンニャク印判の五弁花が施され、蛇の目釉剥ぎである。325は抉り高台の白磁坏である。

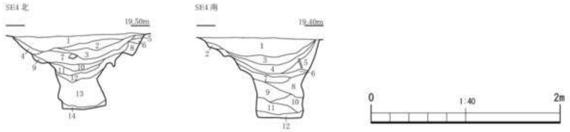
土坑21は調査区中央付近で検出された。平面形は楕円形で、長軸0.78 m、短軸0.62 m、検出面からの深さ0.2 mを測る。古代以前の遺構と異なり埋土の色調が灰色がかり、埋土中にTh-Sを多量に含む。遺物は土師器片が出土した。326は土師器高坏の坏部片で内外面細かなミ



第75図 溝状遺構1土層断面図(S=1/40)及び出土遺物実測図(S=1/3、1/2)

ガキ調整が施される。327 も土師器高坏の脚部で外面はミガキ調整、内面はケズリ調整である。326、327 共に古墳時代中期に位置付けられる資料であり、土坑 21 が竪穴建物 53 を切っていることから、本来は竪穴建物 53 に帰属する遺物と考えられる。

土坑 55 は調査区西端付近で検出された土坑である。大部分を溝状遺構 3 に切られていたことから底面付近のみ残存していた。土坑南東側で赤色の漆膜が出土した。内部の木質が完全に失われており、取り上げたものの原形を保つことができなかったが、形状から木製椀と想定される。遺物は図化に耐えうる資料は出土しなかった。



SE4 北土層注記
1:10YR3/2 黒褐色。締り有。粘性弱い。砂混シルト。5mm 以下の軽石粒多量に含む。焼土粒含む。
2:7.5YR3/2 黒褐色。締り有。粘性弱い。砂混シルト。灰白粘土ブロック多量に、焼土粒、黒褐色ロームブロック含む。
3:10YR3/2 黒褐色。締り有。粘性弱い。砂混シルト。5mm 以下の軽石多量に含む。
4:7.5YR3/2 黒褐色。締りやや有。粘性やや弱い。シルト。暗褐色ロームブロック含む。
5:7.5YR3/2 黒褐色。締りやや有。粘性やや弱い。シルト。暗褐色ロームブロック含む。
6:7.5YR3/2 黒褐色。締り有。粘性弱い。砂混シルト。灰白粘土ブロック多量に、焼土粒、黒褐色ロームブロック含む。
7:7.5YR3/2 黒褐色。締り有。粘性弱い。砂混シルト。灰白粘土ブロック多量に、焼土粒含む。
8:7.5YR3/2 黒褐色。締り有。粘性弱い。砂混シルト。灰白粘土ブロック少量含む。
9:7.5YR3/2 黒褐色。締りやや有。粘性やや弱い。シルト。暗褐色ロームブロック、黒褐色ロームブロック含む。
10:7.5YR3/2 黒褐色。締り有。粘性弱い。砂混シルト。灰白粘土ブロック多量に、焼土粒、黒褐色ロームブロック含む。
11:7.5YR3/2 黒褐色。締りやや有。粘性やや弱い。シルト。暗褐色ロームブロック、黒褐色ロームブロック含む。
12:7.5YR3/2 黒褐色。締り有。粘性弱い。砂混シルト。灰白粘土ブロック多量に、焼土粒、黒褐色ロームブロック含む。
13:7.5YR2/2 黒褐色。締りやや有。粘性弱い。砂混シルト。アカホヤブロック少量、黒褐色ロームブロック多量に含む。
14:7.5YR3/2 黒褐色。締り有。粘性やや弱い。シルト。暗褐色ロームブロック崩落土。

SE4 南土層注記
1:7.5YR3/1 黒褐色。締りやや弱い。粘性やや弱い。砂混シルト。5mm 以下の軽石多量に含む。
2:7.5YR4/1 灰褐色。締りやや弱い。粘性やや有。砂混シルト。1 と竪穴建物 7 の埋土混ざる。カマド粘土小ブロック含む。
3:7.5YR2/2 黒褐色。締りやや有。粘性やや弱い。砂混シルト。5mm 以下の軽石粒多量に含む。
4:7.5YR3/2 黒褐色。締りやや有。粘性やや弱い。砂混シルト。5mm 以下の軽石粒含む。
5:7.5YR3/2 黒褐色。締りやや有。粘性やや弱い。砂混シルト。5mm 以下の軽石粒含む。アカホヤ小ブロック含む。
6:7.5YR3/2 黒褐色。締りやや有。粘性やや弱い。砂混シルト。アカホヤ小ブロック含む。
7:7.5YR3/2 黒褐色。締り有。粘性やや弱い。シルト。地山暗褐色ローム主体土。
8:7.5YR3/1 黒褐色。締りやや有。粘性やや弱い。シルト。地山暗褐色ローム主体土。
9:10YR3/2 黒褐色。締りやや有。粘性やや弱い。砂混シルト。竪穴建物 7 埋土主体土。アカホヤ、カマド粘土小ブロック含む。
10:10YR2/2 黒褐色。締りやや有。粘性やや弱い。シルト。アカホヤ、黒褐色ロームブロック含む。
11:10YR4/2 灰黄褐色。締りやや有。粘性やや弱い。砂混シルト。アカホヤ、黒褐色ロームブロック含む。
12:7.5YR3/1 黒褐色。締り有。粘性有。ローム。地山暗褐色ローム崩落土。

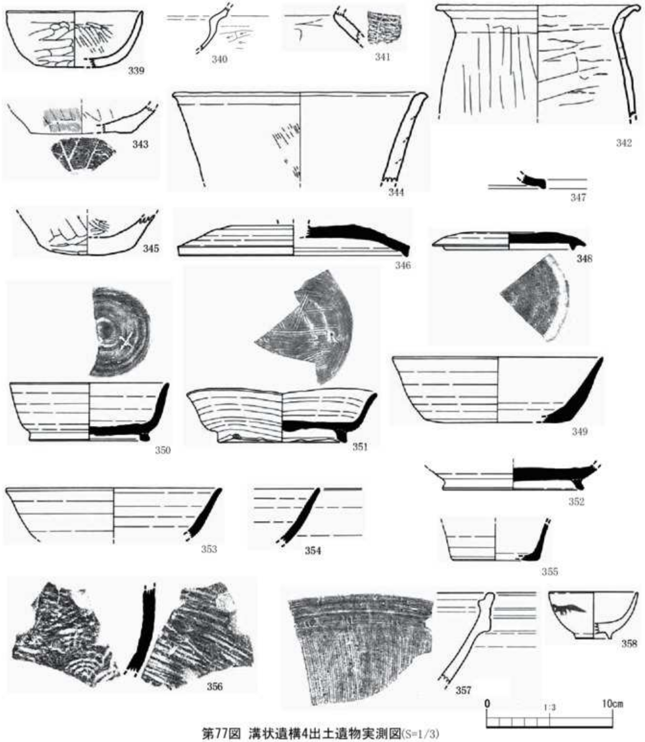
第76図　溝状遺構4土層断面図(S=1/40)

溝状遺構 1（第 75 図）

溝状遺構 1 は調査区北側を西南西から東北東に伸びる溝で、起点は両端共に調査区外である。横断面形は南側の傾斜がやや緩い逆台形状で、土層断面測量位置では、幅 2.41 m、深さ 0.88 m を測る。底面はシラス直上層の褐色硬質ローム層である。線形は直線的であり、調査区外で溝状遺構 4 とほぼ直交する。溝の幅に違いが見られるが、埋土も近似していることから区画溝として両者が併存していた可能性が高い。遺物は古墳時代から近世までの遺物が出土している。328、329 は須恵器坏蓋である。329 はつまみがなく口縁部内面にかえりが付く。330 は須恵器皿である。やや「八」字状に開く高台が付く。331 は土錘である。332 は古代の平瓦片で、内面は布目痕、外面は格子タタキが残る。333、334 は磁器染付碗である。334 は蛇の目釉剥ぎである。335 は白磁碗で、口縁部が肉厚な玉縁になる大宰府分類碗Ⅳ類に位置付けられる。336 は砂岩製の敲石で部分的に被熱により赤化している。337 は軽石製品で、横断面隅丸方形に整形し、溝を掘り込み、溝に合わせて一ヶ所穴を開けている。338 は不明鉄製品である。

溝状遺構 4（第 76 図、第 77 図）

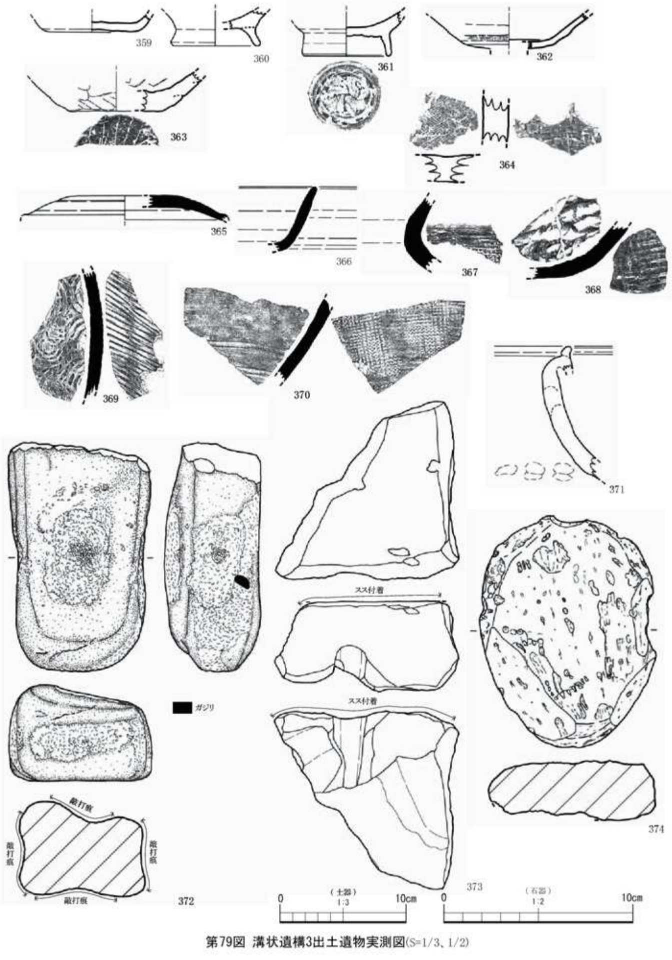
溝状遺構 4 は調査区東端付近を北北東から南南西に向け伸びる溝状遺構で、起点は両端共に調査区外である。横断面形は下半が箱形であるが、上半は緩い U 字形となる。土層断面測量位置では、北土層断面が幅 1.4 m、検出面からの深さ 0.78 m、南土層断面が幅 1.26 m、検出面からの深さ 0.84 m を測る。下半は埋土が近似することや土層堆積状況から埋め戻されたと



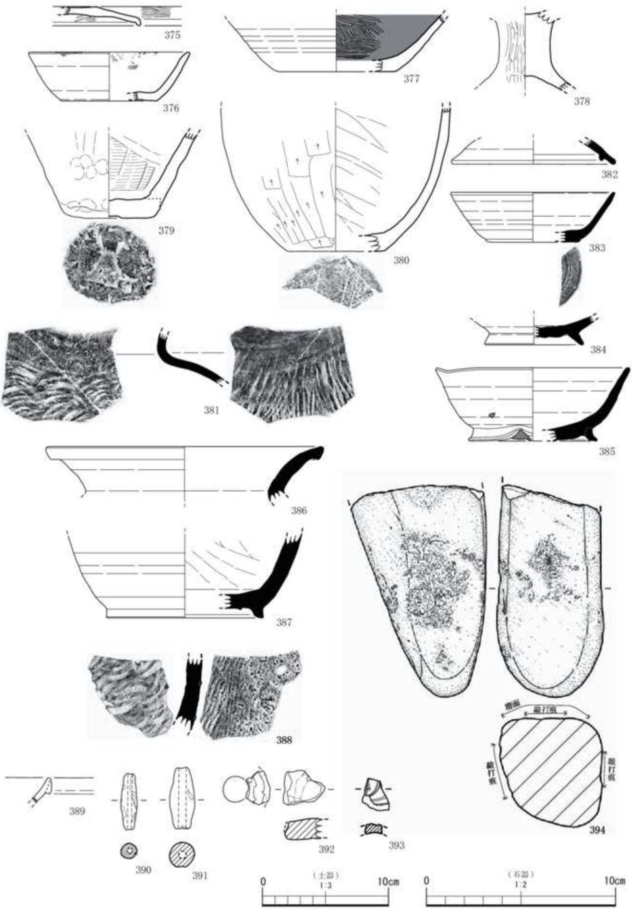
第77図 溝状遺構4出土遺物実測図(S=1/3)

1:7.5YR2/2 黒褐色。締りやや弱い。粘性弱い。砂混シルト。2mm程度の軽石粒含む。
2:7.5YR3/2 黒褐色。締りやや有。粘性やや弱い。シルト。2mm程度の軽石粒少量含む。
3:7.5YR3/2 黒褐色。締りやや有。粘性やや弱い。砂混シルト。2層に地山アカホヤブロック少量混ざる。

第78図 溝状遺構3土層断面図(S=1/40)



第79図 溝状遺構3出土遺物実測図(S=1/3、1/2)



第80図 その他出土遺物実測図(S=1/3)

考えられ、上半はレンズ状の堆積となっていることから自然に埋没していったと考えられる。線形は直線的であり、溝状遺構1の報告で記載したように区画溝と考えられる。ただし、現在の造成により撹乱されていた影響もあると思われるが、今回の調査範囲の中では、溝状遺構1と溝状遺構4で画された区画内に特筆すべき近世の遺構は検出されなかった。遺物は古墳時代から古代の竪穴建物群を切っていることから、それらの時代の遺物が多量に出土した。339は土師器坏である。底部は平底気味で内外面ミガキ調整を施す。340は土師器鉢である。布留式系の有段口縁鉢で頸部内面の稜はやや緩くなっている。341は土師器甕肩部片である。外面はタタキ調整で線刻が施されている。342、343は土師器甕である。342は口縁端部を折返し肥厚させ、343は底部に木葉痕が残る。344、345は土師器壺で、344は口縁部が直線的に立ち上がる。346から348は須恵器坏蓋で、346は欠損しているがつまみが付く。348はつまみがなく口縁部内面にかえりが付く。天井部にヘラ記号が施されている。349から354は須恵器坏である。350、351は高台付坏で351は焼歪みが著しい。355は須恵器コップ形須恵器A類である。薄手で内面に自然釉が付着する。356は須恵器甕胴部片である。357は陶器擂鉢である。358は磁器染付の猪口である。

溝状遺構3（第78図、第79図）

溝状遺構3は調査区の西端付近を南北方向に伸びる溝状遺構である。北側の起点は調査区内に所在するが南側の起点は調査区外となっている。前述のとおり、調査区周辺は本来、北から南へと緩やかに下降傾斜する地形となっていたと考えられることから、溝状遺構3は地形の傾斜に沿った直線的な線形となっている。横断面形は皿状を呈し、土層断面測量位置では、幅1.02m、検出面からの深さ0.24mを測る。遺物は底面からやや浮いた位置で多量に出土している。359は土師器坏である。360、361は土師器高台付埦である。360は「八」の字状に開く長い高台が、361は長く垂直に近い角度の高台が付く。361は高台内の外底面に放射状の調整が施されている。362は土師器高坏である。363は土師器甕で外底面に木葉痕が残る。364は古代の平瓦である。365は須恵器坏蓋、366は須恵器坏である。367、369、370は須恵器甕、368は須恵器甕もしくは壺である。371は常滑焼の甕である。372は砂岩製敲石である。373は不明石製品であるが、強い被熱により赤化している。374は軽石製品である。

その他出土遺物（第80図）

ここでは表土や包含層から出土した遺物を報告する。375は土師器坏蓋で、内外面に細かなミガキ調整を施す。376は土師器もしくは焼成不良の須恵器である。燈明具として使用しており口縁部に炭化物が付着する。377は黒色土器A類の坏である。内面に炭素を吸着させ細かなミガキ調整を施している。378は土師器高坏脚柱部である。379、380は土師器甕である。381は焼成不良の須恵器甕である。382は須恵器坏蓋で口縁部内面にかえりが付く。383は須恵器坏、384、385は須恵器高台付坏である。386、388は須恵器甕、387は須恵器長頸壺である。389は白磁碗で太宰府分類椀Ⅳ類に位置付けられる。390、391は土錘である。392は鞴羽口、393は土人形である。394は砂岩製敲石で被熱により赤化している。

第2表 出土土器観察表①

掲載頁 図番号	番号	遺構等	種別 器種	法量cm （ ）:復元 口径	 底径	 器高	色調 外面	 内面	焼成	調整 外面	 内面	胎土(上:mm 下:量) A	 B	 C	 D	 E	備考	実測 番号
p.9 第6図	1	SA47	土師器 高杯	—	—	—	橙 2.5YR6/6	橙 5YR6/6	良好	ミガキ	ミガキ						胎土 褐1mm/多	240
	2	SA47	土師器 高杯	—	—	—	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR6/4	良好	ナデ? (表面剥落)	しぼり痕 ヘラケズリ ナデ						被熱痕 胎土 灰白1mm/僅	237
	3	SA47	土師器 高杯	—	—	—	橙 7.5YR6/6	褐灰 7.5YR4/1	良好	ヨコナデ? (表面剥落)	ケズリ ナデ						胎土 灰白2mm/少 黒微/僅	236
	4	SA47	土師器 高杯	—	—	—	橙 5YR6/6	橙 5YR6/6	良好	ナデ ミガキ	ナデ ヨコナデ ミガキ		微 多		微 多		胎土 赤1mm/多	235
	5	SA47	土師器 高杯	—	—	—	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい橙 7.5YR6/4	良好	ミガキ ヨコナデ	ナデ ケズリ ヨコナデ		1 多				胎土 灰2mm/多 褐1mm/多	234
	6	SA47+SA18	土師器 高杯	—	—	—	橙 7.5YR6/6	にぶい黄橙 10YR6/4	良好	ナデ ミガキ ヨコナデ	ミガキ ケズリ		0.5 僅	0.5 多			内面 黒斑 胎土 茶微/僅	247
	7	SA47	土師器 高杯	—	(13.6)	—	橙 7.5YR6/6	橙 7.5YR6/6	良好	ナデ	ヨコナデ		1 僅	微 多			内面 黒斑 胎土 灰1mm/僅	239
	8	SA47	土師器 高杯	—	—	—	にぶい黄橙 10YR7/3	にぶい黄橙 10YR7/3	良好	ミガキ	ナデ 指押さえ ミガキ			微 多			穿孔は計4箇所か	238
	9	SA47+SA18	土師器 器台	(10.7)	—	—	明黄褐 10YR7/6	橙 7.5YR7/6	良好	ミガキ ヨコナデ	ナデ ハケ目		0.5 僅	0.5 多			布留式小形器台 坏部の外・内面調整不明 胎土 灰2mm/僅	243
	10	SA47	土師器 壺	—	—	—	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい橙 7.5YR6/4	良好	縦筋ミガキ ケズリ	縦筋ミガキ 指ナデ		微 少				ミニチュアか? 胎土 灰,褐微/少	231
p.10 第7図	11	SA47+SA18	土師器 甕	26.25	—	—	にぶい橙 7.5YR6/4	橙 7.5YR6/6	良好	ヨコナデ タタキの後工具ナデ	ヨコナデ 工具ナデ	3.5 多	2 少				外面 一部スス付着 黒斑 内面 一部黒斑	245
	12	SA47+SA12	土師器 甕	(19.7)	—	—	橙 7.5YR7/6	橙 5YR7/6	良好	ヨコナデ タタキの後工具ナデ タタキの後ヘラケズリ	ヨコナデ 工具ナデ ケズリ 調工具ナデ 箒状工具ナデ			微 僅			外内面 スス付着 黒斑 胎土 褐3mm/多 灰2mm/少	250
	13	SA47	土師器 甕	(21.6)	—	—	橙 7.5YR6/6	橙 5YR6/6	良好	ナデ? 指押さえ 工具ナデ	ハケ目 工具ナデ	2 多	微 僅	2 僅				223
	14	SA47+SA18	土師器 甕	(22.4)	—	—	浅黄橙 10YR8/4	浅黄橙 7.5YR8/6	良好	ヨコナデ タタキ	ヨコナデ ヘラケズリの後ナデ	4 多	1 僅	1 少			表面摩滅 外面 スス付着	232
	15	SA47	土師器 甕	—	—	—	にぶい黄橙 10YR7/4	浅黄橙 10YR8/4	良好	ヨコナデ 工具ナデ	ヨコナデ 工具ナデ	2 少	1 僅				外面 スス付着	212
	16	SA47	土師器 甕	(21.8)	—	—	橙 5YR6/6	橙 5YR6/6	良好	ヨコナデ	ヨコナデ ナデ	2 少	微 少		1 僅		外面 スス付着	215
	17	SA47	土師器 甕	(16.9)	—	—	にぶい橙 7.5YR6/4	明黄褐 10YR7/6	良好	ヨコナデ ナデ	ヨコナデ	2 多	1 少					220
	18	SA47+SA18	土師器 甕	—	—	—	にぶい橙 7.5YR6/4	橙 7.5YR7/6	良好	ヨコナデ ナデ	ヨコナデ ナデ		1 少				外面 黒斑 胎土 茶,黒,灰3mm/多	214
	19	SA47	土師器 甕	(11.8)	—	—	黄橙 7.5YR7/8	橙 7.5YR7/6	良好	ナデ ヨコナデ	ナデ ヘラケズリ						布留式 胎土 褐2mm/多 灰1mm/	226
	20	SA47	土師器 甕	—	—	—	明黄褐 10YR7/6	明黄褐 10YR7/6	良好	ヨコナデ ハケ目 ナデ	ヨコナデ ケズリ		1 多				布留式	233
p.11 第8図	21	SA18+SA47+SH130+Ⅳ-SA群	土師器 甕	—	4.7	—	にぶい橙 5YR6/4	にぶい橙 2.5YR6/3	良好	タタキ タタキの後一部板ナデ	ハケ目 ハケ目の後指押さえ	3 多	1 多	2 多			外面 スス付着 底面 タタキの後ナデ 胎土 灰2mm/多 褐1mm/	110
	22	SA47+SA18	土師器 甕	—	—	—	橙 5YR6/6	橙 5YR6/6	良好	ナデ ヨコナデ	ナデの後ヨコナデ ナデ		1 多				外面 黒色物付着 胎土 褐2mm/多	216
	23	SA47+SA18+Ⅳ-SA群	土師器 甕	—	—	—	にぶい褐 7.5YR5/3	灰褐 7.5YR5/2	良好	ナデ	ナデ(摩滅の為不明瞭)		1 僅				胎土 褐4mm/僅 灰2mm/少 黒2mm/僅	211
	24	SA47	土師器 甕or壺	—	—	—	にぶい褐 7.5YR6/3	暗灰黄 2.5YR5/2	良好	工具ナデ	ヨコナデの後工具ナデ		1 少				胎土 灰1mm/多 褐1mm/僅	210
	25	SA47	土師器 甕	—	—	—	にぶい褐 7.5YR5/3	灰黄褐 10YR5/2	良好	タタキの後ナデ	ナデ		1 僅				外面 赤色顔料付着 胎土 灰,茶,黒3mm/少	241
	26	SA18+SA47	土師器 甕	—	—	—	にぶい黄褐 10YR5/3	灰黄褐 10YR5/2	良好	ナデ(表面剥落)	ナデ 指押さえ		1 多		1 少		外面 スス付着 胎土 灰,褐1mm/多	114
	27	SA47	土師器 甕	—	4.3	—	明赤褐 5YR5/6	明赤褐 2.5YR5/6	良好	ナデ	ハケ目の後ナデ						底面 ナデ 胎土 褐4mm/多 灰白2mm/少 黒1mm/	225
	28	SA47	土師器 甕	—	8.4	—	灰褐 7.5YR4/2	にぶい橙 7.5YR6/4	良好	工具ナデ ケズリ	ナデ		1 僅				外面 スス付着 底面 木葉底 胎土 灰,褐1mm/少	217
	29	SA47	土師器 甕	—	(6.35)	—	灰黄褐 10YR6/2	黄灰 2.5Y4/1	良好	ナデ 指押さえ	ナデ		2 少				底面 ナデ 胎土 灰1mm/多 褐1mm/	221
	30	SA47	土師器 甕	—	3.6	—	にぶい黄橙 10YR5/3	にぶい黄橙 10YR5/3	良好	ナデ	指ナデ						輪台充填技法 被熱痕 底面 ナデ 指押さえ 胎土 黒2mm/僅 灰2mm/多	228
	31	SA47	土師器 壺	—	—	—	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR6/3	良好	波状文 沈線文 ナデ	ナデ		微 多		0.5 多		胎土 褐1mm/僅	229
	32	SA47	土師器 甕	—	—	—	黄灰 2.5Y4/1	黄灰 2.5Y4/1	良好	ハケ目 ヨコナデ	ヨコナデ		微 多					230
	33	SA47	土師器 壺	—	—	—	にぶい黄橙 10YR7/3	橙 7.5YR7/6	良好	ヨコナデ ハケ目の後ヨコナ	ハケ目の後ヨコナデ						胎土 褐3mm/少 灰2mm/多	227
	34	SA47	土師器 壺	(15.8)	—	—	橙 7.5YR7/6	橙 7.5YR7/6	良好	ヨコナデ 指押さえ ハケ目	ハケ目 ケズリ	1 多	4 少				胎土 灰,白,黒6mm/多	224
	35	SA18+SA47	土師器 壺	(14.0)	—	—	にぶい黄橙 10YR7/4	浅黄橙 10YR8/4	良好	ヨコナデ ナデ	ハケ目の後ヨコナデ 工具ナデ(不明瞭)		2 少	1.5 少			胎土 茶3.5mm/多	111
p.12 第9図	36	SA47	土師器 壺	14.0	—	—	橙 5YR6/6	橙 7.5YR6/6	良好	ヨコナデ ハケ目 ナデ?	ヨコナデ 指押さえ ハケ目	1.5 多	1 多				口縁部歪み	222
	37	SA47	土師器 壺	(13.6)	—	—	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR6/3	良好	ヨコナデ 工具ナデ	ヨコナデ ケズリ 調指ナデ		2 僅	1 少			胎土 褐3mm/少 灰白,黒2mm/僅	248
	38	SA47	土師器 壺	—	—	—	明赤褐 5YR5/8	暗灰黄 2.5Y5/2	良好	タタキ ナデ	ヨコナデ ナデ						胎土 灰白,褐3mm/多	213
	39	SA12+SA18+SA36+SA47	土師器 壺	—	—	—	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい褐 7.5YR5/3	良好	ヨコナデ ハケ目 ミガキ	ナデ ハケ目	1 多	1 少	1 少				75
	40	SA47+SA18+SA36	土師器 壺	—	—	—	明黄褐 10YR7/6	にぶい黄橙 10YR7/4	良好	工具ナデの後ナデ	凹線状工具ナデ	2 僅	2 少	3 少			外面 スス付着 胎土 灰,茶,黒3mm/少	249

※胎土 A:宮崎小石 B:長石・石英 C:輝石・角閃石 D:雲母 E:黒染

第3表 出土土器観察表②

掲載頁図番号	番号	遺構等	種別	器種	法量cm ( ):復元 口径	底径	器高	色調 外面	色調 内面	焼成	調整 外面	調整 内面	胎土(上:mm 下:量) A	B	C	D	E	備考	実測番号
p.12 第9図	41	SA47	土師器	甕or壺	—	—	—	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4	良好	工具ナデ ナデ	ナデ 指押さえ			1 僅			外面 スス付着 底面 ナデ 底部内面 黒斑 胎土 灰1mm/僅 褐2mm/少	244
	42	SA47	土師器	壺	—	—	—	橙 5YR6/6	にぶい黄橙 10YR6/4	良好	工具ナデ	ヨコナデ 工具痕		微 僅				胎土 褐2mm/少	218
	43	SA47	土師器	壺	—	3.2	—	橙 7.5YR7/6	橙 7.5YR7/6	良好	ナデ	ナデ 工具ナデ		微 多				外内面 黒斑 底面 ナデ 胎土 灰,褐1mm/多	219
	44	SA47	土師器	壺	—	—	—	浅黄橙 10YR8/4	浅黄橙 10YR8/4	良好	ナデ	ケズリ ハケ目		2 少	微 多			外面 スス付着	246
	45	SA47+SA36	土師器	布留土師	10.1	—	10.45	橙 7.5YR7/6	橙 7.5YR7/6	良好	指押さえ ナデ	布目痕(摩滅)						胎土 褐5mm/少 黒1mm/僅	242
p.15 第11図	50	SA53	土師器	杯	—	—	—	橙 5YR6/6	橙 5YR6/6	良好	ヨコナデ ケズリの後ミガキ ミガキ	ミガキ						胎土 褐1mm/微	267
	51	SA53+SE45	土師器	高杯	—	—	—	橙 7.5YR6/6	にぶい黄橙 10YR6/4	良好	ミガキ	ヨコナデ ケズリ			微 僅			胎土 灰1mm/少	266
	52	SA53	土師器	高杯	—	—	—	橙 5YR6/6	にぶい橙 7.5YR6/4	良好	ミガキ ナデ	ミガキ ナデ ケズリ		1 多				杯部内面 ほぼ黒斑	261
	53	SA53	土師器	高杯	—	(10.0)	—	橙 7.5YR6/6	橙 7.5YR6/6	良好	指押さえの後ナデ ヨコナデ	ヘラケズリ ヨコナデ 工具によるカキ取り						胎土 褐1mm/僅	262
	54	SA53	土師器	高杯	—	—	—	浅黄橙 10YR8/4	黄橙 10YR8/6	良好	ミガキ(摩滅の為不明瞭) ナデ	ナデ ケズリ?(単位不明瞭)			微 少				264
	55	SA53	土師器	高杯	—	(11.5)	—	橙 7.5YR7/6	橙 7.5YR7/6	良好	ミガキ	ナデ ケズリ		微 僅	微 僅			外面 黒斑 胎土 褐1mm/少	263
	56	SA53	土師器	高杯	—	—	—	橙 7.5YR7/6	橙 7.5YR6/6	良好	工具ナデ	ナデ ヘラケズリ		1 少	1 僅			胎土 白,灰,黒2mm/少	277
	57	SA53	土師器	高杯	—	—	—	橙 7.5YR7/6	橙 7.5YR7/6	良好	ナデ	ナデ		1 少	微 僅			胎土 茶,褐1mm/僅 灰2mm/僅	265
	58	SA53+SA26+SA17	土師器	甕	(25.8)	—	—	橙 5YR7/6	橙 5YR6/6	良好	ナデ 貼付突帯に刻み 工具ナデ	ヨコナデ 指押さえ 指ナデ 工具ナデ	4 多	3 少				外面 スス付着 黒斑 胎土 灰,白3mm/多	260
p.16 第12図	59	SA53	土師器	甕	(25.0)	—	—	にぶい黄橙 10YR6/4	にぶい黄橙 10YR6/4	良好	ヨコナデ ナデ(下部剥落の為不明瞭)	ヨコナデ 粗いナデ 工具ナデ 指押さえ 指ナデ ナデ	3 多	1 少	1 僅			外面 スス付着 黒斑 内面 黒斑 胎土 茶,灰,黒,白3mm/多	257
	60	SA27+SA53+SE45	土師器	甕	20.2	—	—	にぶい黄橙 10YR7/2	浅黄橙 10YR8/4	良好	ヨコナデ タタキ タタキの後工具ナデ	ヨコナデ 工具ナデ			2 僅			外内面 スス付着 黒斑 内面 炭化物付着 胎土 褐2mm/多 灰1mm/少	256
	61	SA53	土師器	甕	(23.6)	—	—	橙 5YR7/8	橙 5YR6/6	良好	ヨコナデ ナデ	ヨコナデ ナデ						外面 スス付着 胎土 褐2mm/多 灰白2mm/少 黒1mm/少	283
	62	SA11+SA26+SA53	土師器	甕	(20.8)	—	—	にぶい赤褐 5YR5/4	にぶい赤褐 5YR5/4	良好	ヨコナデ 工具ナデ タタキの後ナデ(剥落激しい)	ヨコナデ 工具ナデ		2 少				胎土 褐3mm/多 黒2mm/多	255
	63	SA53	土師器	甕	(16.0)	—	—	明赤褐 5YR5/6	にぶい褐 7.5YR5/3	良好	ナデ(不明瞭)	ヨコナデ ハケ目		微 僅				外面 スス付着 胎土 褐4mm/少 黒2mm/	287
	64	SA53	土師器	甕	—	(4.6)	—	にぶい黄橙 10YR6/4	橙 5YR7/8	良好	ナデ(タタキの後ナデ?)	ナデ 指押さえ	3 多	1 僅	微 僅			輪台充填技法 外面 スス付着 黒斑 内面 黒斑 底面 ナデ	281
	65	SA53	土師器	甕	(13.2)	—	—	明赤褐 5YR5/6	明赤褐 5YR5/6	良好	ヨコナデ ハケ目痕 ナデ	ヨコナデ 工具ナデ						口縁外面にスス付着 胎土 褐4mm/多 黒2mm/少 灰白2mm/僅	271
	66	SA53	土師器	甕	—	—	—	にぶい黄橙 10YR6/4	にぶい黄褐 10YR5/4	良好	ナデ	ナデ		1 多				内面 黒斑 底面 ナデ 胎土 茶3mm/多 灰2mm/	272
	67	SA53	土師器	甕	—	3.5	—	にぶい黄橙 10YR6/4	明赤褐 5YR5/8	良好	工具ナデ	ハケ目 指押さえ						底面 ナデ 胎土 褐4mm/多 黒1mm/少 灰白1mm/	278
p.17 第13図	68	SA53	土師器	甕	—	—	—	にぶい橙 5YR6/4	明褐 7.5YR5/6	良好	ヨコナデ ナデ	ヨコナデ ナデ		2 僅				外内面 スス付着 胎土 黒,灰,褐3mm/多	284 285
	69	SA53	土師器	甕	—	—	—	にぶい黄橙 10YR6/4	黄橙 7.5YR7/8	良好	タタキの後ケズリ調ナデ	櫛状ハケ目の後工具ナデ 櫛状ハケ目 指押さえ		1 僅	1 僅			外面 スス付着 黒斑 底面 ナデ 胎土 褐1mm/僅	259
	70	SA53	土師器	甕	—	(2.1)	—	にぶい黄橙 10YR6/4	にぶい黄橙 10YR7/3	良好	タタキの後ハケ目 ナデ	ナデ?		10 多	微 少			外来系土器(搬入) 内面 黒斑 底面 ナデ 胎土 赤褐5mm/少	279
	71	SA53	土師器	甕	—	—	—	にぶい褐 7.5YR5/3	灰黄褐 10YR6/2	良好	ハケ目の後櫛描き文	ヘラケズリ		微 少	微 僅			布留式(搬入か?)	275
	72	SA53	土師器	壺	(15.8)	—	—	橙 5YR6/6	明黄褐 10YR7/6	良好	ヨコナデ ナデ	ヨコナデ ナデ ヘラケズリ		1 少	微 僅			内面 黒斑 胎土 褐2mm/僅	270
	73	SA53+SA26	土師器	壺	—	—	—	明赤褐 2.5YR5/6	明褐 7.5YR5/6	良好	ナデ(大部分摩滅)	指押さえ 指ナデ 工具ナデ		1 多	1 僅			外面 スス付着 胎土 黒褐3mm/多	286
	74	SA53	土師器	壺	(11.5)	2.3	11.85	にぶい黄橙 10YR6/4	にぶい黄橙 10YR6/4	良好	工具ナデ	工具ナデ 指押さえの後工具		1 少				外面 スス付着 底面 工具ナデ	269
	75	SA53	土師器	壺	—	—	—	橙 7.5YR6/6	明褐 7.5YR5/6	良好	ハケ目の後ナデ	指ナデ ナデ 指押さえの後		1 少	微 少			外内面 一部黒斑 底面 ナデ	268
	76	SA53	土師器	壺	—	—	—	浅黄橙 7.5YR8/6	にぶい黄橙 10YR6/4	良好	ヨコナデ ナデ	ヨコナデ ナデ		1 僅	1 僅			胎土 黒,褐1mm/少	276
	77	SA53	土師器	壺	—	—	—	にぶい黄橙 10YR6/4	橙 7.5YR6/6	良好	ハケ目の後ヨコナデ ヨコナデ ハケ目	ヨコナデ		微 少				胎土 茶,灰微/僅	273
	78	SA53	土師器	壺	—	4.25	—	橙 2.5YR6/8	橙 7.5YR6/6	良好	工具ナデの後ケズリ ケズリの後ナデ	ハケ目の後ナデ 指ナデ		2 少	1 少			外内面 黒斑 底面 ナデ 胎土 灰3mm/多	288
	79	SA53	土師器	壺	—	2.15	—	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい橙 7.5YR7/4	良好	ナデ 指押さえ	ナデ		微 少	微 僅			ミニチュアか? 外面 黒斑 底面 ナデ	280

※胎土 A:宮崎小石 B:長石・石英 C:輝石・角閃石 D:雲母 E:黒染

第4表 出土土器観察表③

掲載頁 図番号	番号	遺構等	種別 器種	法量cm ( ):復元 口径	底径	器高	色調 外面	色調 内面	焼成	調整 外面	調整 内面	胎土(上:mm 下:量) A	B	C	D	E	備考	実測番号
p.17 第13図	80	SA53	土師器 鉢	(18.7)	—	—	にぶい黄橙 10YR6/4	にぶい黄橙 10YR6/3	良好	ヨコナデ 工具ナデ ナデ	ヨコナデ 工具ナデ ナデ			1 僅			外面 スス付着 内面 黒斑 胎土 灰2mm/僅 褐1mm/僅	258
	81	SA53	土師器 鉢	22.15	—	—	明赤褐 5YR5/6	明黄褐 10YR7/6	良好	ヨコナデ 工具ナデ ナデ(不明瞭)	ヨコナデ ナデ		1 少	1 僅			外面 スス付着 内面 黒斑 胎土 黒,白2mm/僅 灰2mm/多 褐2mm/少	282
	82	SA53	須恵器 甕	—	—	—	灰 2.5Y5/1	灰 2.5Y5/1	良好	格子目タタキの後工具ナデ	当具痕(同心円文)						混入	289
	83	SA53	須恵器 甕	—	—	—	灰黄 2.5Y7/2	灰黄 2.5Y7/2	良好	平行タタキ ヨコナデ	当具痕(同心円文)		微 多				混入	274
p.19 第16図	87	SA25	土師器 杯	(14.4)	—	—	にぶい黄橙 7.5YR7/4	にぶい黄橙 10YR6/3	良好	回転ナデ	回転ナデ		微 僅				胎土 灰微/多	142
	88	SA25+W-SA群	土師器 甕	—	—	—	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR6/3	良好	ヨコナデ ハケ目	ヨコナデ ヘラケズリ		2 僅				胎土 褐3mm/多 灰3mm/少 黒2mm/少	144
	89	SA25	土師器 甕	—	(6.5)	—	にぶい黄橙 10YR7/4	灰黄褐 10YR5/2	良好	ナデ	ナデ						底面 木葉底 胎土 褐4mm/多 黒3mm/少 灰2mm/	141
	90	SA25	土師器 布痕土器	(9.2)	—	—	橙 2.5YR6/6	橙 5YR6/8	良好	ナデ 指押さえ	布目痕		0.5 少				胎土 茶3.5mm/少	143
p.20 第18図	91	SA41	土師器 杯	(10.4)	—	—	にぶい褐 7.5YR6/3	にぶい橙 7.5YR6/4	良好	回転ナデ 一条の凹線	回転ナデの後ナデ		0.5 少				胎土 灰,茶1mm/僅	199
	92	SA41	土師器 杯	—	—	—	浅黄橙 10YR8/3	浅黄橙 10YR8/3	良好	回転ナデ 回転ヘラケズリ	回転ナデ		微 僅				胎土 灰微/少 褐1mm/僅	200
	93	SA41	土師器 甕	(13.8)	—	—	橙 5YR7/6	浅黄橙 10YR8/4	良好	ヨコナデ 指押さえ ナデ(風化著しい)	ナデ ハケ目		0.5 僅				胎土 茶2mm/少	202
	94	SA41	黒色土器 杯	—	—	—	橙 7.5YR7/6	黒 10YR1.7/1	良好	ナデ	ミガキ		1 僅				胎土 灰微/僅 褐1mm/僅	204
	95	SA24+SA41+W-SA群	土師器 甕	(22.2)	—	—	灰白 10YR8/2	浅黄橙 10YR8/3	良好	ヨコナデ ナデ	ヨコナデ 工具ナデ						胎土 褐3mm/多	198
	96	SA41	土師器 甕	24.1	—	26.35	橙 7.5YR7/6	浅黄橙 10YR8/4	良好	ヨコナデ ナデ	ヨコナデ 工具ナデ 指押さえ ナデ						埋設土器 外面 2次焼成赤化 スス付着 内面 黒斑 胎土 褐3mm/多 黒,灰2mm/少	205
	97	SA41	土師器 甕	—	(9.8)	—	浅黄橙 7.5YR8/4	灰白 10YR7/1	良好	工具ナデ	ナデ		2 少				底面 ナデ 胎土 灰,褐1mm/多	201
	98	SA41	須恵器 杯蓋	(16.0)	—	—	灰白 5Y7/1	灰白 5Y7/1	良好	回転ヘラケズリ 回転ナデ	回転ナデ						胎土 黒1mm/少 灰白1mm/僅	203
p.21 第19図	99	SA42	土師器 甕	—	—	—	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい褐 7.5YR5/3	良好	格子目タタキ	ヘラケズリ	6 多	1 少				埋設土器 上・下打ち欠き	209
	100	SA42	須恵器 杯	(13.15)	8.45	4.95	淡黄 2.5Y8/3	淡黄 2.5Y8/3	良好	回転ナデ	回転ナデ						底面 回転ヘラケズリ 胎土 灰2mm/少	208
p.22 第20図	101	SA24	土師器 杯	—	—	—	橙 7.5YR6/6	橙 7.5YR6/6	良好	回転ナデ ケズリの後ミガキ	ミガキ?						胎土 褐0.5mm/少	136
	102	W-SA群	土師器 杯	—	—	—	にぶい褐 7.5YR5/4	にぶい橙 7.5YR6/4	良好	調整不明 線刻	ヨコナデ			1 僅				359
	103	SA25	土師器 杯	—	—	—	橙 5YR7/6	橙 5YR7/6	良好	回転ナデ	回転ナデ		微 僅				胎土 灰微/僅	140
	104	SA24	土師器 杯	(13.3)	(6.8)	4.2	黄橙 7.5YR8/8	橙 7.5YR7/6	良好	回転ナデ	回転ナデ						底面 ヘラ切りの後ナデ 胎土 黒微/少	139
	105	SA24+SA25	土師器 杯	(14.2)	(7.6)	4.65	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4	良好	回転ナデ	回転ナデ						底面 ヘラ切りの後ナデ 胎土 褐微/僅	128
	106	SA24	土師器 杯	—	8.2	—	橙 5YR6/6	橙 7.5YR7/6	良好	回転ナデ	回転ナデ		微 僅				底面 回転ヘラ切り	132
	107	W-SA群	土師器 鉢	(12.6)	—	—	灰褐 7.5YR5/2	にぶい赤褐 5YR5/4	良好	ヨコナデ ハケ目 ナデ?	ハケ目の後指押さえ			1 僅				358
	108	W-SA群	土師器 鉢	(10.8)	—	—	橙 7.5YR7/6	にぶい黄橙 10YR7/4	良好	ヨコナデ ミガキ	ヨコナデ ナデ	4 多	4 少	微 僅			内面 粘土貼付補修痕	357
	109	W-SA群	土師器 布痕土器	(10.1)	—	—	橙 5YR6/6	橙 5YR6/6	良好	ナデ 指押さえ (風化気味)	布目痕	7 僅						361
	110	SA24	土師器 甕	—	—	—	浅黄橙 10YR8/4	浅黄橙 7.5YR8/6	良好	ナデ ヨコナデ 工具ナデ	ナデ ヨコナデ 工具ナデ		0.5 僅				胎土 茶6mm/多	134
	111	W-SA群	土師器 壺	—	—	—	にぶい褐 7.5YR6/3	にぶい橙 7.5YR7/4	良好	ミガキ	ナデ	微 僅	微 少				頸口縁部の洞口に二次加工?	362
	112	SA24	土師器 甕	—	—	—	灰褐 7.5YR5/2	にぶい黄橙 10YR7/4	良好	ナデ	指ナデ						外面 スス付着 底面 木葉底? 胎土 褐,黒4mm/	135
	113	SA24	土師器 甕	(17.8)	—	—	浅黄橙 10YR8/4	浅黄橙 10YR8/4	良好	ナデ 工具ナデ	ヨコナデ 工具ナデ			微 僅			内面 黒斑 胎土 茶3mm/多	131
	114	SA24	須恵器 杯蓋	14.0	—	2.5	灰黄褐 10YR6/2	にぶい黄橙 10YR6/4	良好	回転ナデ 回転ケズリ	回転ナデ 回転ナデの後ナデ		1 僅				つまみ径 2.3cm 胎土 茶1.5mm/少	138
	115	SA24	須恵器 杯蓋	—	—	—	灰黄褐 10YR6/2	灰黄 2.5Y6/2	良好	回転ナデ	回転ナデ							129
	116	W-SA群	須恵器 杯蓋	(12.8)	—	2.7	灰 7.5Y6/1	灰 7.5Y5/1	良好	回転ケズリ 回転ナデ	回転ナデ		微 僅					363
	117	W-SA群	須恵器 杯蓋	(15.7)	—	—	灰白 7.5Y8/1	灰白 7.5Y8/1	良好	回転ナデ 回転ケズリ	回転ナデの後ナデ 回転ナデ		2 僅	2 僅			口縁部に歪み	364
	118	SA42	須恵器 杯蓋	—	—	—	灰オリーブ 5Y5/2	暗灰黄 2.5Y5/2	良好	回転ヘラケズリの後ナデ 回転ヘラケズリ 回転ナデ	回転ナデ		微 僅				胎土 茶1.5mm/僅	206
	119	SA42	須恵器 杯	(14.0)	(9.4)	4.25	黄灰 2.5Y6/1	灰白 2.5Y8/1	良好	回転ナデ 回転ヘラケズリの後回転ナデ	回転ナデ		微 僅			1 僅	底面 回転ヘラケズリの後ナデ	207
	120	SA24	須恵器 杯	—	(10.0)	—	灰黄褐 10YR5/2	灰黄 2.5Y6/2	良好	回転ナデ	回転ナデ		0.5 僅				底面 回転ヘラケズリ 胎土 灰3.5mm/少	137
	121	W-SA群	須恵器 杯	—	—	4.9	灰白 5Y7/1	灰黄褐 10YR6/2	良好	回転ナデ	回転ナデ						底面 ナデ 胎土 灰白1mm/僅	365
	122	SA24	須恵器 杯	—	—	—	灰 5Y5/1	黄灰 2.5Y5/1	良好	回転ナデ	回転ナデ		微 僅					130

※胎土 A:宮崎小石 B:長石・石英 C:輝石・角閃石 D:雲母 E:黒曜

第5表　出土土器観察表④

掲載頁図番号	番号	遺構等	種別 器種	法量cm （ ）:復元 口径	底径	器高	色調 外面	内面	焼成	調整 外面	内面	胎土(上:mm 下:量) A	B	C	D	E	備考	実測番号
p.22 第20図	123	SA24	須恵器 壺	−	10.0	−	灰 10Y6/1	灰 10Y5/1	良好	ヘラケズリの後ナデ ヘラケズリ	回転ナデ		微 僅			1 僅	外面 自然釉 底面 静止ヘラケズリ ヘラ記号	133
	124	SA25	須恵器 甕	−	−	−	黄灰 2.5Y5/1	黄灰 2.5Y5/1	良好	格子目タタキ	当具痕 (同心円文)		0.5 僅				胎土 茶0.5mm/僅	145
	125	W-SA群	須恵器 甕	−	−	−	褐灰 10YR5/1	褐灰 7.5YR5/1	良好	格子目タタキ	当具痕 (同心円文)						胎土 灰白1mm/僅	367
	126	W-SA群	須恵器 甕	−	−	−	黄灰 2.5Y5/1	黄灰 2.5Y5/1	良好	平行タタキ	平行タタキ						胎土 黒褐2mm/僅 灰白1mm/少	366
	127	W-SA群	土製品 土錘	長 4.3	幅 1.85	厚 1.75	浅黄橙 7.5YR8/3	− −	良好	ナデ	−	0.5 僅						368
p.24 第22図	131	SA37	土師器 坏	(12.4)	(3.6)	4.2	浅黄橙 7.5YR8/6	橙 7.5YR7/6	良好	ミガキ(風化著しい)	ミガキ(風化著しく単位不明)		0.5 少				底面 木葉底 胎土 茶2.5mm/少 灰1.5mm/少	191
	132	SA37+SE1 +W-SA群	土師器 甕	(14.4)	−	−	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4	良好	風化の為不明瞭	工具ナデ						埋設土器 胎土 褐5mm/多 灰白,黒2mm/僅	192
p.26 第25図	133	SA17	土師器 鉢	(13.9)	−	−	橙 7.5YR6/6	橙 5YR6/6	良好	ミガキ 回転ナデ	回転ナデ ミガキ 工具痕	1.5 少	1.5 少				布留式 有段口縁鉢 胎土 茶1.5mm/少	109
	134	SA17	土師器 坏	−	−	−	浅黄橙 7.5YR8/4	浅黄橙 7.5YR8/4	良好	ヨコナデ ナデ ミガキ(風化の為不明瞭)	ナデ ミガキ (風化の為不明瞭)						胎土 灰白1mm/僅 火山灰ガラス質微/多	104
	135	SA17	土師器 高坏	−	−	−	橙 5YR6/6	橙 5YR6/6	良好	丁寧なナデ	丁寧なナデ		0.5 少				胎土 茶0.5mm/少	107
	136	SA17	土師器 壺	(11.8)	−	−	にぶい黄橙 10YR7/4	橙 7.5YR7/6	良好	ナデ ヨコナデ	ヨコナデ ナデ ケズリ	2 多		1 少				103
	137	SA17	土師器 壺	−	−	−	浅黄橙 10YR8/4	浅黄橙 10YR8/3	良好	ナデ(風化の為不明瞭)	ナデ		2 多	1 多			外内面 スス付着	102
	138	SA17	土師器 甕	−	−	−	にぶい黄橙 10YR6/4	にぶい黄橙 10YR6/4	良好	沈線? ハケ目	ナデ ハケ目				0.5 多			101
	139	SA17	土師器 甕	−	0.8	−	灰褐 7.5YR5/2	灰黄褐 10YR5/2	良好	ナデ 指押さえ ミガキ?	ナデ 指押さえ 工具痕		1 少	1 僅			外面 スス付着 内面 黒斑 底面 ミガキ?	105
	140	SA17	土師器 甕	−	−	−	灰褐 7.5YR5/2	にぶい黄橙 10YR6/4	良好	ナデ	ナデ 工具痕						胎土 褐1mm/少 黒1mm/僅	106
	141	SA17	土師器 甕	(16.8)	−	−	浅黄橙 10YR8/4	浅黄橙 10YR8/4	良好	ヨコナデ 指押さえ ナデ	ヨコナデ 工具ナデ	3 多	3 僅		微 多		胎土 褐,黒2mm/少	108
p.26 第26図	142	SA26	土師器 坏	−	−	−	明黄褐 10YR7/6	橙 7.5YR6/6	良好	ヨコナデ ミガキ	ミガキ		微 僅				胎土 灰,褐1mm/僅	147
	143	SA26	土師器 坏	−	−	−	橙 5YR6/6	橙 5YR6/6	良好	キザミの後ミガキ	ミガキ						胎土 茶1mm/少	148
	144	SA26	土師器 坏	−	7.95	−	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい橙 7.5YR7/4	良好	ミガキ	ハケ目の後ミガキ		微 少				胎土がマーブル状に混ざる 底部付近穿孔 底面 ナデ 胎土 灰微/少 褐1mm/少	149
	145	SA26	土師器 壺	(9.8)	−	−	にぶい褐 7.5YR5/3	灰黄褐 10YR5/2	良好	ヨコナデ ナデ	ヨコナデ ナデ						胎土 黒,褐2mm/僅	151
	146	SA26	土師器 甕	−	−	−	にぶい褐 7.5YR6/3	にぶい黄橙 10YR7/4	良好	ヨコナデ	ヨコナデ						胎土 茶2mm/少 灰1.5mm/少	150
	147	SA26	土師器 甕?	−	−	−	灰褐 7.5YR5/2	褐灰 10YR4/1	良好	ハケ目の後ナデ 線刻	ナデ						胎土 茶,灰2.5mm/少	155
	148	SA26	土師器 甕	−	(6.0)	−	橙 7.5YR7/6	橙 7.5YR6/6	良好	ケズリ	ナデ		1 僅				底面 繊維状の圧痕 胎土 褐1mm/多	154
	149	SA26	須恵器 壺	−	−	−	灰 N5/0	灰 N4/0	良好	回転ナデ	回転ナデ		1 少			微 僅		153
	150	SA26	須恵器 甕	−	−	−	黄灰 2.5Y6/1	黄灰 2.5Y6/1	良好	平行タタキ	当具痕 (同心円文)		0.5 僅				胎土 灰1.5mm/僅 黒1mm/僅	152
p.28 第29図	156	SA28	土師器 甕?	−	−	−	にぶい褐 7.5YR5/4	にぶい赤褐 5YR5/4	良好	ミガキ	ナデ 線刻?		0.5 僅				胎土 灰1.5mm/僅	169
	157	SA28	土師器 鉢	−	−	−	橙 7.5YR7/6	にぶい橙 7.5YR6/4	良好	ナデ	ナデ		0.5 多	1 僅			胎土 黒0.5mm/僅	167
	158	SA28	土師器 鉢	−	−	−	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4	良好	ナデ	ハケ目の後ナデ ミガキ	2 少	1 多				胎土 灰1mm/多 褐1mm/少	166
	159	SA28+カクラン	土師器 甕	(25.2)	−	−	にぶい黄橙 10YR7/4	灰黄褐 10YR5/2	良好	ナデ 回転ナデ 指押さえ ハケ目	回転ナデ		1 多				胎土 灰1mm/少 褐1mm/多	170
	160	SA28	土師器 甕	−	−	−	にぶい黄橙 10YR7/4	褐灰 10YR4/1	良好	ヨコナデ ナデ	ヨコナデ 工具によるケズリ		1 多				胎土 褐微/僅	168
p.30 第32図	162	SA11	土師器 坏蓋	(14.5)	−	3.5	にぶい黄橙 10YR6/4	浅黄橙 10YR8/4	良好	ナデ 回転ヘラケズリ 回転ナデ	回転ナデの後ナデ						つまみ径 (3.4)cm 胎土 黒褐2mm/僅	70
	163	SA11	土師器 坏蓋	−	−	−	浅黄橙 10YR8/4	浅黄橙 10YR8/4	良好	回転ナデ	回転ナデ						胎土 黒1mm/僅	50
	164	SA11	土師器 坏	13.5	8.1	4.2	にぶい橙 7.5YR7/4	浅黄橙 7.5YR8/4	良好	回転ナデ	回転ナデ				微 僅		底面 回転ヘラ切り	68
	165	SA11+SA12	土師器 坏	−	(8.8)	−	浅黄橙 10YR8/4	浅黄橙 10YR8/4	良好	回転ナデ	回転ナデ			1.5 少	微 僅		表面摩滅 底面 回転ナデ 胎土 灰白1mm/少	71
	166	SA11+W-SA群	土師器 甕	(20.8)	−	−	にぶい橙 7.5YR6/4	灰黄褐 10YR5/2	良好	ナデ 工具ナデ	工具ナデ	2 少	1 僅				胎土 褐2mm/少	56
	167	SA11	土師器 甕	−	−	−	橙 5YR6/6	灰黄褐 10YR5/2	良好	ヨコナデ 工具ナデ	ヨコナデ 工具ナデ	2 少		1 僅			胎土 灰白1mm/僅	72
	168	SA11	土師器 甕	−	−	−	にぶい黄褐 10YR5/3	にぶい褐 7.5YR5/3	良好	ナデ(風化の為不明瞭)	ケズリ	5 多					胴部外面に油状のものが付着　打ち欠き	74
	169	SA11	土師器 壺	−	−	−	灰褐 5YR4/2	灰褐 7.5YR4/2	良好	ナデ	ナデ						胎土 白,黒1mm/少	54
	170	SA11	土師器 壺	−	−	−	にぶい褐 7.5YR5/3	にぶい褐 7.5YR5/4	良好	ナデ ミガキ	指押さえ ナデ		微 多				小型丸底壺	65
	171	SA11	土師器 甕	−	−	−	にぶい褐 7.5YR5/4	黒褐 7.5YR3/1	良好	工具ナデの後ナデ	工具ナデの後粗いナデ		1 多				底面 工具ナデの後ナデ 胎土 褐3mm/多	73
	172	SA11	土師器 布痕土器	−	−	−	橙 7.5YR7/6	橙 7.5YR7/6	良好	ナデ	布目痕	8 多						64

※胎土 A:宮崎小石 B:長石・石英 C:輝石・角閃石 D:雲母 E:黒染

第6表 出土土器観察表⑤

掲載頁 図番号	番号	遺構等	種別 器種	法量cm ( ):復元 口径	底径	器高	色調 外面	内面	焼成	調整 外面	内面	胎土(上:mm 下:量) A	B	C	D	E	備考	実測 番号
p.30 第32図	173	SA11	土師器 布痕土器	—	—	—	にぶい褐 7.5YR6/3	橙 5YR6/6	良好	ナデ	布目痕	7 多						52
	174	SA11	土師器 布痕土器	—	—	—	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい橙 7.5YR6/4	良好	ナデ	布目痕	4 少						51
	175	SA11	土師器 布痕土器	—	—	—	橙 5YR6/6	橙 7.5YR7/6	良好	ナデ	風化の為不明瞭						底面(天底) ナデ 胎土 赤褐1.5mm/僅	55
	176	SA11	須恵器 杯蓋	(11.0)	—	—	黄灰 2.5Y6/1	黄灰 2.5Y5/1	良好	回転ナデ 回転ヘラケズリ	回転ナデ						胎土 黒,灰1.5mm/僅	62
	177	SA11	須恵器 杯蓋	—	—	—	にぶい黄橙 10YR6/4	灰黄 2.5YR6/2	不良	回転ナデ	回転ナデ						胎土 灰白1mm/僅	59
	178	SA11	須恵器 杯	—	—	—	灰白 2.5Y8/2	灰白 2.5Y8/2	良好	回転ナデ	回転ナデ 回転ナデの後ハケ目						底面 風化の為不明瞭 胎土 にぶい赤褐3mm/僅	69
	179	SA11	須恵器 杯	—	(10.0)	—	灰 N6/0	灰 7.5Y6/1	良好	回転ナデ 回転ヘラケズリ	回転ナデ ヘラ記号					微 少	底面 回転ヘラケズリ 回転ナデ	61
	180	SA11+W-SA群	須恵器 蓋	—	(17.3)	—	淡黄 2.5Y8/3	淡黄 2.5Y8/3	不良	回転ナデ	回転ナデ 回転ナデの後ナデ						底面 回転ヘラケズリ 胎土 黒褐微/僅	53
	181	SA11	須恵器 壺	—	—	—	灰白 N7/0	灰白 5Y7/1	良好	ヘラケズリの後回転ナデ 回転ナデ	回転ナデ		微 多			1 多		60
	182	SA11+SH63	須恵器 甕	—	—	—	灰白 10YR7/1	灰オリーブ 5Y5/2	不良	平行タタキ	当具痕 (同心円文)						胎土 黒,灰4mm/僅	57
	183	SA11	須恵器 高杯	—	(10.9)	—	灰黄褐 10YR5/2	褐灰 5YR4/1	良好	回転ナデ	回転ナデ						胎土 白,黒1mm/僅	63
	184	SA11	須恵器 高杯	—	—	—	灰黄 2.5Y7/2	灰黄 2.5Y7/2	良好	回転ナデ	回転ナデ						胎土 黒,灰2mm/僅	58
p.32 第36図	187	SA12	土師器 杯蓋	(13.8)	—	1.9	橙 7.5YR7/6	にぶい橙 7.5YR7/4	良好	ヘラケズリの後ミガキ 回転ナデの後ミガキ 回転ナデ	回転ナデの後粗いミガキ 回転ナデ						胎土 火山灰ガラス質微/多 灰白0.5mm/多	82
	188	SA12	土師器 杯	—	—	—	橙 7.5YR6/6	橙 7.5YR7/6	良好	ミガキ ヘラ記号	ミガキ						胎土 褐1mm/少 黒微/僅	80
	189	SA12	土師器 壺	—	(2.6)	—	橙 7.5YR7/6	橙 5YR7/6	良好	ヨコナデ	指ナデ 指押さえ		1 少				底面 ナデ 胎土 火山灰ガラス質1mm/多	78
	190	SA12	土師器 甕	—	3.3	—	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい橙 7.5YR6/4	良好	工具ナデの後ナデ	工具ナデの後ナデ 粘土のしぼり痕		1 少				底面 ナデ 胎土 褐,灰4mm/多	76
	191	SA12	土師器 布痕土器	(10.2)	—	—	浅黄橙 10YR8/4	橙 7.5YR7/6	良好	ナデ	布目痕		4 僅				胎土 灰黄5mm/僅	79
	192	SA12	須恵器 杯蓋	—	—	—	灰 5Y6/1	灰 5Y6/1	良好	回転ナデ	回転ナデ					微 僅	胎土 灰白微/僅	77
	193	SA12	須恵器 杯	—	—	—	黄灰 2.5Y6/1	黄灰 2.5Y6/1	良好	回転ナデ	回転ナデ						胎土 暗褐1mm/僅	81
p.34 第39図	196	SA18	土師器 杯	(11.7)	(4.35)	4.0	橙 7.5YR6/6	にぶい黄橙 10YR6/3	良好	ヨコナデ ケズリの後ミガキ ナデ	ヨコナデの後ミガキ ミガキ						底面 ケズリの後ナデ 口縁部付近があみがかる スリップ? 胎土 褐1mm/少	116
	197	SA18	土師器 杯	—	—	—	橙 5YR6/6	にぶい橙 7.5YR6/4	良好	ミガキ	ミガキ	0.5 少	0.5 少				胎土 茶0.5mm/少	112
	198	SA18	土師器 杯	—	—	—	橙 2.5YR6/8	橙 2.5YR6/6	良好	ミガキ	ミガキ		0.5 僅				胎土 茶0.5mm/少	119
	199	SA18	土師器 甕	—	—	—	にぶい黄橙 10YR7/4	橙 7.5YR7/6	良好	ナデ	ナデ		1.5 少	1 僅			ミニチュア 胎土 茶2mm/少	118
	200	SA18	土師器 甕	—	—	—	にぶい黄橙 10YR7/4	浅黄橙 7.5YR8/4	良好	工具ナデ	工具ナデ		1 僅				胎土 褐2mm/少 灰1mm/少	115
	201	SA18	土師器 高杯	—	—	—	橙 7.5YR7/6	橙 7.5YR7/6	良好	ナデ ヨコナデ	ケズリの後ナデ		微 少	微 少			胎土 灰微/多 褐微/少	120
	202	SA18	須恵器 杯蓋	(13.0)	—	—	灰 7.5Y5/1	灰 7.5Y5/1	良好	回転ナデ ヘラ記号	回転ナデ		1 多				胎土 褐1mm/僅	117
p.35 第40図	203	SA36	土師器 杯	—	—	—	橙 2.5YR6/8	橙 7.5YR7/6	良好	ヨコナデの後粗いミガキ ケズリ	ミガキ(風化気味)		0.5 僅				褐鉄鉱粒を多く含む 胎土 茶1.5mm/少	183
	204	SA36	土師器 杯	—	—	—	橙 5YR6/6	橙 7.5YR7/6	良好	ケズリの後ミガキ	ミガキ		微 少				胎土 灰微/少 褐微/多	190
	205	SA36	土師器 壺	—	2.2	—	橙 5YR7/8	橙 7.5YR6/6	良好	ナデ(風化著しい)	ナデ 指押さえ		1 少				小型丸底壺 底面 ナデ(風化著しい) 胎土 茶,灰1.5mm/多	186
	206	SA36	土師器 甕	—	—	—	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい黄橙 10YR7/4	良好	ヨコナデ	ヨコナデ		微 少				胎土 灰2mm/少 褐2mm/多	181
	207	SA36	土師器 甕	—	—	—	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4	良好	ヨコナデ	ヨコナデ		微 少				布留式甕口縁 胎土 灰微/少 褐微/僅	189
	208	SA36	土師器 壺	—	—	—	褐灰 5YR4/1	にぶい赤褐 5YR5/4	良好	貼付突帯 ヨコナデ	ナデ						小川原式(免後系:弥生後期初頭) 胎土 灰白4mm/少 褐2mm/少 黒1mm/僅	184
	209	SA36	土師器 甕	—	(5.5)	—	にぶい黄橙 10YR7/4	褐灰 10YR4/1	良好	工具ナデ ヨコナデ	ナデ		1 少				底面 木葉底 胎土 黒2mm/僅 茶4mm/	185
	210	SA36	土師器 甕	—	5.2	—	明黄褐 10YR6/6	にぶい褐 7.5YR5/4	良好	工具ナデ	工具ナデ 指押さえ		1 少				底面 ナデ 胎土 灰,褐1mm/多	188
	211	SA36	土師器 布痕土器	—	—	—	橙 7.5YR7/6	橙 7.5YR7/6	良好	風化の為不明瞭	布目痕						胎土 黒微/僅	182
	212	SA36	焼土塊 —	—	—	—	にぶい赤褐 5YR5/3	— —	良好	指押さえ	—						繊維痕を多く含む 胎土がマーブル状に混ざる 胎土 褐鉄鉱1mm/多	187
p.38 第43図	214	SA27	土師器 杯	—	—	—	橙 5YR6/6	橙 5YR6/6	良好	ヨコナデ ミガキ(剥落)	ヨコナデの後ミガキ		1 多	2 僅			胎土 灰1mm/少 褐1mm/僅	161
	215	SA27	土師器 甕	—	—	—	浅黄橙 10YR8/3	にぶい黄橙 10YR7/3	良好	ヨコナデ ナデ	ヨコナデ		1 僅				胎土 茶4mm/少	162

※胎土 A:宮崎小石 B:長石・石英 C:輝石・角閃石 D:雲母 E:黒染

第7表 出土土器観察表⑥

掲載頁 図番号	番号	遺構等	種別 器種	法量cm （ ）:復元 口径	底径	器高	色調 外面	内面	焼成	調整 外面	内面	胎土(上:mm 下:量) A	B	C	D	E	備考	実測 番号
p.38 第44図	216	SA27	土師器 鉢	—	—	—	橙 7.5YR6/6	橙 7.5YR6/6	良好	ヨコナデ ケズリの後工具ナ	ヨコナデ ナデ (不明瞭)		0.5 僅				胎土 茶0.5mm/少	159
	217	SA27	土師器 壺	—	—	—	橙 5YR7/6	橙 5YR6/6	良好	ミガキ	ミガキ						胎土 黒微/僅	160
	218	SA27	須恵器 坏	—	—	—	灰白 5Y7/1	灰黄 2.5Y6/2	良好	回転ナデ 回転ヘラケズリ	回転ナデの後 ナデ		微 少			2 僅		164
	219	SA27	土師器 甑	—	—	—	にぶい黄橙 10YR7/4	灰黄褐 10YR5/2	良好	ナデ	ヨコナデ ナデ						胎土 褐3mm/少 黒2mm/少	165
	220	SA27	須恵器 坏	—	(6.4)	—	褐灰 10YR6/1	黄灰 2.5Y6/1	良好	回転ナデ	回転ナデ		2 僅				底面 付着物 回転ヘラ切り	163
p.38 第46図	221	SA20	土師器 坏	—	—	—	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい黄橙 10YR6/4	良好	風化の為不明瞭	ナデ?						胎土がマーブル状に混ざる	121
	222	SA20	須恵器 坏	—	—	—	灰白 5Y7/1	灰白 5Y7/1	良好	回転ナデ ナデ	ナデ		1 少			2 少	底面 回転ナデ	122
	223	SA20	土師器 甕	—	—	—	にぶい黄橙 10YR6/4	にぶい黄褐 10YR5/3	良好	ヨコナデ タタキの後ハケ目	ヨコナデ ケズリ						外面 赤色粘土付着 被熱痕 胎土 茶4.5mm/	123
p.40 第48図	225	SA9	土師器 坏	—	—	—	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4	良好	ナデ	ナデ	1 少					内面 黒斑	38
	226	SA9	土師器 坏	—	—	—	にぶい褐 7.5YR5/4	にぶい赤褐 5YR5/4	良好	回転ナデ 穿孔 (焼成後)	回転ナデ	1 少						40
	227	SA9	土師器 坏	—	—	—	橙 5YR6/6	橙 5YR6/6	良好	ミガキ	ミガキ		微 僅				胎土 赤褐2mm/僅	41
	228	SA9	土師器 甕	—	—	—	浅黄橙 7.5YR8/6	橙 5YR6/6	やや 良好	風化の為不明瞭	風化の為不明瞭	3 多		微 僅			胎土 黒,灰,赤褐1mm/多	42
	229	SA9	土師器 甕	—	—	—	橙 7.5YR7/6	橙 7.5YR7/6	良好	ナデ 工具ナデ	ナデ 工具ナデ	4 少						36
	230	SA9	土師器 甕	—	—	—	灰黄褐 10YR4/2	灰黄褐 10YR5/2	良好	工具ナデ ナデ	工具ナデ	4 多						37
	231	SA9	土師器 布痕土器	—	—	—	橙 5YR6/6	橙 7.5YR7/6	良好	ナデ(風化)	布目痕						胎土 白8mm/1個	39
p.41 第51図	233	SA10	土師器 坏	(13.8)	—	—	明赤褐 5YR5/6	橙 5YR6/6	良好	回転ナデ ミガキ	回転ナデ ミガキ						胎土 赤褐1.5mm/僅 灰白1mm/1個	44
	234	SA10	土師器 坏	—	—	—	橙 7.5YR7/6	浅黄橙 7.5YR8/6	良好	回転ナデの後ミガキ ミガキ	風化の為不明瞭						胎土 褐2mm/少	45
	235	SA39	土師器 高坏	—	—	—	橙 7.5YR7/6	橙 7.5YR6/6	良好	ナデ ミガキ	ナデ ミガキ		微 僅				胎土 灰,褐1mm/少	196
	236	SA39	土師器 甕	—	—	—	にぶい橙 7.5YR7/4	橙 7.5YR7/6	良好	ハケ目 ナデ	ヨコナデ						胎土 茶2mm/少	197
	237	SA10	土師器 甕	—	—	—	橙 2.5YR6/6	にぶい黄橙 10YR6/3	良好	ナデ 線刻	ハケ目			微 僅			胎土 灰白1.5mm/僅	47
	238	SA10	土師器 鉢	—	(8.0)	—	橙 5YR6/6	にぶい赤褐 5YR5/3	良好	工具ナデ(風化の為不明瞭)	工具ナデの後ナデ 指ナデ						胎土 赤褐1mm/少	46
	239	SA10	須恵器 甕	—	—	—	黄灰 2.5Y6/1	灰 5Y6/1	良好	平行タタキの後櫛目?	当具痕 (同心円文)						内面 自然釉付着 胎土 灰白1mm/僅	49
p.42 第52図	242	SA13	土師器 坏	—	—	—	橙 7.5YR7/6	橙 7.5YR7/6	良好	ナデ ヨコナデの後ミガキ	ナデ ヨコナデの後ミガキ						胎土 明赤褐1mm/多	84
	243	SA13	土師器 坏	—	—	—	橙 5YR6/6	橙 5YR6/6	良好	ヨコナデ ミガキ ナデ	ミガキ						胎土 明赤褐1mm/多	86
	245	SA13	土師器 壺	—	—	—	橙 5YR6/6	橙 5YR6/6	良好	工具ナデ	ヨコナデ			1 僅			胎土 灰白1mm/少	85
	246	SA13+SA18	土師器 甕or壺	—	(3.4)	—	にぶい黄橙 10YR7/4	灰黄 2.5Y7/2	良好	工具ナデ	工具ナデ	2 多	1 僅				底面 ナデ	91
	247	SA13	須恵器 坏	—	8.55	—	灰 5Y6/1	灰 5Y6/1	良好	回転ナデ	回転ナデ					1 少	外面 一部自然釉 底面 回転ヘラ切り 胎土 灰白2mm/少	89
	248	SA13	須恵器 鉢	—	(6.6)	—	灰黄 2.5Y7/2	灰黄 2.5Y7/2	良好	回転ナデ	回転ナデ						外面 自然釉 底面 ヘラケズリ	90
	249	SA13	須恵器 甕	—	—	—	灰 N6/0	灰 N6/0	良好	タタキの後カキ目	当具痕 (同心円文)					1 多	胎土 灰白1mm/多	92
P.42 第54図	250	SA16+SA20	土師器 坏	(15.4)	—	—	浅黄橙 10YR8/4	橙 7.5YR7/6	良好	回転ナデの後ミガキ ヘラケズリの後ミガキ? ヘラ記号	ナデ ミガキ			微 多			胎土 暗赤褐3mm/多	95
	251	SA16	土師器 甕	—	—	—	黄灰 2.5Y5/1	にぶい黄橙 10YR7/3	良好	ナデ	ヨコナデ ハケ目						胎土 暗赤褐3mm/多	94
	252	SA16	土師器 甕	—	—	—	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR6/4	良好	ヨコナデ ナデ	ヨコナデ 工具ナデ						胎土 にぶい黄橙3mm/多	96
	253	SA16	土師器 甕	—	—	—	にぶい黄橙 10YR7/4	明黄褐 10YR7/6	良好	工具によるケズリ状ナデ	工具ナデ ケズリ	3 多					外面 焼土片付着	97
	254	SA16+カクラン	土師器 甕	—	—	—	にぶい橙 7.5YR7/4	浅黄橙 7.5YR8/4	良好	ナデ 工具によるケズリ	ナデ 工具ナデ	5 多						93
	255	SA16	土師器 高坏	—	—	—	淡黄 2.5Y8/3	淡黄 2.5Y8/3	良好	ナデ	工具による(回転)ナデ			1 少				98
p.43 第56図	258	SA29	土師器 坏	(13.4)	—	—	橙 5YR6/6	橙 5YR6/8	良好	ヨコナデの後ミガキ ケズリの後ミガキ	ナデの後ミガキ						褐鉄鉱片を多く含む 胎土 褐1mm/少	173
	259	SA29	土師器 高坏	—	—	—	橙 5YR6/6	橙 5YR6/6	良好	ナデ	ナデ		0.5 僅					174
	260	SA29	土師器 甕	—	—	—	浅黄橙 10YR8/4	浅黄橙 10YR8/4	良好	ヨコナデ 指押さえ	ヨコナデ 指押さえ		微 僅				胎土 灰1mm/僅 褐微/僅	172
	261	SA29	須恵器 坏蓋	—	—	—	灰 5Y5/1	灰 N5/0	良好	回転ヘラケズリ 回転ナデ ヘラ記号	回転ナデの後ナデ		2.5 少				胎土 灰2mm/少	175
p.43 第57図	263	SA35	土師器 坏	—	—	—	にぶい橙 7.5YR7/4	橙 7.5YR7/6	良好	ヨコナデ ケズリの後ミガキ	ヨコナデ ミガキ		微 多				胎土 灰微/少 褐微/僅	178
	264	SA35	土師器 台付鉢	—	(5.9)	—	橙 5YR6/6	橙 5YR6/6	良好	ケズリの後ミガキ ヨコナデの後ミガキ	ミガキ						底面 ヨコナデ 褐鉄鉱粒を多く含む 胎土 茶0.5mm/少	180

※胎土 A:宮崎小石 B:長石・石英 C:輝石・角閃石 D:雲母 E:黒雲

第8表 出土土器観察表⑦

掲載頁 図番号	番号	遺構等	種別 器種	法量cm ( ):復元 口径	底径	器高	色調 外面	内面	焼成	調整 外面	内面	胎土(上:mm 下:量) A	B	C	D	E	備考	実測 番号
p.43 第57図	266	SA35	須恵器 坏蓋	—	—	—	黄灰 2.5Y5/1	褐灰 10YR5/1	良好	回転ヘラケズリ 回転ナデ	回転ナデ		微 僅					179
p.44 第58図	267	SA38	土師器 坏	—	—	—	橙 5YR6/6	橙 5YR6/6	良好	ナデ ミガキ	ヨコナデ		微 僅				胎土 灰1mm/多 褐1mm/少	193
	268	SA38	土製品 鞴の羽口	—	—	—	灰オリーブ 5Y6/2	橙 7.5YR7/6	良好	ナデ	工具ナデ		微 僅					194
	269	SA38	須恵器 坏蓋	—	—	—	灰白 5Y7/1	灰黄 2.5Y7/2	不良	回転ナデ 回転ヘラケズリ	回転ナデ		0.5 僅				つまみ径 (3.6)cm 胎土 灰1mm/少	195
p.45 第60図	270	SA5	土師器 椀	—	—	—	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい橙 7.5YR6/4	良好	ナデ ミガキ	ナデ ミガキ		微 少					1
	271	SA5	須恵器 坏	—	(6.4)	—	にぶい黄橙 10YR7/2	灰白 5Y7/1	良好	回転ナデ 回転ヘラケズリ	回転ナデ						胎土 黒褐,灰1mm/少	2
	272	SA5・14・22	土師器 坏	—	—	—	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい橙 5YR6/4	良好	ナデの後ミガキ ヘラケズリ後ミガキ	ナデの後ミガキ ミガキ						胎土 赤褐1mm/少	3
	273	SA5・14・22	土師器 甕	—	—	—	灰褐 7.5YR5/2	にぶい黄橙 10YR6/3	良好	ハケ目	ナデ	5 多					外面 スス付着 底面 木葉底	4
p.46 第61図	274	SA22	土師器 坏	—	—	—	橙 7.5YR7/6	にぶい黄橙 10YR7/4	良好	ミガキ ヘラケズリの後ミガキ ヘラケズリ	ミガキ		微 少				胎土 黒微/僅	124
	275	SA22	土師器 埦	—	—	—	にぶい褐 7.5YR5/3	にぶい黄橙 10YR6/4	良好	静止ヘラケズリ	回転ナデ		微 少				底面 静止ヘラケズリの後ナデ 黒斑 胎土 褐,灰微/少	125
	276	SA22	弥生 壺	—	(5.2)	—	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい黄橙 10YR6/4	良好	ナデ	ナデ		微 多				底面 ナデ 胎土 灰微/多 褐微/少	126
	277	SA22	須恵器 坏	—	—	—	灰黄 2.5Y7/2	灰黄 2.5Y7/2	良好	回転ナデ	回転ナデ		微 少					127
p.48 第63図	278	SA6	土師器 坏	—	—	—	にぶい赤褐 2.5YR5/4	にぶい赤褐 2.5YR5/4	良好	ナデの後ミガキ	ミガキ		微 少				模倣坏 胎土 褐微/僅	6
	279	SA6	土師器 坏	—	—	—	橙 7.5YR7/6	橙 7.5YR7/6	良好	ナデの後ミガキ(風化気味)	ナデの後ミガキ						胎土 褐,黒微/僅	9
	280	SA6	土師器 坏	—	—	—	浅黄橙 7.5YR8/4	浅黄橙 7.5YR8/3	良好	ナデの後ミガキ	ナデの後ミガキ						胎土 茶褐1mm/僅	8
	281	SA6	土師器 高坏	—	(8.6)	—	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい褐 7.5YR6/3	良好	ナデ(風化の為不明瞭)	ナデ(風化の為不明瞭)		微 少				胎土 褐微/僅	7
	282	SA6	須恵器 鉢	—	—	—	灰黄褐 10YR6/2	灰褐 7.5YR5/2	不良	回転ナデ 回転ヘラケズ	回転ナデ		微 少					5
	283	SA6	須恵器 坏	—	—	—	灰白 5Y7/1	灰白 5Y7/1	良好	回転ナデ	回転ナデ						胎土 黒1mm/僅	10
	284	SA6	須恵器 壺	—	—	—	褐灰 10YR5/1	灰 N6/0	良好	回転ナデ	回転ナデ					1 少		11
	285	SA6・SA7	須恵器 坏	—	7.0	—	褐灰 7.5YR5/1	褐灰 10YR4/1	良好	回転ナデ	回転ナデ ヘラ記号		3 少				底面 静止ヘラケズリ	12
	286	SA6	須恵器 甕	—	—	—	灰 N5/0	灰黄 2.5Y7/2	良好	平行直線文による格子目タタキ	当具痕 (同心円文)					1 僅		13
p.48 第64図	290	SA7	土師器 坏	—	—	—	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/3	良好	ヨコナデ ミガキ	ヨコナデ ミガキ						胎土 黒微/僅	14
	291	SA7	土師器 坏	—	—	—	橙 2.5YR6/6	にぶい赤褐 2.5YR5/3	良好	ナデ ミガキ	ミガキ						胎土 黒微/僅	16
	292	SA7	土師器 坏	—	—	—	にぶい赤褐 2.5YR5/4	橙 2.5YR6/6	良好	ナデ ミガキ	ナデ ナデの後ミガキ						胎土 茶褐1mm/僅	17
	293	SA7	土師器 坏	—	—	—	橙 5YR6/6	橙 5YR6/6	良好	ナデ	ナデ						胎土 黒褐,赤褐微/僅	18
	294	SA7	黒色土器 坏	—	—	—	灰黄褐 10YR5/2	オリーブ黒 7.5Y3/1	良好	ナデ	ミガキ						胎土 茶褐微/少	15
	295	SA7	土師器 坏	—	(7.6)	—	浅黄橙 7.5YR8/4	にぶい黄橙 10YR7/3	良好	回転ナデ	回転ナデ						底面 ヘラ切りの後ナデ 胎土 茶褐1mm/僅	22
	296	SA7	土師器 坏	—	(7.2)	—	浅黄橙 10YR8/4	浅黄橙 10YR8/4	良好	ミガキ	ナデ	1.5 多					底面 静止ヘラケズリの後ヘラミガキ ヘラ記号	20
	297	SA7	土師器 壺	—	—	—	にぶい褐 7.5YR5/3	にぶい赤褐 5YR5/3	良好	ナデ	ナデ	2 少		1 僅	微 少			19
	298	SA7・SE4	土師器 甕	(19.0)	—	—	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい黄褐 10YR5/3	良好	工具ナデ	ナデ 工具ナデ	4 多	1 僅				外面 スス付着 胎土 黒,黒褐,赤褐,灰2mm/多	21
	299	SA7	土師器 甕	—	—	—	にぶい黄橙 10YR7/4	黒 N2/0	良好	ナデ	ナデ 指押さえ	4 多					外面 黒斑	26
	300	SA7	須恵器 坏	—	—	—	褐灰 10YR5/1	黄灰 2.5Y5/1	良好	ナデ 回転ナデ	ナデ 回転ナデ					微 僅	胎土 白2mm/僅	23
	301	SA7	須恵器 壺	—	—	—	灰 N6/0	褐灰 10YR6/1	良好	櫛描き波状文 ナデ 沈線	回転ナデ						胎土 黒2mm/僅 器台?	25
p.49 第65図	303	SA7	土師器 坏	(12.8)	—	—	にぶい黄橙 10YR6/4	にぶい黄橙 10YR6/4	良好	回転ナデ ミガキ(風化の為不明瞭)	回転ナデ		1 僅					31
	304	SA7	土師器 坏	—	—	—	にぶい橙 5YR6/4	にぶい赤褐 5YR5/4	良好	ナデ ミガキ	ナデ		微 僅					30
	305	SA7	土師器 坏	—	—	—	にぶい褐 7.5YR5/3	にぶい褐 7.5YR5/3	良好	回転ナデ ミガキ	回転ナデ		微 少					32
	306	SA7	土師器 甕	—	—	—	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR6/3	良好	ナデ	ナデ	3 少		微 僅				29
	307	SA7	須恵器 坏蓋	(12.9)	—	3.0	灰 7.5Y6/1	灰 7.5Y6/1	良好	回転ナデ 回転ヘラケズリ	回転ナデ ナデ		1 少				つまみ径 2.25cm	28
	308	SA7	須恵器 坏蓋	—	—	—	灰黄 2.5Y6/2	灰黄褐 10YR6/2	良好	回転ヘラケズリ	回転ナデ		1.5 僅					33
p.49 第66図	309	SA8	土師器 鉢	—	—	—	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい赤褐 5YR5/4	良好	ナデ	ナデ	1.5 少					ミニチュア	34
	310	SA8	土師器 甕	—	—	—	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい黄橙 10YR6/3	良好	ヨコナデ ナデ	ヨコナデ ナデ	5 多	1 僅					35

※胎土 A:宮崎小石 B:長石・石英 C:輝石・角閃石 D:雲母 E:黒染

第9表 出土土器観察表⑧

掲載頁 図番号	番号	遺構等	種別 器種	法量cm （ ）:復元 口径	底径	器高	色調 外面	内面	焼成	調整 外面	内面	胎土(上:mm 下:量) A	B	C	D	E	備考	実測 番号
p.50 第69図	311	SB50	土師器 甕	—	—	—	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4	良好	ナデ ヨコナデ	ヨコナデ	2 僅		1 僅			外面 スス付着	354
	312	SB50	弥生 甕	—	—	—	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい黄橙 10YR6/3	良好	ヨコナデ	ヨコナデ		微 多	1 僅			胎土 茶,灰1mm/少	298
p.51 第72図	313	SE31	須恵器 甕	—	—	—	灰 N4/0	褐灰 10YR4/1	良好	平行タタキ	当具痕 (同心円文)			3 僅				345
	314	SE45	土師器 壺	—	—	—	橙 5YR6/6	にぶい黄橙 10YR7/4	良好	ヨコナデ ハケ目 ナデ	ヨコナデ 指押さえ ナデ	1 多	微 少	1 僅				346
	315	SE45	土師器 壺	—	—	—	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄 2.5YR6/3	良好	ヨコナデ	ナデ	2 多		1 僅			胎土 暗赤褐1.5mm/僅	347
p.52 第73図	316	SH184	土師器 坏	—	—	—	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/3	良好	ヨコナデ ミガキ ケズリの後ミガキ	ヨコナデ ミガキ			微 僅				352
	317	SH225	土師器 坏	—	—	—	黄橙 7.5YR7/8	橙 7.5YR7/6	良好	ヨコナデ ケズリの後ミガキ	ナデの後ミガキ						胎土 赤1mm/僅	353
	318	SH240	土師器 壺	(20.5)	—	—	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい橙 7.5YR6/4	良好	ナデ ヨコナデ	ヨコナデ						胎土 暗赤褐2mm/僅	356
	319	SH68	土師器 壺	—	(6.0)	—	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR6/4	良好	工具ナデ	指ナデ	4 多					底面 ハケ目の後ナデ	349
	320	SH2	須恵器 坏蓋	—	—	—	灰白 5Y8/1	灰白 5Y8/1	良好	回転ヘラケズリ 回転ナデ	回転ナデ						摩滅激しい 胎土 黒,灰2mm/僅	348
	321	SH118	須恵器 坏	—	—	—	黄灰 2.5Y6/1	黄灰 2.5Y6/1	良好	回転ナデ	回転ナデ						内面 自然釉 胎土 白,黒1mm/僅	350
p.54 第74図	326	SC21	土師器 高坏	—	—	—	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい黄橙 10YR7/4	良好	ヨコナデの後ミガキ	ヨコナデの後ミガキ		1 少				胎土 黒,褐1mm/僅	296
	327	SC21	土師器 高坏	—	—	—	橙 7.5YR7/6	橙 7.5YR6/8	良好	ヨコナデ ミガキ	ケズリ		1 僅				胎土 灰,褐,白1mm/僅	297
p.55 第75図	328	SE1	須恵器 坏蓋	(14.9)	—	—	黄灰 2.5Y6/1	黄灰 2.5Y6/1	良好	回転ナデ 回転ヘラケズリ	回転ナデの後ナデ		微 僅				胎土 茶微/僅	300
	329	SE1	須恵器 坏蓋	(11.3)	—	—	灰 5Y6/1	灰黄 2.5Y6/2	良好	回転ヘラケズリ 回転ナデ	回転ナデの後ナデ 回転ナデ		2 少				胎土 灰2mm/僅	301
	330	SE1	須恵器 皿	—	(10.3)	—	灰 5YR6/1	灰 5YR6/1	不良	回転ナデ 回転ヘラケズリ	回転ナデの後ナデ						底面 回転ナデ 回転ヘラケズリ	299
	331	SE1	土製品 土錘	長 3.05	幅 0.9	厚 0.8	黄灰 2.5Y6/1	—	良好	ナデ?	—							306
	332	SE1	平瓦	—	—	—				格子タタキ	布目痕							305
p.57 第77図	339	SE4	土師器 坏	(10.6)	(6.6)	4.4	橙 5YR6/6	橙 5YR6/8	良好	ヨコナデ 粗いミガキ	ヨコナデ ミガキ		微 少				底面 粗いミガキ 胎土 赤,暗褐1mm/多	326
	340	SE4	土師器 鉢	—	—	—	にぶい黄橙 10YR6/4	にぶい黄橙 10YR7/4	良好	ヨコナデ ナデ ケズリ	ヨコナデ		微 少		微 僅		布留式 有段口縁鉢	334
	341	SE4	土師器 甕	—	—	—	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい橙 7.5YR6/4	良好	平行タタキ 綱知	ヨコナデ ナデ ケズリ				微 少		胎土 赤微/少 暗褐微/多	333
	342	SE4	土師器 甕	(15.8)	—	—	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい黄橙 10YR7/4	良好	ヨコナデの後工具ナデ 平行タタキの後工具ナデ	ヨコナデ ナデ		1 少				外面 黒色物付着 胎土 赤,褐2mm/多	325
	343	SE4	土師器 甕	—	(8.0)	—	にぶい褐 7.5YR6/3	浅黄橙 7.5YR8/3	良好	ハケ目	ナデ		微 少				底面 木葉底 胎土 赤,暗褐1mm/多	329
	344	SE4	土師器 壺	(19.3)	—	—	黄橙 7.5YR7/8	黄橙 7.5YR8/8	良好	ヨコナデ ハケ目の後ナデ(摩滅著しい)	ヨコナデ(摩滅著しい)		微 多				胎土 暗褐1mm/多	327
	345	SE4	土師器 壺	—	(6.1)	—	橙 5YR6/8	橙 5YR6/8	良好	工具ナデ	ミガキ		微 少				底面 工具ナデ 胎土 赤,黒褐1mm/多	330
	346	SE4	須恵器 坏蓋	(18.0)	—	—	灰黄 2.5Y6/2	灰黄 2.5Y6/2	良好	回転ナデ 回転ヘラ切り 回転ヘラケズリ	回転ナデ 回転ナデの後ナデ						胎土 白,黒1mm/少	335
	347	SE4	須恵器 坏蓋	—	—	—	褐灰 7.5YR5/1	オリーブ灰 10Y5/2	良好	回転ナデ	回転ナデ					1 僅	内面 自然釉	342
	348	SE4	須恵器 坏蓋	(10.1)	—	1.35	褐灰 10YR4/1	褐灰 10YR5/1	やや良好	回転ナデ(風化著しい)	回転ナデの後ヘラ記号		1 少	1 少		2 少		338
	349	SE4	須恵器 坏	(16.5)	(11.6)	5.15	浅黄 2.5Y8/3	浅黄 2.5Y8/3	不良	回転ナデ 回転ヘラケズリの後ナデ	回転ナデ 回転ナデの後ナデ						底面 回転ケズリ 胎土 赤褐2mm/少	331
	350	SE4	須恵器 坏	(12.4)	(9.5)	4.6	灰黄褐 10YR6/2	灰黄褐 10YR5/2	やや良好	回転ナデ	回転ナデ ナデ 焼成後ヘラ記号						底面 回転ヘラ切り	337
	351	SE4	須恵器 坏	(14.8)	(9.9)	4.2	黄灰 2.5Y6/1	灰 5Y6/1	良好	回転ナデ	回転ナデ ハケ目					微 少	外面 自然釉 底面 回転ヘラ切り	336
	352	SE4	須恵器 坏	—	(11.0)	—	褐灰 10YR5/1	褐灰 10YR5/1	良好	回転ナデ	回転ナデ 回転ナデの後ナデ					2 僅	底面 ヘラ切り 回転ナデ	339
	353	SE4	須恵器 坏	(17.0)	—	—	にぶい黄橙 10YR7/2	灰黄褐 10YR6/2	やや良好	回転ナデ 回転ヘラケズリの後ナデ	回転ナデ					1 僅		340
	354	SE4	須恵器 坏	—	—	—	黄橙 10YR8/6	浅黄橙 10YR8/4	不良	回転ナデ 回転ケズリ	回転ナデ		微 多				胎土 暗褐微/多	328
	355	SE4	須恵器 コップ形須恵器	—	(6.9)	—	黄灰 2.5Y5/1	黄灰 2.5Y5/1	やや良好	回転ナデ 回転ヘラケズリ	回転ナデ					1 多	外内面 自然釉 底面 回転ヘラ切り	341
	356	SE4	須恵器 甕	—	—	—	黄橙 7.5YR8/8	黄橙 7.5YR8/8	不良	平行タタキ	当具痕 (同心円文)		1 少		微 少			332
p.58 第79図	359	SE3	土師器 坏	—	(7.1)	—	浅黄橙 7.5YR8/4	浅黄橙 7.5YR8/4	良好	回転ナデ	回転ナデ						摩滅激しい 底面 回転ヘラ切り 胎土 白,褐1	311
	360	SE3	土師器 塊	—	(6.6)	—	橙 7.5YR7/6	橙 5YR6/8	良好	回転ナデ	回転ナデ		微 少				底面 回転ナデ 胎土 明褐微/多	314
	361	SE3	土師器 塊	—	(6.6)	—	にぶい橙 7.5YR7/4	橙 5YR7/6	良好	回転ナデ	回転ナデ		微 僅				内面 赤色顔料か? 底面 回転ナデ 放射状の指ナデ	310
	362	SE3	土師器 高坏	—	—	—	にぶい橙 7.5YR7/4	橙 7.5YR7/6	良好	ナデ ハケ目 ヨコナデ	ミガキ		1 僅				胎土 灰,褐,白3mm/僅	313

※胎土 A:宮崎小石 B:長石・石英 C:輝石・角閃石 D:雲母 E:黒粒

第10表 出土土器観察表⑨

掲載頁図番号	番号	遺構等	種別 器種	法量cm ( ):復元 口径	底径	器高	色調 外面	内面	焼成	調整 外面	内面	胎土(上:mm 下:量) A	B	C	D	E	備考	実測番号
p.58 第79図	363	SE3	土師器 甕	−	(7.2)	−	橙 7.5YR7/6	橙 5YR6/6	良好	指ナデ ナデ	工具ナデ ナデ		微 僅	微 僅			底面 木葉底 胎土 茶1mm/僅	312
	364	SE3	平瓦							格子目タタキ	布目痕							321
	365	SE3	須恵器 坏蓋	(16.2)	−	−	にぶい黄橙 10YR6/4	明黄褐 10YR6/6	不良	回転ヘラケズリ 回転ナデ	回転ナデの後ナデ 回転ナデ		微 僅				つまみ欠損	316
	366	SE3	須恵器 坏	−	−	−	暗灰黄 2.5Y5/2	浅黄 2.5Y7/3	やや不良	回転ナデ	回転ナデ						胎土 白微/僅	315
	367	SE3	須恵器 甕	−	−	−	灰 7.5Y6/1	灰 7.5Y5/1	良好	回転ナデ 格子目タタキ	回転ナデ ナデ		微 多			1 僅		319
	368	SE3+W-SA群	須恵器 甕or壺	−	−	−	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい橙 7.5YR7/4	不良	平行タタキ ナデ	当具痕		微 多				胎土 褐微/多 灰1mm/少	309
	369	SE3	須恵器 甕	−	−	−	灰 N4/0	灰 N5/0	良好	平行タタキ	当具痕 (同心円文)		微 少			1 少		317
	370	SE3	須恵器 甕	−	−	−	灰 5Y6/1	灰 5Y6/1	良好	格子目タタキ (部分的にナデ消し)	工具による回転ナデの後ナデ 回転ナデ		微 多			1 少		318
p.59 第80図	375	カクラン	土師器 坏蓋	−	−	−	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい赤褐 5YR5/4	良好	回転ヘラケズリの後ミガキ 回転ナデ	回転ナデの後ミガキ 回転ナデ		1 僅	1 多				370
	376	SKKSG9	土師器 灯明皿	(12.6)	(7.7)	3.85	浅黄橙 10YR8/4	にぶい黄橙 10YR7/3	良好	回転ナデ 回転ヘラケズリ(風化著しい)	回転ナデ		微 僅				外面 灰色光沢物質 スス付着 内面 炭化物付着 底面 ヘラ切り	377
	377	SKKSG9	土師器 椀	−	(9.3)	−	にぶい橙 7.5YR7/4	灰 N4/0	良好	回転ナデ	ミガキ			1 僅			黒色土器A類 底面 回転ヘラ切り	376
	378	SKKSG9	土師器 高坏	−	−	−	にぶい褐 7.5YR5/3	にぶい赤褐 5YR4/3	良好	粗いミガキ	ミガキ ナデ						胎土 赤褐2mm/僅	378
	379	SKKSG9	土師器 甕	−	(7.2)	−	にぶい黄橙 10YR7/4	橙 7.5YR7/6	良好	ケズリ調ハケ目ナデ上げの後ナデ	ハケ目の後ナデ 指押さえ	2 少	1 少				輪台底 底面 粗いナデ	383
	380	カクラン +SKKSG9	土師器 甕	−	(7.5)	−	にぶい橙 7.5YR6/4	灰黄褐 10YR5/2	良好	ケズリ 部分的にハケ目痕	ナデ						外面 スス付着 底面 木葉底 胎土 褐4mm/多	371
	381	SKKSG9	須恵器 甕	−	−	−	にぶい橙 5YR7/4	橙 5YR6/6	やや良好	回転ナデ タタキ	回転ナデ 当具痕		1 僅	微 僅			焼成不良	374
	382	SKKSG9	須恵器 坏蓋	(12.7)	−	−	褐灰 10YR5/1	赤灰 2.5YR4/1	良好	回転ナデ	回転ナデ						外面 自然釉 胎土 灰白1mm/僅	384
	383	SKKSG9	須恵器 坏	(13.0)	(7.3)	3.95	灰 5Y6/1	黄灰 2.5Y5/1	良好	回転ナデ 回転ヘラケズリ	回転ナデ		微 僅				底面 回転ヘラ切り	381
	384	SKKSG9	須恵器 坏	−	(7.7)	−	にぶい赤褐 5YR5/4	にぶい褐 7.5YR5/3	不良	回転ナデ ナデ	回転ナデ			1 僅			底面 回転ナデ 胎土 黒1mm/僅	375
	385	SKKSG9	須恵器 坏	(15.1)	(10.0)	5.8	褐灰 10YR4/1	黄灰 2.5Y5/1	良好	ナデ 回転ナデ	ナデ ヨコナデの後ナデ						外面 自然釉 付着物 歪み 底面 回転ナデ 付着物 歪み 胎土 黒褐1mm/僅	379
	386	SKKSG9	須恵器 甕	(21.6)	−	−	灰 N4/0	黄灰 2.5Y5/1	良好	ナデ 回転ナデ	回転ナデ						外面 一部自然釉 胎土 黒3mm/僅	380
	387	SKKSG9	須恵器 長頸壺	−	(12.4)	−	褐灰 10YR5/1	黄灰 2.5Y5/1	良好	回転ナデ 回転ヘラケズリ	回転ナデの後ナデ	1 僅	微 僅				底面 回転ナデ	382
	388	SKKSG9	須恵器 甕	−	−	−	灰白 5Y8/2	褐 7.5YR4/3	良好	平行タタキ	当具痕 (同心円文)						外面 窯キズ 自然釉 内面 施釉	385
	390	SKKSG9	土製品 土錘	長 4.45	幅 1.3	厚 1.2	にぶい橙 7.5YR7/4	−	良好	ナデ	−						胎土 褐微/多	387
	391	SKKSG9	土製品 土錘	長 4.9	幅 2.0	厚 1.95	浅黄橙 10YR8/4	−	良好	ナデ	−		0.5 僅	微 僅			胎土 褐微/少	388
	392	SKKSG9	土製品 鞴の羽口	−	−	−	灰白 5Y8/1	浅黄橙 7.5YR8/4	良好	ナデ	ナデ						外面 被熱による色変化 ガラス質付着	389
	393	Eカクラン	土製品 人形	長 2.55	幅 2.15	厚 0.8	にぶい黄橙 10YR7/3	灰黄褐 10YR5/2	良好	−	−							372

※胎土 A:宮崎小石 B:長石・石英 C:輝石・角閃石 D:雲母 E:黒染

第11表 出土陶磁器観察表

掲載頁図番号	番号	遺構等	種別	器種	法量cm ( ):復元 口径	底径	器高	産地	時期	備考	実測番号
p.42 第52図	244	SA13	緑釉陶器	碗	(12.8)	−	−	防長産か	9C中葉	稜碗	87
p.43 第57図	265	SA35	緑釉陶器	坏	−	(6.7)	−				88
p.54 第74図	324	SC2	磁器	染付碗	(13.2)	5.0	5.2	波佐見		見込 五弁花 蛇の目釉剥ぎ 圏線 高台外面 圏線	294
	325	SC2	白磁	碗	−	4.0	−		14C後半〜16C	見込 目跡(5か所) 抉り高台	295
p.55 第75図	333	SE1	磁器	染付碗	(9.6)	(3.8)	5.0			高台外面 圏線	303
	334	SE1	磁器	染付碗	(12.6)	4.7	5.8			口縁部 圏線 見込 蛇の目釉剥ぎ 圏線 高台外面 圏線	302
	335	SE1	白磁	坏	−	−	−		11C後半〜12C前半	玉縁 白磁Ⅳ類碗	304
p.57 第77図	357	SE4	陶器	擂鉢	−	−	−	九州産か	18世紀代		343
	358	SE4	磁器	猪口	(6.9)	(2.8)	3.7				344
p.58 第79図	371	SE3	陶器	甕	−	−	−	常滑			320
p.59 第80図	389	SKKSG9	白磁	碗	−	−	−		11C後半〜12C前半	玉縁 白磁Ⅳ類碗	386

※ ( ) は残存法量

第12表 出土石器観察表

掲載頁図番号	番号	遺構等	器種	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考	実測番号
p. 13 第10図	46	SA47	敲石・磨石	砂岩	14. 1	9. 5	4. 4	736. 5		253
	47	SA47	砥石	砂岩	(20. 2)	11. 6	2. 65	(1078. 0)		252
	48	SA47	敲石・磨石	砂岩	19. 45	8. 2	4. 65	864. 0		251
	49	SA47	砥石	砂岩	9. 2	6. 5	1. 6	165. 8	砥面は使いこまれていない	254
p. 18 第14図	84	SA53	敲石	砂岩	14. 5	6. 85	4. 7	538. 1	一部スス付着 油脂光沢あり	290
	85	SA53	敲石	砂岩	(5. 7)	5. 65	4. 3	(205. 0)		293
	86	SA53	砥石	凝灰岩(天草石か)	(6. 05)	6. 15	(4. 25)	(173. 2)	光沢あり 赤化あり 鉄分付着	292
p. 23 第21図	129	W-SA群	敲石	砂岩	(14. 95)	6. 2	4. 05	(619. 0)		360
	130	W-SA群	敲石	砂岩	(11. 4)	6. 45	(4. 4)	(428. 0)		369
p. 26 第26図	151	SA26	敲石	砂岩	10. 3	7. 5	3. 1	(258. 5)		156
p. 27 第27図	152	SA26	敲石	砂岩	12. 45	6. 6	4. 95	386. 6		158
	153	SA26	敲石	砂岩	(10. 7)	5. 95	5. 3	(445. 8)		157
p. 28 第29図	161	SA28	敲石	砂岩	(8. 55)	8. 25	4. 65	(392. 7)		171
p. 31 第33図	185	SA11	台石	尾鈴山酸性岩	18. 8	11. 0	10. 3	3130		66
	186	SA11	砥石	砂岩	17. 2	18. 0	8. 0	2530		67
p. 33 第37図	195	SA12	敲石	砂岩	22. 2	11. 35	11. 95	3700		83
p. 40 第48図	232	SA9	敲石	頁岩	(10. 45)	11. 5	(2. 8)	(427. 3)		43
p. 41 第51図	240	SA10	敲石・磨石	砂岩	11. 0	10. 3	6. 0	919. 6		49
p. 43 第55図	256	SA16	軽石製品	軽石	(7. 6)	5. 75	4. 2	(52. 9)		99
	257	SA16	軽石製品	軽石	9. 65	5. 2	3. 85	(52. 2)		100
P. 43 第56図	262	SA29	敲石・磨石	砂岩	7. 2	4. 35	1. 75	74. 6		177
p. 48 第64図	302	SA7	敲石・磨石	砂岩	(8. 8)	(5. 5)	4. 4	(282. 1)		27
p. 52 第73図	322	SH236	軽石加工品	軽石	9. 05	4. 75	3. 0	29. 0		355
	323	SH136	敲石	砂岩	(7. 55)	(6. 8)	(2. 2)	(134. 0)		351
p. 55 第75図	336	SE1	敲石	砂岩	(8. 35)	6. 8	(4. 75)	(262. 5)	部分的に赤化	308
	337	SE1	軽石加工品	軽石	(5. 35)	5. 85	3. 3	(27. 1)	断面隅丸方形に整形、溝、穴あり	307
p. 58 第79図	372	SE3	敲石	砂岩	(12. 05)	(7. 5)	5. 05	(751. 0)		322
	373	SE3	不明	砂岩	9. 35	9. 65	4. 8	327. 1	器種不明 鍛冶関係？ 強く被熱	323
	374	SE3	軽石加工品	軽石	12. 2	9. 35	(3. 15)	(111. 0)		324
p. 59 第80図	394	カクラン	敲石	砂岩	(11. 15)	(7. 0)	5. 75	(582. 0)	被熱赤化	373

※（　）は残存法量

第13表 出土鉄器観察表

掲載頁	図番号	番号	遺構等	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考	実測No.
22	第20図	128	SA41	刀子	(10. 05)	1. 35	0. 55	(9. 9)		399
27	第27図	154	SA26	刀子	(7. 32)	1. 3	0. 45	(6. 5)		397
27	第27図	155	SA26	鉄鎌か(刃部片)	(4. 7)	2. 4	0. 4	(8. 1)		396
32	第36図	194	SA12	鉄鎌	(5. 2)	2. 15	0. 3	(6. 6)		394
35	第40図	213	SA36	棒状鉄製品、釘	(4. 25)	0. 5	0. 45	(1. 8)		398
38	第46図	224	SA20	鉄鎌	(8. 25)	2. 08	(1. 25)	(12. 4)		395
41	第51図	241	SA10	鏃	(5. 85)	1. 2	0. 55	(5. 2)		393
48	第63図	287	SA6	鉄片	5. 9	5. 9	1. 2	51. 8		392
48	第63図	288	SA6	不明鉄製品	(4. 95)	1. 0	0. 6	(6. 3)		391
48	第63図	289	SA6	棒状鉄製品	6. 8	0. 85	0. 4	5. 8		390
55	第75図	338	SE1	不明鉄製品	3. 95	2. 73	0. 83	(16. 0)		400

※（　）は残存法量

第Ⅲ章　まとめ

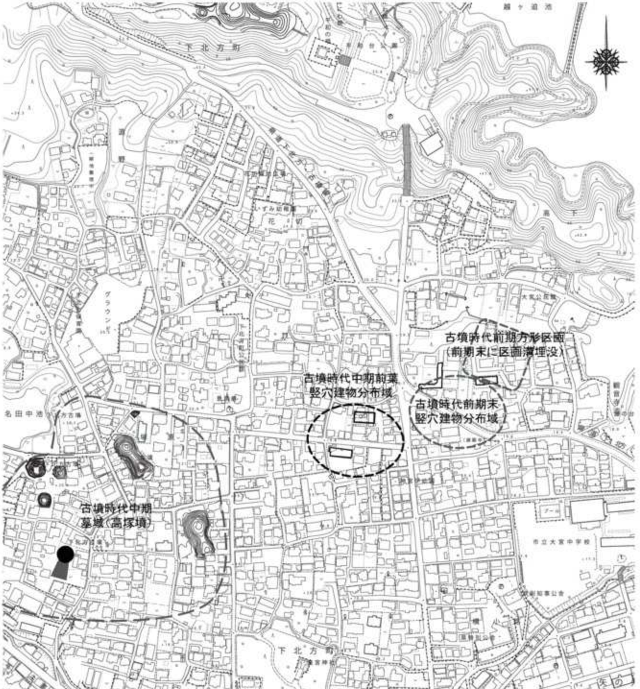
今回の調査では、弥生時代から近世までの遺構、遺物が確認された。ここでは、古墳時代中期と古代の調査成果に関して追記することによってまとめとしたい。

第1節　古墳時代中期の調査成果について

古墳時代中期に位置付けられる竪穴建物は、竪穴建物47、53、28の3軒である。この中で竪穴建物47、53は、主柱穴が2本と類似する構造で、建物主軸が47はN-11°-W、53はN-21°-Wとやや西に傾いた方向となる。出土遺物に関しては、両建物共に在来系が中心であるが、布留式系、伝統的近畿Ⅴ様式系も一定量含まれ、甕、高坏の器形から河野編年のⅨ期、古墳時代中期初頭に位置付けられる。布留式系土器は甕の他、高坏、X字形小型器台、有段口縁鉢（竪穴建物17出土133：本来は竪穴建物53帰属）が出土している。またその他の外来系土器としては、竪穴建物47で吉備系の甕が、竪穴建物53で成川式土器の甕が出土している。残る1軒の竪穴建物28は、撹乱や後出の竪穴建物に大部分を切られており遺物量は少ないが、混入の遺物を除くと布留式系の甕と小形丸底鉢が出土している。小形丸底鉢は破片資料のため位置付けに苦慮するが、頸部の屈曲が弱く稜が不明瞭となっていることから中期前葉段階と考えられる。下北方遺跡内でこれらの竪穴建物と近接する時期の遺構としては、今回調査区から南西に50mほどの距離にある第5地点の竪穴建物1、2が挙げられる。また、直前の前期末の竪穴建物や遺物が今回調査区から東北東約130m付近の第2地点、第3地点で確認されており、その周辺に同時期の竪穴建物群の広がりが想定されていることから、前期末葉から中期初頭、前葉にかけ、竪穴建物分布域が東から西へと移動している可能性がある。調査件数の多寡や、各々が時期を違えている点を考慮する必要があるが、下北方の段丘上において大形の方形区画（を有する施設、居館か）、集落域、高塚墳が分布する墓域と空間が分けられていた可能性がある。今後の調査成果の蓄積を待ちたい。

第2節　古代の調査成果について

今回の調査で確認された古代（古墳時代終末期含む）の竪穴建物は、7世紀前葉から9世紀中葉に位置付けられるが、中でも7世紀後葉から9世紀前葉の竪穴建物が中心となる。埋土の状況から、近接位置で埋戻しと建て替えを繰り返している状況が明らかになっており、このことから、今回調査地は古代前半期において常に居住空間であったことがわかる。一方、その建物規模を見ると、最大規模の竪穴建物10においても床面積が約24㎡にとどまり、特筆すべき規模をもつ建物は確認されていない。さらに、出土遺物も緑釉陶器が2点とコップ形須恵器が出土しているものの、墨書土器や刻書土器、陶硯など文字資料に関する遺物や大型の掘立柱建物等、官衙的な遺構が確認されていないことから、宮崎郡衙の推定地である下北方遺跡の中でも、それを支える一般的な集落の一部であったと考えられる。また、今回調査地から西に約170mの第7地点では、9世紀後半の古代寺院と想定されている2棟の大型掘立柱建物が検出されている。郡衙の中心地もその周辺と推定されるが、当該期の竪穴建物は今回の調査では確認されていないため、9世紀の中葉から後半にかけて土地利用の変化があったと想定される。



第81図　下北方遺跡遺構分布図(S=1/5000)

【主要参考文献】紙幅の都合から一部の論文や報告書等は割愛させていただいた。

今塩屋毅行 2004「南部九州古墳時代の火処 - 土器利用炉に着目して -」『福岡大学論集 - 小田富士雄先生退職記念 -』。

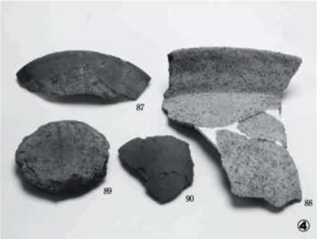
今塩屋毅行 2011「日向国における奈良時代の土器相～宮崎県西都市宮ノ東遺跡の調査事例から～」『宮崎県央地域の考古資料に関する編年的研究Ⅱ』。

河野裕次 2017「宮崎県の様相 - 宮崎県南部を中心に -」『九州島における古式土師器』第 19 回九州前方後円墳研究会。

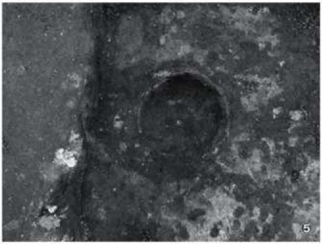
写真図版

①竪穴建物 47 完掘状況（南から）
②竪穴建物 47 遺物出土状況（南西から）
③竪穴建物 47 遺物出土状況近接
（南西から）
④竪穴建物 47 出土遺物１

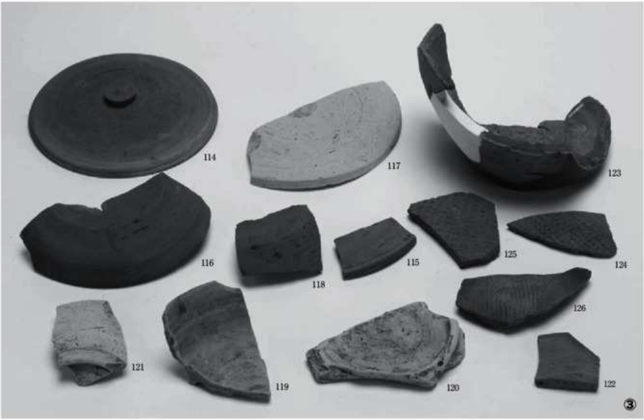
①竪穴建物 47 出土遺物 2　②竪穴建物 47 出土遺物 3
③竪穴建物 53 遺物出土状況（南東から）　④竪穴建物 53 出土遺物 1



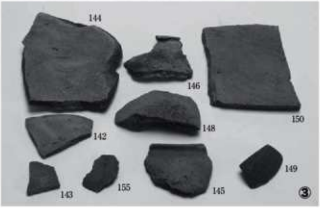
①竪穴建物 53 出土遺物 2　②竪穴建物 53 出土遺物 3
③竪穴建物 25 カマド調査状況（南西から）　④竪穴建物 25 出土遺物
⑤竪穴建物 41 カマド調査状況（南から）



①竪穴建物 41 カマド遺物出土状況（南西から） ②竪穴建物 41 カマド埋設土器内土層半裁状況（東から）
③竪穴建物 41 カマド及びカマド付近出土遺物 ④竪穴建物 42 カマド調査状況（西から）
⑤竪穴建物 42 土器埋設炉検出状況（北西から）

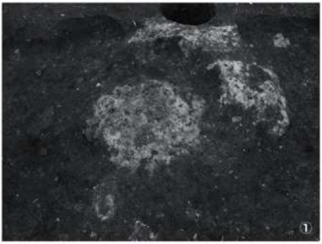


①竪穴建物 42 カマド及び土器埋設炉出土遺物　②竪穴建物 24、25、41、42 出土遺物 1
③竪穴建物 24、25、41、42 出土遺物 2　④竪穴建物 37 カマド調査状況（西から）
⑤竪穴建物 37 カマド出土遺物



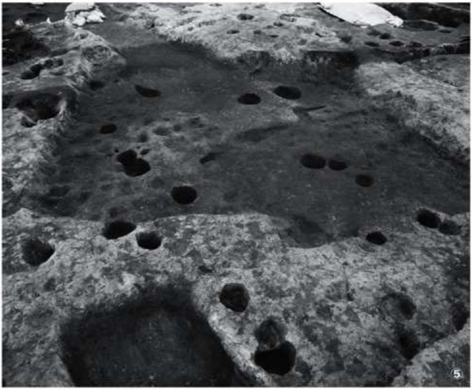
①竪穴建物 17 カマド調査状況（南から）
②竪穴建物 17 出土遺物
③竪穴建物 26 出土遺物 1
④竪穴建物 26 出土遺物 2
⑤竪穴建物 28 地焼炉調査状況（南から）
⑥竪穴建物 28 出土遺物
⑦竪穴建物 11 土器埋設炉調査状況（北東から）

①竪穴建物 11 出土遺物 1
②竪穴建物 11 出土遺物 2
③竪穴建物 12 カマド調査状況（西から）
④竪穴建物 12 出土遺物
⑤竪穴建物 12、18 完掘状況（南から）



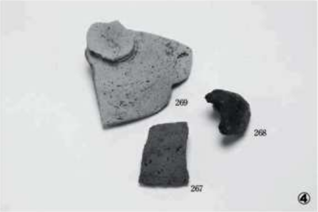
①竪穴建物 18 カマド調査状況（南西から）
②竪穴建物 18 出土遺物
③竪穴建物 36 出土遺物
④竪穴建物 27 カマド調査状況（南西から）
⑤竪穴建物 20、27 完掘状況（南東から）

図版９

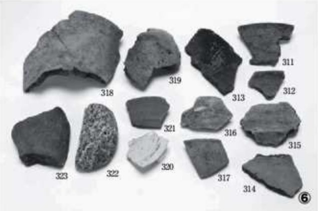


①竪穴建物 27 出土遺物
②竪穴建物 20 カマド調査状況（南から）
③竪穴建物 20 出土遺物
④竪穴建物 9 出土遺物
⑤竪穴建物 9、10、29 完掘状況（南東から）

①竪穴建物 10 カマド調査状況（西から）
②竪穴建物 10 出土遺物
③竪穴建物 13 完掘状況（南東から）
④竪穴建物 13 出土遺物
⑤竪穴建物 16 完掘状況（南東から）
⑥竪穴建物 16 カマド調査状況（南から）
⑦竪穴建物 16 出土遺物

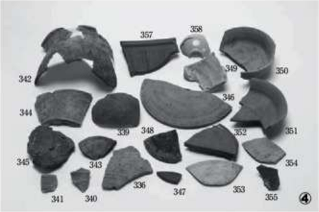


①竪穴建物 29 カマド調査状況（南西から）
②竪穴建物 29 出土遺物
③竪穴建物 35 出土遺物
④竪穴建物 38 出土遺物
⑤竪穴建物 5、22 調査状況（南西から）
⑥竪穴建物 14 調査状況（南西から）
⑦竪穴建物 5、14、22 出土遺物



①竪穴建物 6、7、8 調査状況（南西から）
②竪穴建物 6 出土遺物
③竪穴建物 7 カマド粘土検出状況（西から）
④竪穴建物 7 出土遺物
⑤竪穴建物 7、8 出土遺物
⑥掘立柱建物 50、土坑、溝状遺構、ピット出土遺物
⑦土坑 48 完掘状況（北から）

①土坑 49 完掘状況（西から）
②溝状遺構 45 完掘状況（南東から）
③溝状遺構 33 完掘状況（南から）
④土坑 21 完掘状況（南から）　⑤土坑 55 完掘状況（南西から）
⑥土坑 5 漆膜出土状況　⑦中近世土坑出土遺物



①溝状遺構 1 完掘状況（西から）
②溝状遺構 1 出土遺物
③溝状遺構 4 完掘状況（北から）
④溝状遺構 4 出土遺物
⑤溝状遺構 3 完掘状況（北から）
⑥溝状遺構 3 出土遺物 1

①溝状遺構 3 出土遺物 2
②その他出土遺物
③遺構完掘状況（西から）

報告書抄録

ふりがな	しもきたかたいせきだいよんちてん
書名	下北方遺跡（第4地点）
副書名	集合住宅建築に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ名	宮崎市文化財調査報告書
シリーズ番号	第145集
編著者名	石村 友規
発行機関	宮崎市教育委員会
所在地	〒889-1696　宮崎市清武町西新町1番地1
発行年月日	2024年3月28日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
下北方遺跡（第4地点）	宮崎市下北方町下郷6008番2 外	45201	2-165	31°56′37″付近	131°24′54″付近	2018.11.1～2019.2.8	372㎡	その他建物

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な出土遺物	特記事項
下北方遺跡（第4地点）	集落地 散布地	古墳 古代 中世 近世	竪穴建物 掘立柱建物 土坑 溝状遺構	土師器・須恵器・石器・鉄製品・中近世陶磁器	

要約	下北方遺跡（第4地点）	古墳時代中期と古代（古墳時代終末期含む）の集落跡が確認された。古墳時代中期の竪穴建物は3軒確認され、その内2軒から中期初頭の纏まった量の土器が出土した。出土した土器は在来系が主体であるものの、布留式系や伝統的畿内第5様式系など外来系の土器も一定量出土している。古代の竪穴建物は30軒検出されており、近接位置で繰り返し建て替えを繰り返している。

宮崎市文化財調査報告書　第 145 集

下北方遺跡（第 4 地点）

集合住宅建築に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

2024 年 3 月
発　行　宮崎市教育委員会